

Ⅲ 調査結果の分析

1 定住性

1 - 1 居住年数

1 - 2 定住・転出意向

1 定住性

1-1 居住年数

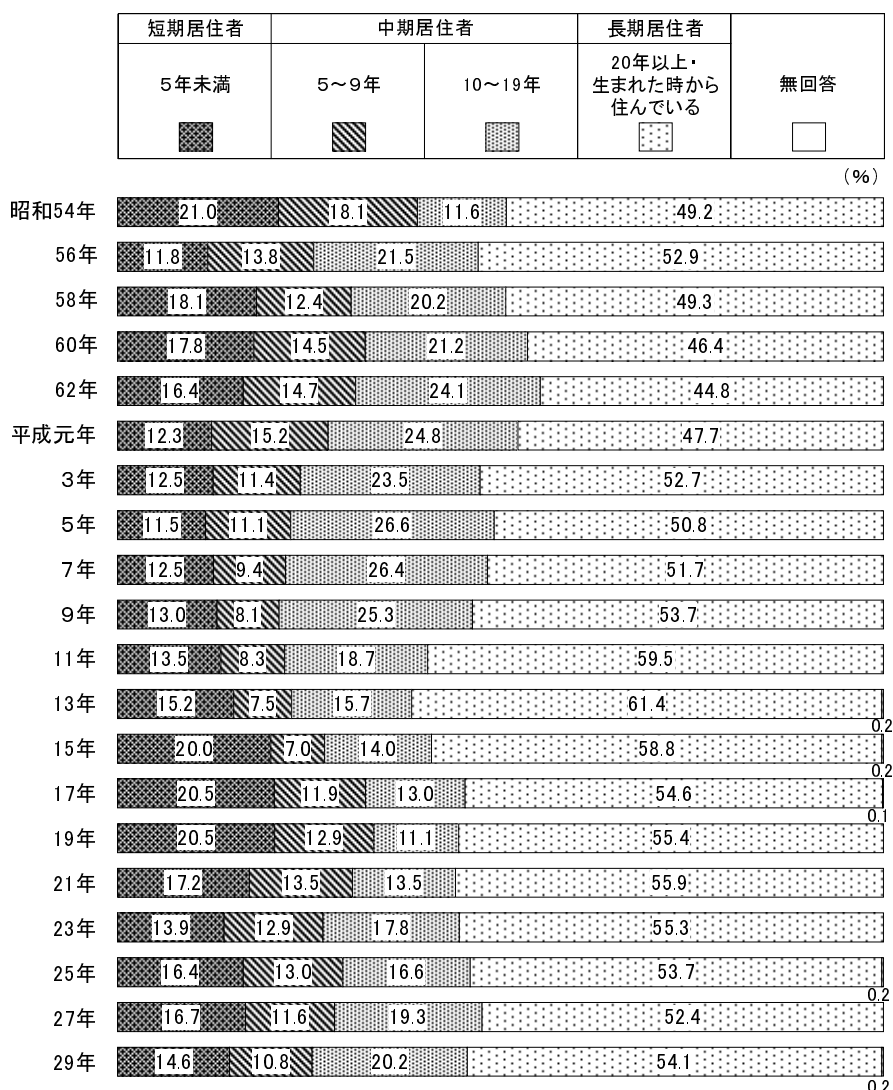
◇《長期居住者》は5割台半ば

問 1	あなたは、江東区に住んで何年になりますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。 (回答者数=980)				
1	5年未満	14.6%	4	20年以上	36.9%
2	5～9年	10.8%	5	生まれた時から住んでいる	17.2%
3	10～19年	20.2%		無回答	0.2%

居住年数については、「20年以上」（36.9%）と「生まれた時から住んでいる」（17.2%）の2つを合わせた《長期居住者》（54.1%）が5割台半ばとなっている。「5～9年」（10.8%）と「10～19年」（20.2%）の2つを合わせた《中期居住者》（31.0%）は3割を超え、「5年未満」の《短期居住者》（14.6%）は1割台半ばとなっている。

時系列の変化をみると、《長期居住者》は平成21年から減少傾向にあったが、今回調査では増加に転じている。（図表1-1-1）

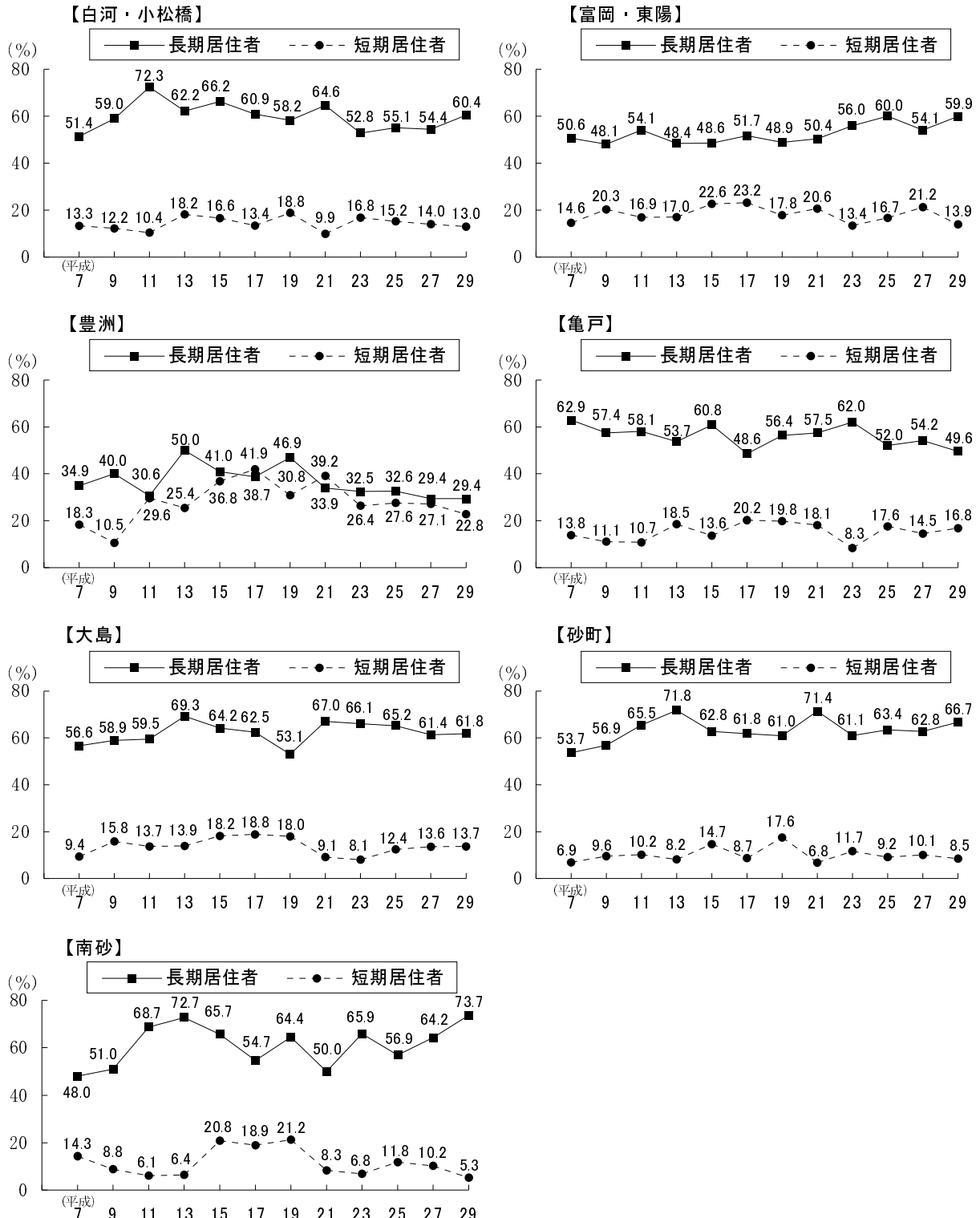
図表1-1-1 居住年数一時系列比較



【地区別長期・短期居住者の推移】

地区別で、《長期居住者》と《短期居住者》の推移をみると、《長期居住者》は前回調査と比べて【南砂】地区で10ポイント、【白河・小松橋】地区と【富岡・東陽】地区で6ポイント、それぞれ高くなっており、【亀戸】地区で5ポイント低くなっている。また、《短期居住者》は前回調査と比べて【富岡・東陽】地区で7ポイント、【南砂】地区で5ポイント、それぞれ低くなっている。（図表1-1-2）

図表1-1-2 居住年数（長期・短期居住者の推移）－地区別



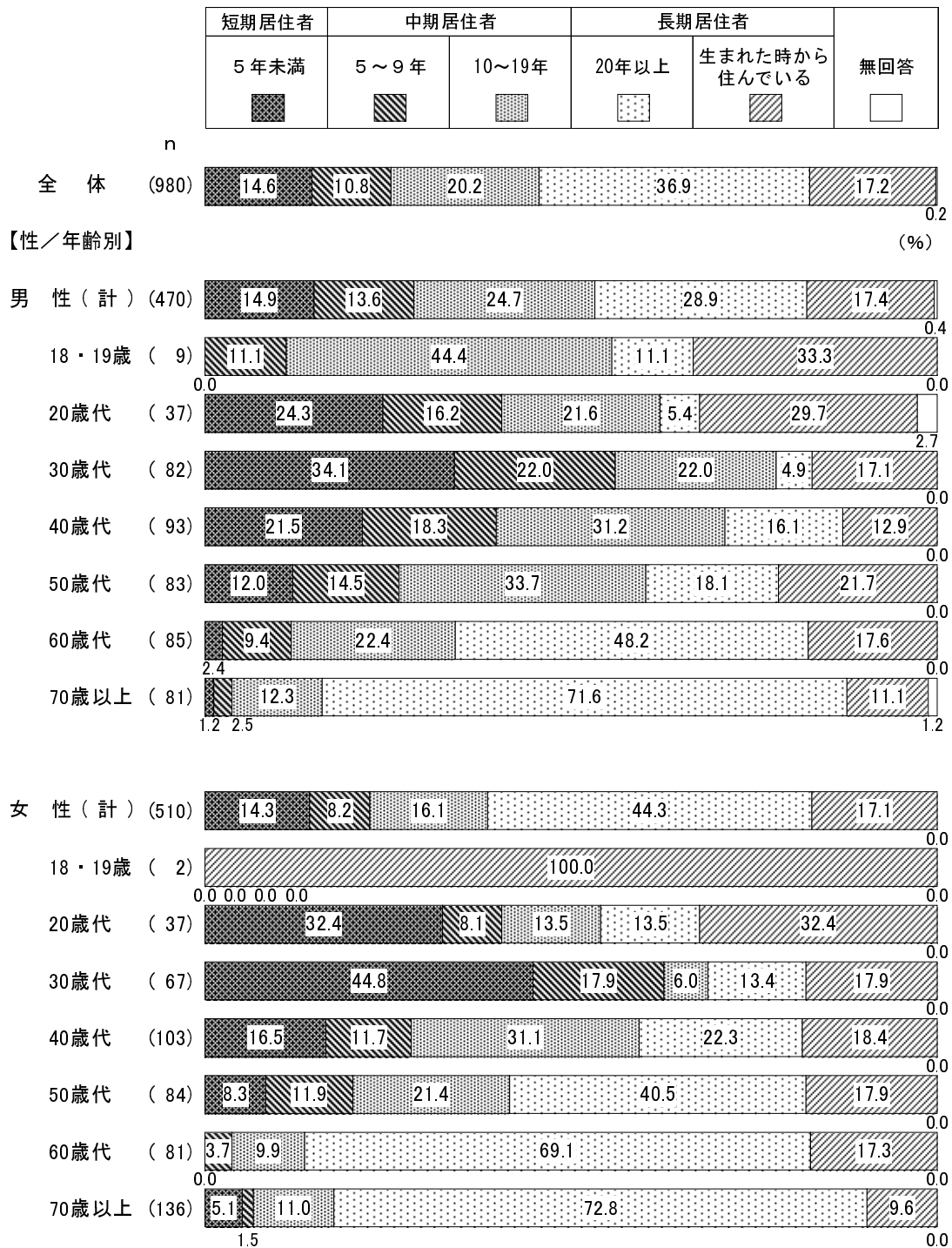
【性別・性／年齢別】

性別でみると、「20年以上」は女性の方が男性より15ポイント高く、「10～19年」は男性の方が女性より9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、《短期居住者》は女性30歳代で4割台半ばとなっている。《中期居住者》は男性40歳代で5割、《長期居住者》は女性60歳代で8割台半ばとなっている。

(図表1-1-3)

図表1-1-3 居住年数－性別・性／年齢別



1-2 定住・転出意向

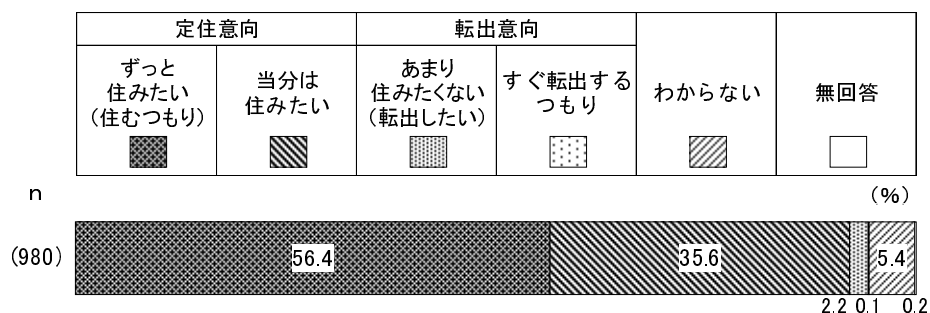
◇《定住意向》は9割を超える

問2	あなたは、これからも江東区に住みたいと思いますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=980)				
1	ずっと住みたい(住むつもり)	56.4%	4	すぐ転出するつもり	0.1%
2	当分は住みたい	35.6%	5	わからない	5.4%
3	あまり住みたくない(転出したい)	2.2%		無回答	0.2%
問2-1	(問2で、「1」か「2」とお答えの方に) あなたが、住みたい理由を次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。 (回答者数=902)		問2-2	(問2で、「3」か「4」とお答えの方に) あなたが、住みたくない理由を次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。 (回答者数=23)	
1	自分の家(土地)だから	43.9%	1	借家だから	17.4%
2	商売の関係で	4.8%	2	商売にならないから	-
3	通勤・通学に便利	28.7%	3	通勤・通学に不便	8.7%
4	生活環境がよい	18.3%	4	生活環境が悪い	34.8%
5	こどもの教育上	2.2%	5	こどもの教育上よくない	-
6	日常生活に便利	38.4%	6	日常生活に不便	8.7%
7	住みなれているから	35.1%	7	人情味がない	17.4%
8	人情に厚く、親切	2.8%	8	災害に対し危険	34.8%
9	UR・公社・都営・区営の 住宅に入れたから	4.5%	9	交通事故が多い	4.3%
10	その他	2.3%	10	その他	30.4%
	無回答	0.2%			

(1) 定住・転出意向

定住・転出意向については、「ずっと住みたい(住むつもり)」(56.4%)と「当分は住みたい」(35.6%)の2つを合わせた《定住意向》(92.0%)は9割を超えている。一方、「あまり住みたくない(転出したい)」(2.2%)、「すぐ転出するつもり」(0.1%)はわずかとなっている。(図表1-2-1)

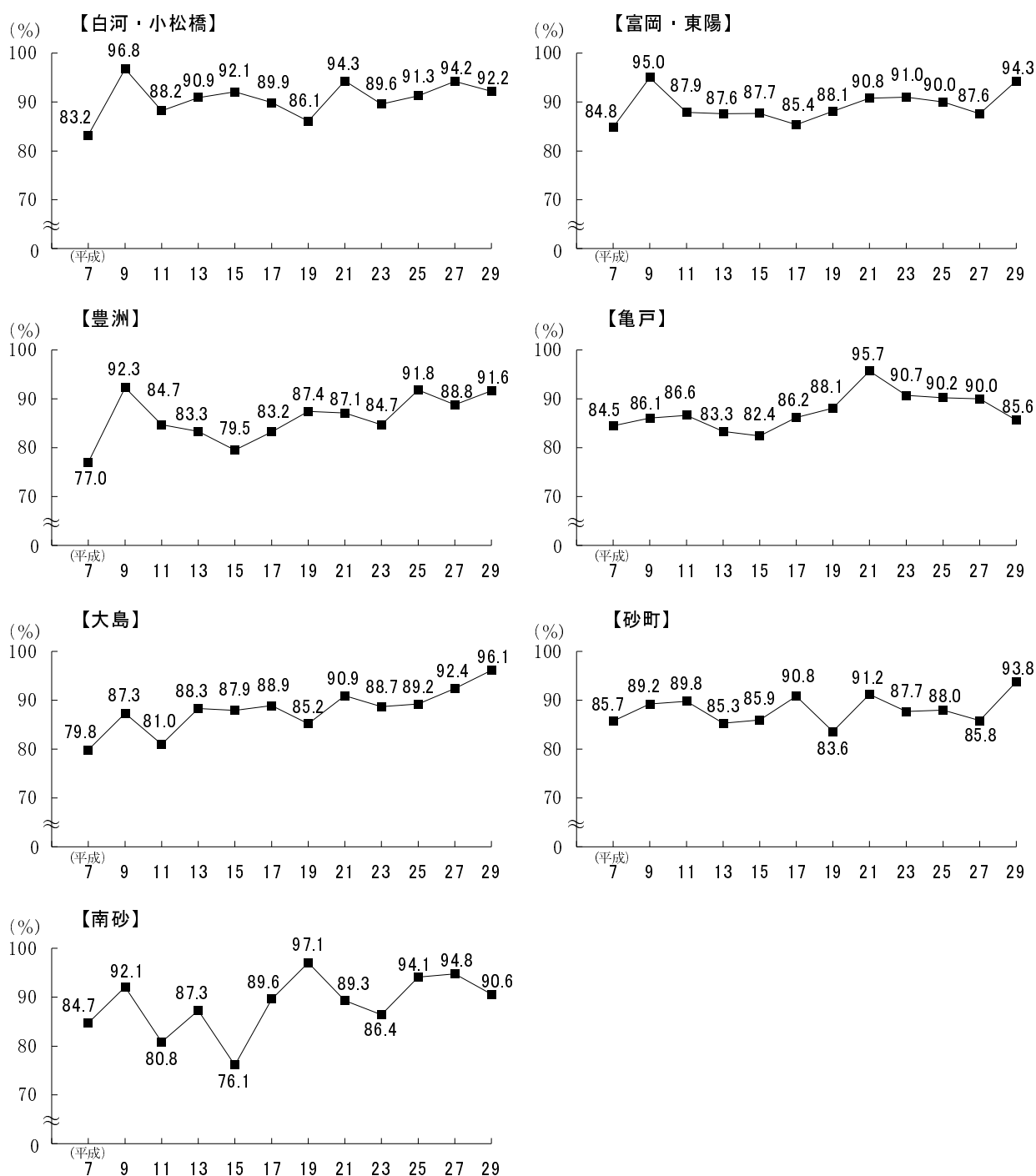
図表1-2-1 定住・転出意向



【地区別定住意向の推移】

地区別で《定住意向》の推移をみると、前回調査と比べて【砂町】地区で8ポイント、【富岡・東陽】地区で7ポイント、それぞれ高くなっており、【亀戸】地区と【南砂】地区でそれぞれ4ポイント低くなっている。また、すべての地区で8割以上となっており、全体として各地区とも引き続き高い状態を保っている。（図表1-2-2）

図表1-2-2 定住意向の推移—地区別

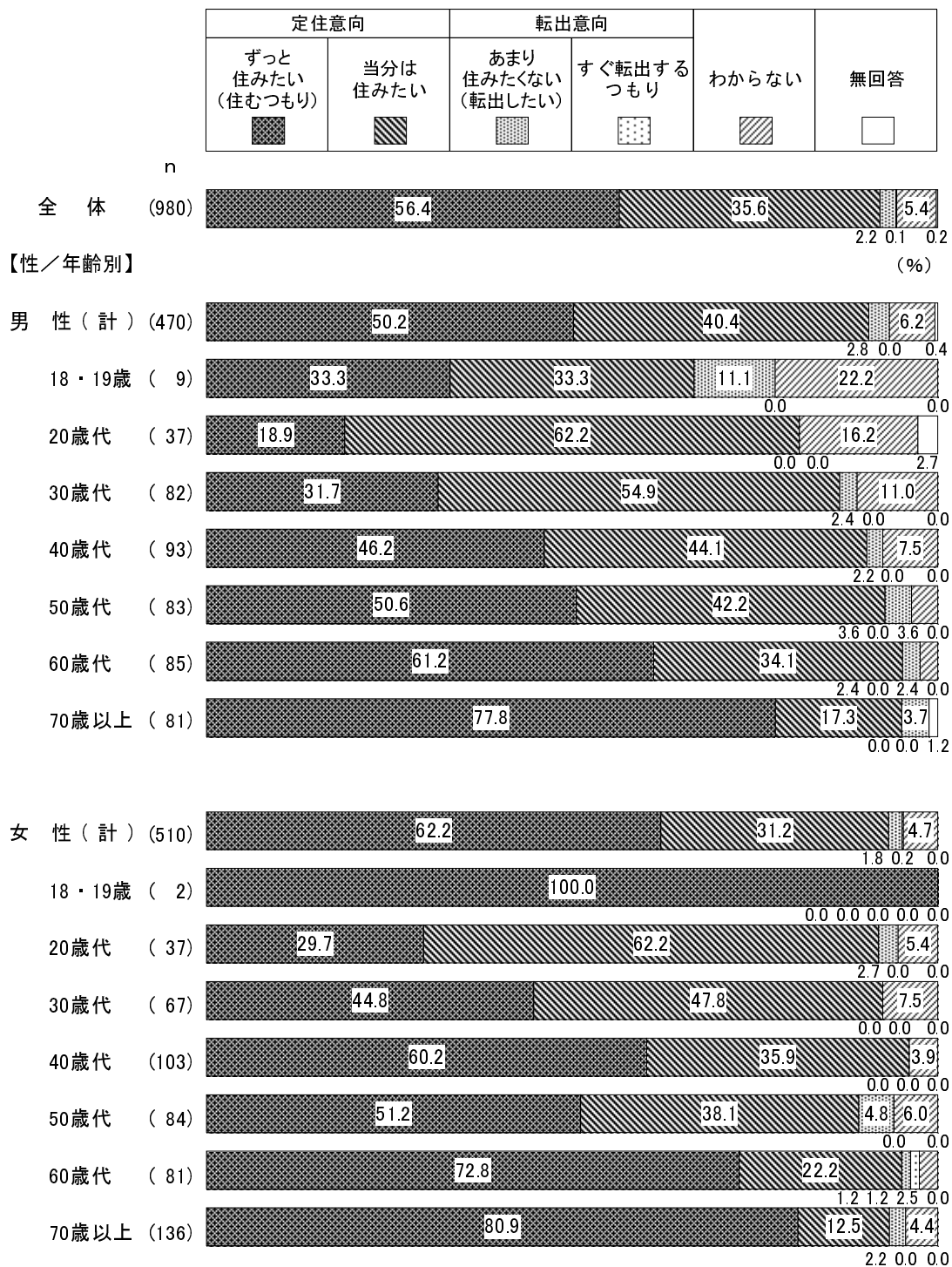


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「ずっと住みたい（住むつもり）」は女性の方が男性より12ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「ずっと住みたい（住むつもり）」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高く、女性70歳以上ではほぼ8割となっている。（図表1-2-3）

図表1-2-3 定住・転出意向－性別・性／年齢別



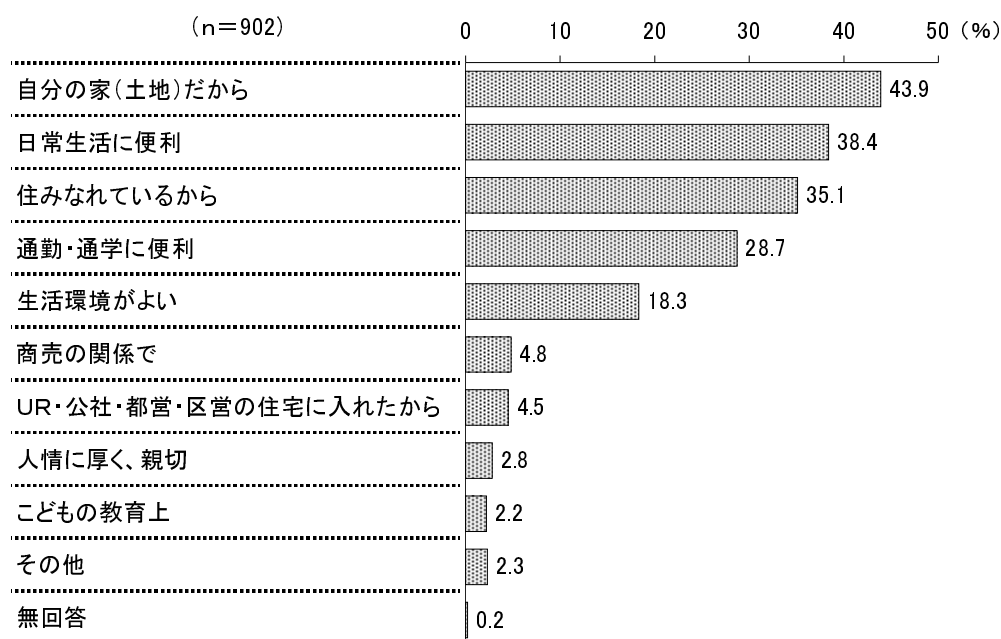
(2) 定住意向理由

◇「自分の家（土地）だから」が4割を超える

定住意向理由については、「自分の家（土地）だから」（43.9%）が4割を超えて最も多く、次いで「日常生活に便利」（38.4%）、「住みなれているから」（35.1%）と続いている。

（図表1-2-4）

図表1-2-4 定住意向理由（複数回答）

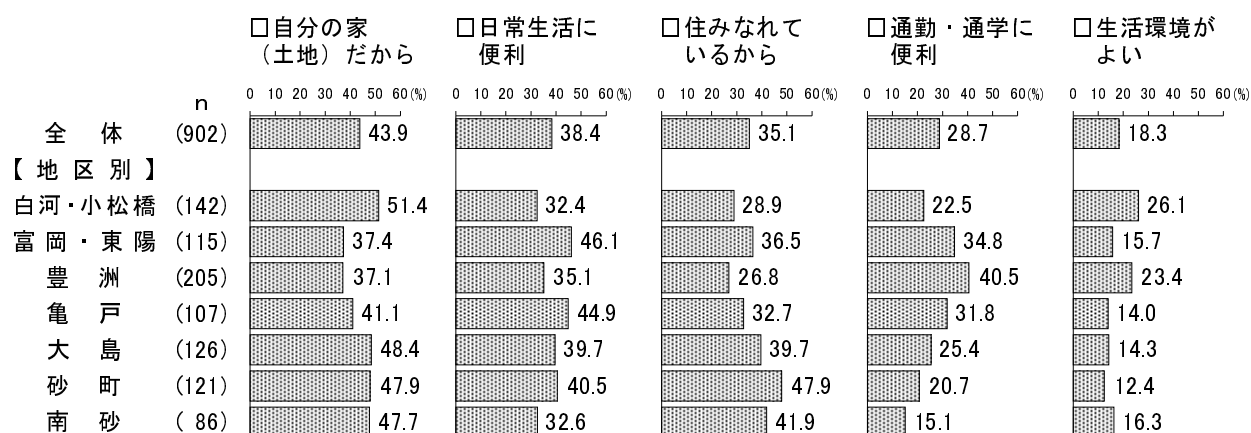


【地区別】

地区別でみると、「自分の家（土地）だから」は【白河・小松橋】地区で5割を超え、「日常生活に便利」は【富岡・東陽】地区で4割台半ばとなっている。「住みなれているから」は【砂町】地区で5割近く、「通勤・通学に便利」は【豊洲】地区でほぼ4割となっている。

（図表1-2-5）

図表1-2-5 定住意向理由—地区別（上位5項目）



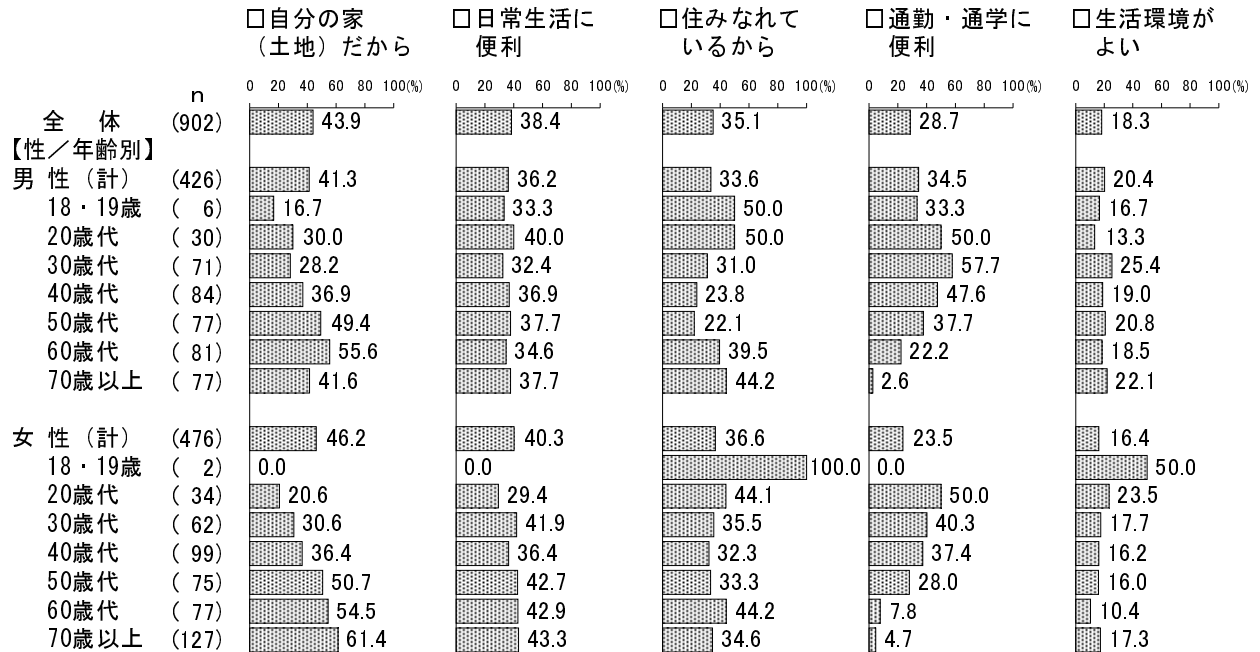
【性別・性／年齢別】

性別でみると、「通勤・通学に便利」は男性の方が女性より 11 ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「自分の家（土地）だから」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなっている。「通勤・通学に便利」は男性 30 歳代で 6 割近くとなっている。

(図表 1-2-6)

図表 1-2-6 定住意向理由—性別・性／年齢別（上位 5 項目）



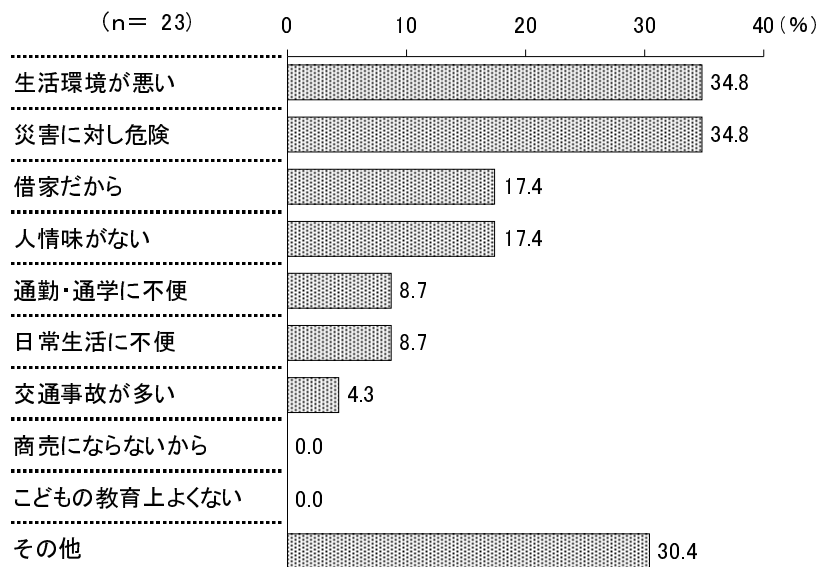
(3) 転出意向理由

◇「生活環境が悪い」と「災害に対し危険」が 3 割台半ば

転出意向理由としては、「生活環境が悪い」と「災害に対し危険」（ともに 34.8%）が 3 割台半ばで最も多く、次いで「借家だから」と「人情味がない」（ともに 17.4%）が続いている。

(図表 1-2-7)

図表 1-2-7 転出意向理由（複数回答）



2 区民交流

2-1 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流

2 区民交流

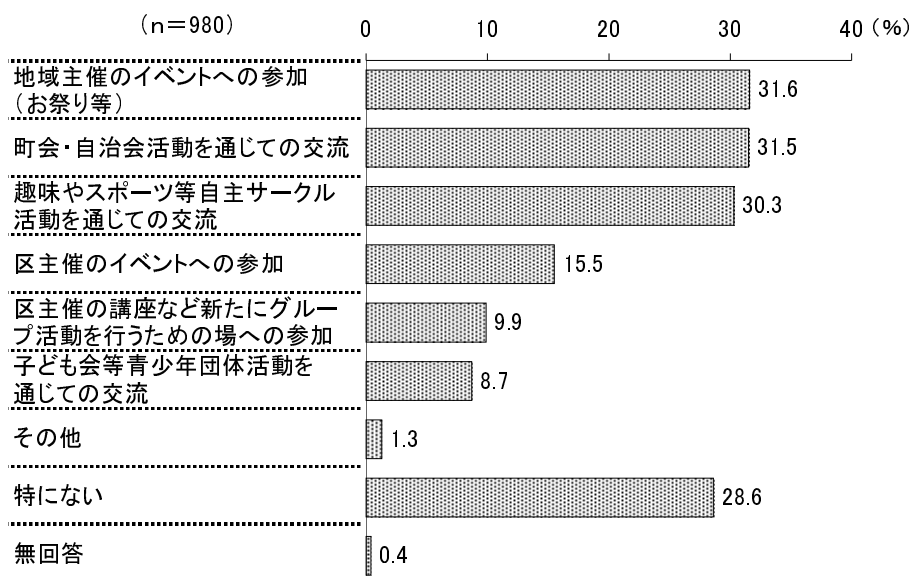
2-1 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流

◇「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」と「町会・自治会活動を通じての交流」が3割を超える

問3	ご近所の中で新たに江東区に住まれた方と、以前から住んでいる方が交流を深める場合、あなたはどのようなことなら参加できますか。次の中から <u>すべて</u> 選んでください。 (回答者数=980)	
1	町会・自治会活動を通じての交流	31.5%
2	子ども会等青少年団体活動を通じての交流	8.7%
3	趣味やスポーツ等自主サークル活動を通じての交流	30.3%
4	区主催の講座など新たにグループ活動を行うための場への参加	9.9%
5	区主催のイベントへの参加	15.5%
6	地域主催のイベントへの参加（お祭り等）	31.6%
7	その他	1.3%
8	特にない	28.6%
	無回答	0.4%

新たに江東区に住んだ区民と、以前から江東区に住んでいる区民が交流を深めるために参加できることは何か聞いたところ、「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」（31.6%）と「町会・自治会活動を通じての交流」（31.5%）が3割を超えて多く、次いで「趣味やスポーツ等自主サークル活動を通じての交流」（30.3%）と続いている。（図表2-1-1）

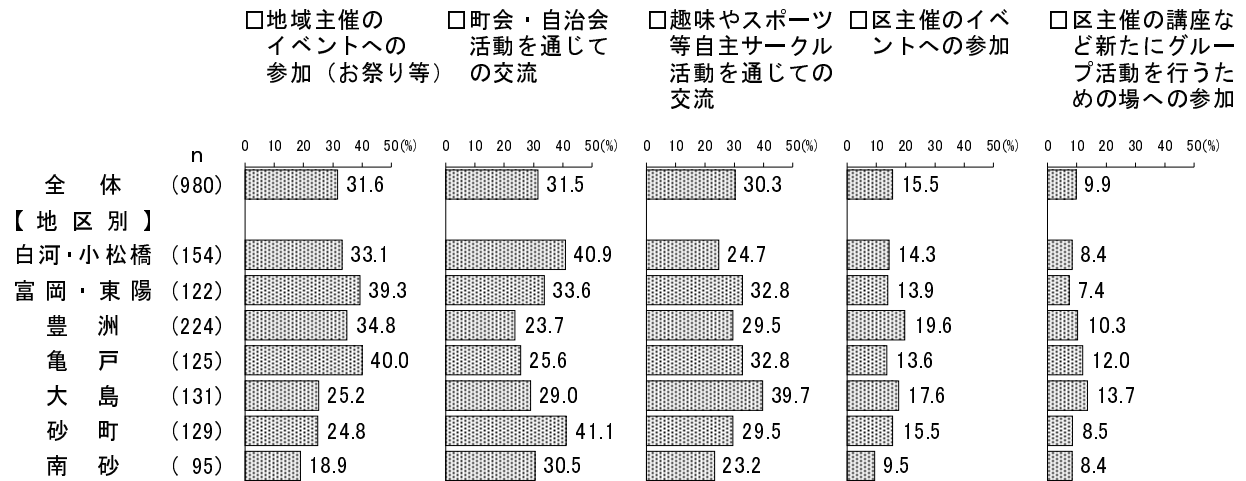
図表2-1-1 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流（複数回答）



【地区別】

地区別でみると、「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」は【亀戸】地区と【富岡・東陽】地区で4割前後となっている。「町会・自治会活動を通じての交流」は【砂町】地区と【白河・小松橋】地区で4割台、「趣味やスポーツ等自主サークル活動を通じての交流」は【大島】地区で4割となっている。（図表2-1-2）

図表2-1-2 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流—地区別（上位5項目）

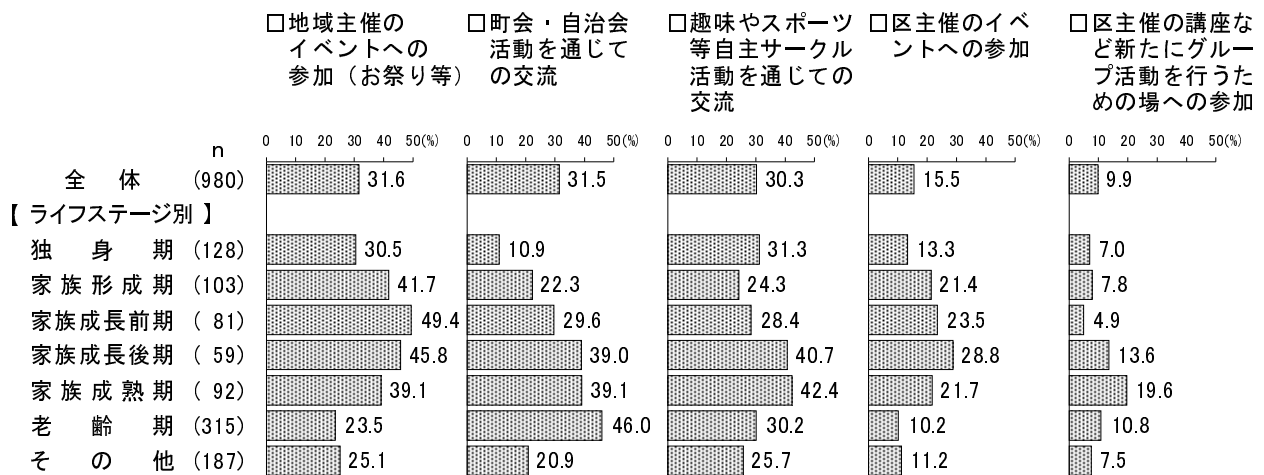


【ライフステージ別】

ライフステージ別でみると、「地域主催のイベントへの参加（お祭り等）」は家族成長前期でほぼ5割となっている。「町会・自治会活動を通じての交流」はライフステージ段階を重ねるほど割合が高く、高齢期で4割台半ばとなっている。（図表2-1-3）

図表2-1-3 新たに住んだ区民と以前から住んでいる区民との交流

—ライフステージ別（上位5項目）



3 男女共同参画

3 - 1 夫婦間の家事の役割分担

3 男女共同参画

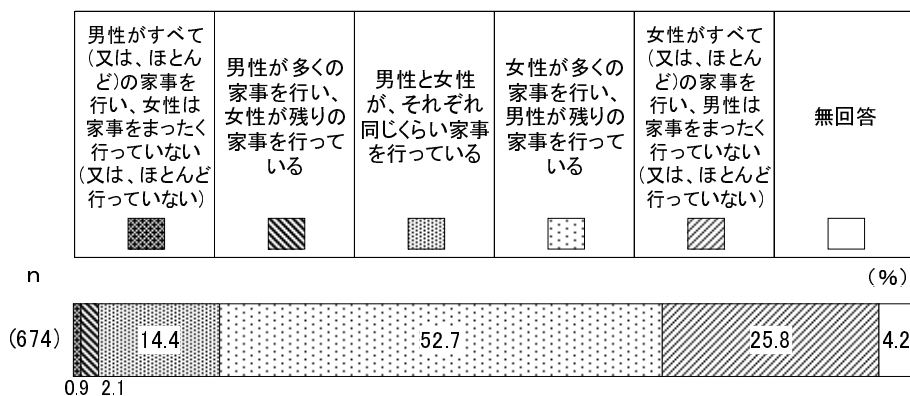
3-1 夫婦間の家事の役割分担

◇「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」が5割を超える

問4	夫婦間の家事の役割分担について、もっとも近いものを次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=674)	
1	男性がすべて(又は、ほとんど)の家事を行い、 女性は家事をまったく行っていない(又は、ほとんど行っていない)	0.9%
2	男性が多くの家事を行い、女性が残りの家事を行っている	2.1%
3	男性と女性が、それぞれ同じくらい家事を行っている	14.4%
4	女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている	52.7%
5	女性がすべて(又は、ほとんど)の家事を行い、 男性は家事をまったく行っていない(又は、ほとんど行っていない)	25.8%
	無回答	4.2%

夫婦間の家事の役割分担について聞いたところ、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」(52.7%)が5割を超えて最も多く、次いで「女性がすべて(又は、ほとんど)の家事を行い、男性は家事をまったく行っていない(又は、ほとんど行っていない)」(25.8%)、「男性と女性が、それぞれ同じくらい家事を行っている」(14.4%)と続いている。(図表3-1-1)

図表3-1-1 夫婦間の家事の役割分担

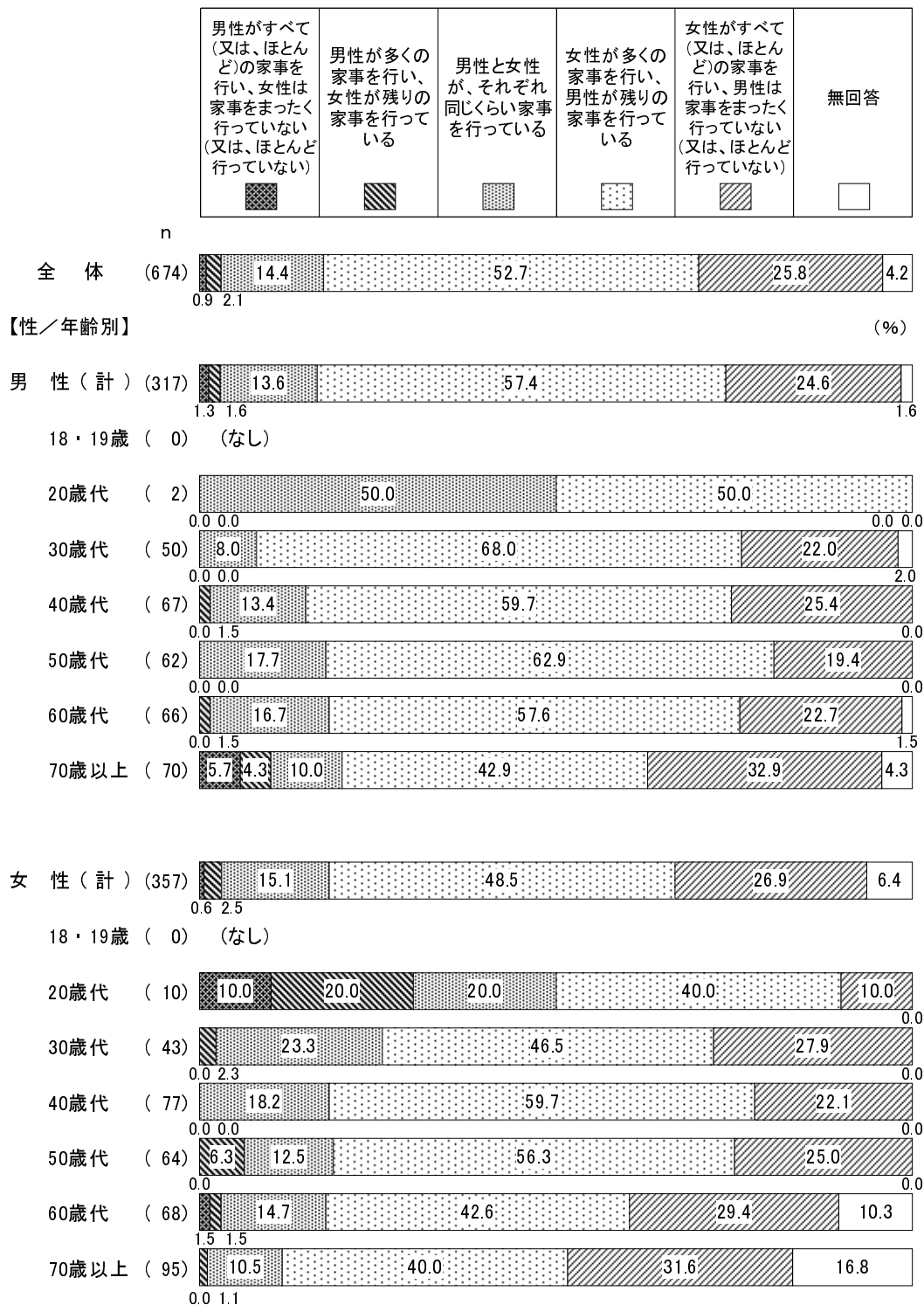


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」は男性の方が女性より9ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」は男性30歳代で7割近くとなっている。「女性がすべて（又は、ほとんど）の家事を行い、男性は家事をまったく行っていない（又は、ほとんど行っていない）」は男女とも70歳以上で3割を超えている。（図表3-1-2）

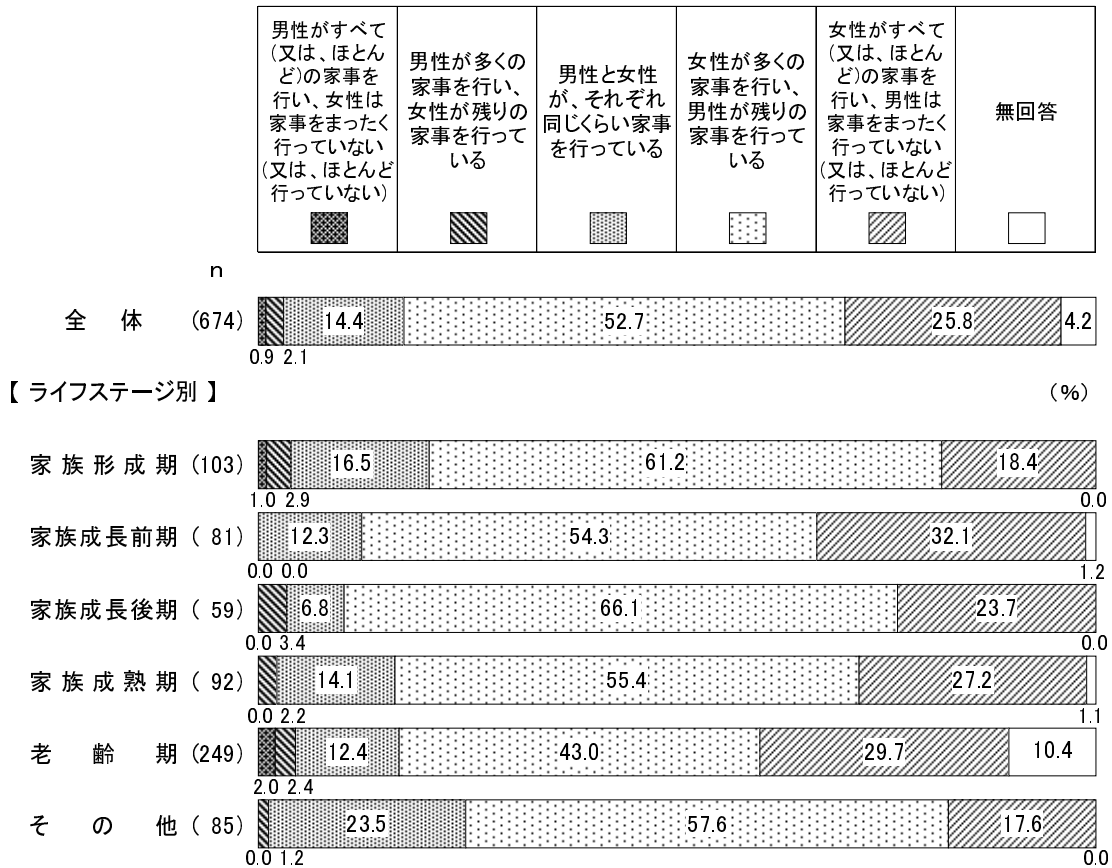
図表3-1-2 夫婦間の家事の役割分担—性別・性／年齢別



【ライフステージ別】

ライフステージ別でみると、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」は家族成長後期で6割台半ばとなっている。「女性がすべて（又は、ほとんど）の家事を行い、男性は家事をまったく行っていない（又は、ほとんど行っていない）」は家族成長前期で3割を超えている。（図表3-1-3）

図表3-1-3 夫婦間の家事の役割分担－ライフステージ別



4 防災対策

-
- 4 - 1 震災時の不安
 - 4 - 2 震災時の備え
 - 4 - 3 家庭内で準備している防災用品・用具
 - 4 - 4 防災対策への要望
-

4 防災対策

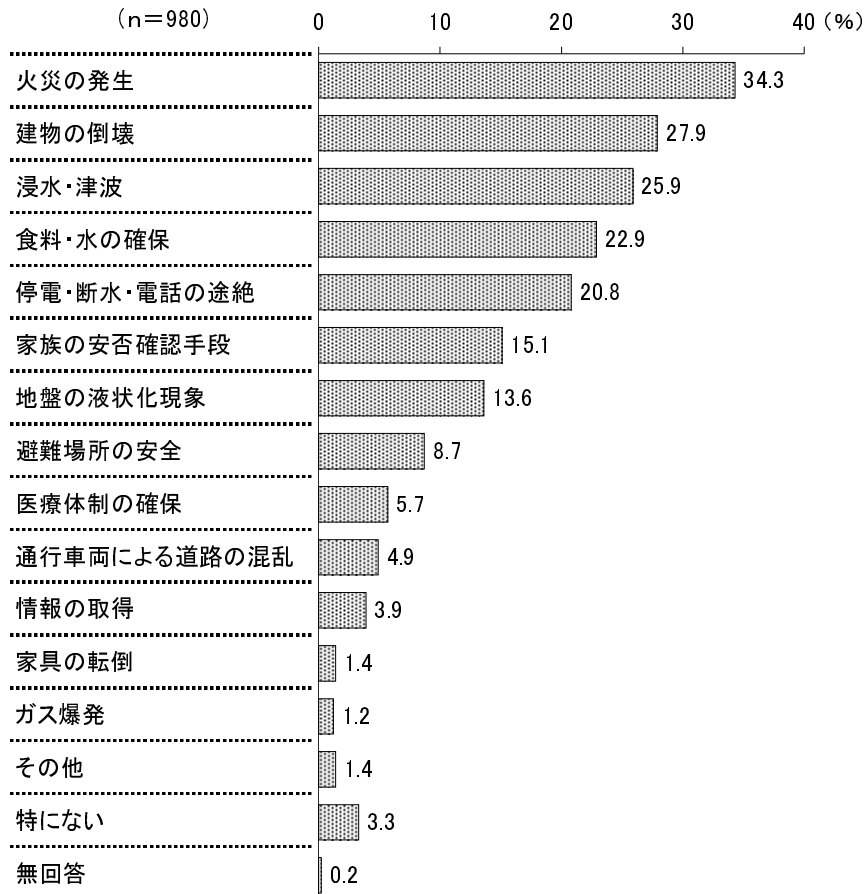
4-1 震災時の不安

◇「火災の発生」が3割台半ば

問5	今後、東京に大地震が発生した場合に、あなたが特に不安だと思うことを次の中から <u>2つ</u> まで選んでください。(回答者数=980)				
1	火災の発生	34.3%	9	避難場所の安全	8.7%
2	ガス爆発	1.2%	10	家族の安否確認手段	15.1%
3	浸水・津波	25.9%	11	食料・水の確保	22.9%
4	地盤の液状化現象	13.6%	12	医療体制の確保	5.7%
5	建物の倒壊	27.9%	13	家具の転倒	1.4%
6	通行車両による道路の混乱	4.9%	14	その他	1.4%
7	停電・断水・電話の途絶	20.8%	15	特にない	3.3%
8	情報の取得	3.9%		無回答	0.2%

大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「火災の発生」（34.3%）が3割台半ばで最も多く、次いで「建物の倒壊」（27.9%）、「浸水・津波」（25.9%）、「食料・水の確保」（22.9%）と続いている。（図表4-1-1）

図表4-1-1 震災時の不安（複数回答）

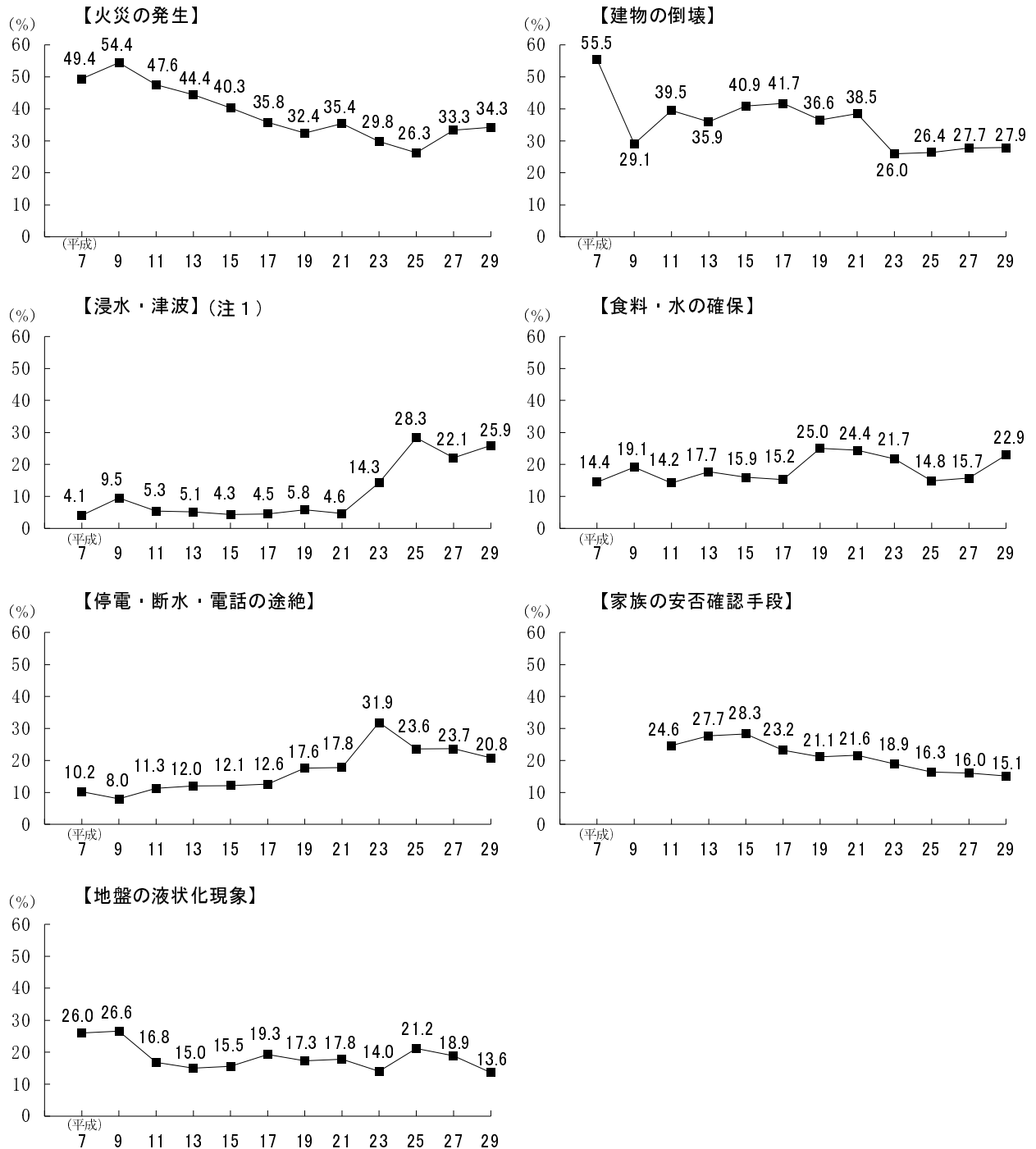


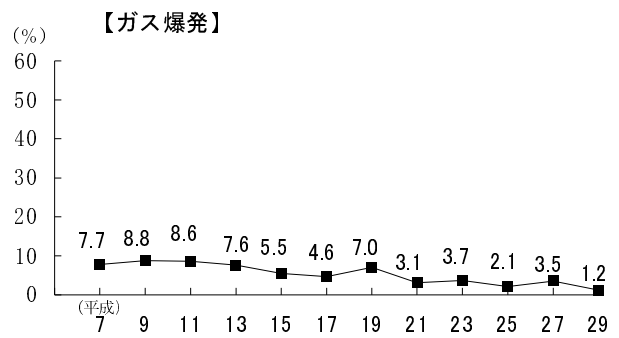
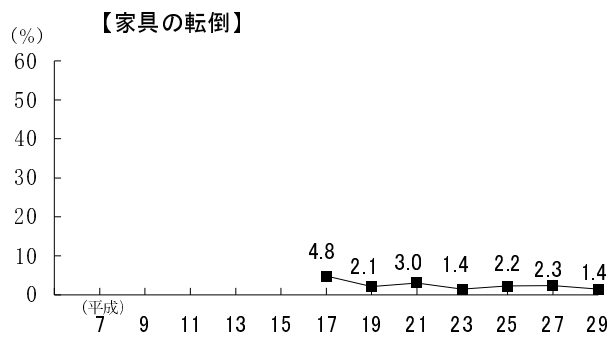
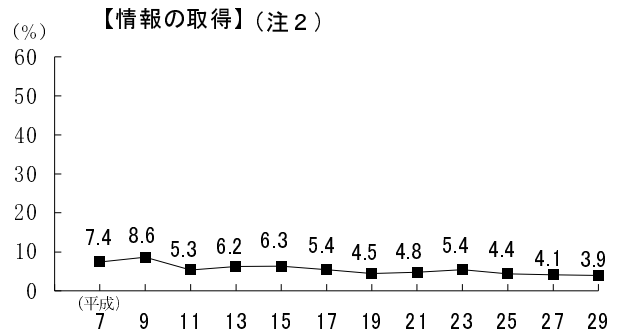
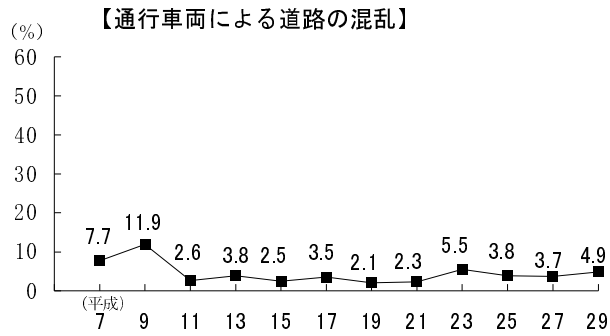
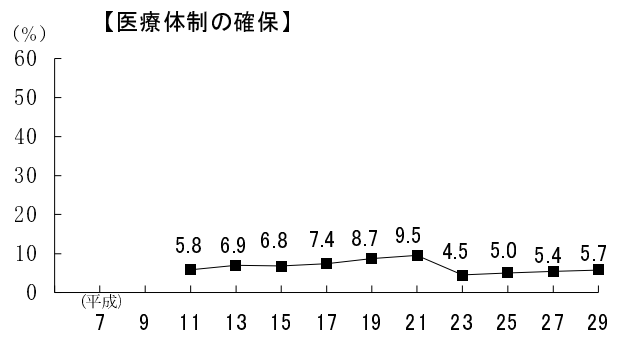
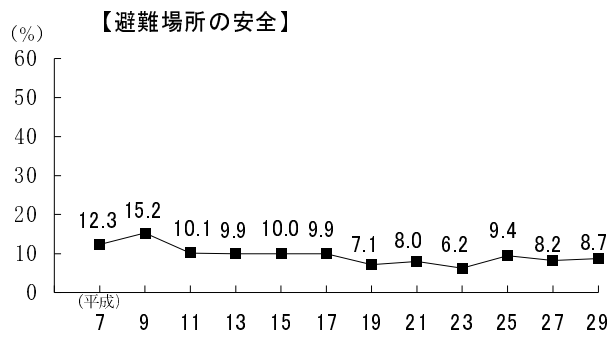
【時系列比較】

時系列の変化をみると、「食料・水の確保」は前回調査と比べて7ポイント高くなっている。一方、「地盤の液状化現象」は前回調査と比べて5ポイント低くなっている。

(図表4-1-2)

図表4-1-2 震災時の不安—時系列比較





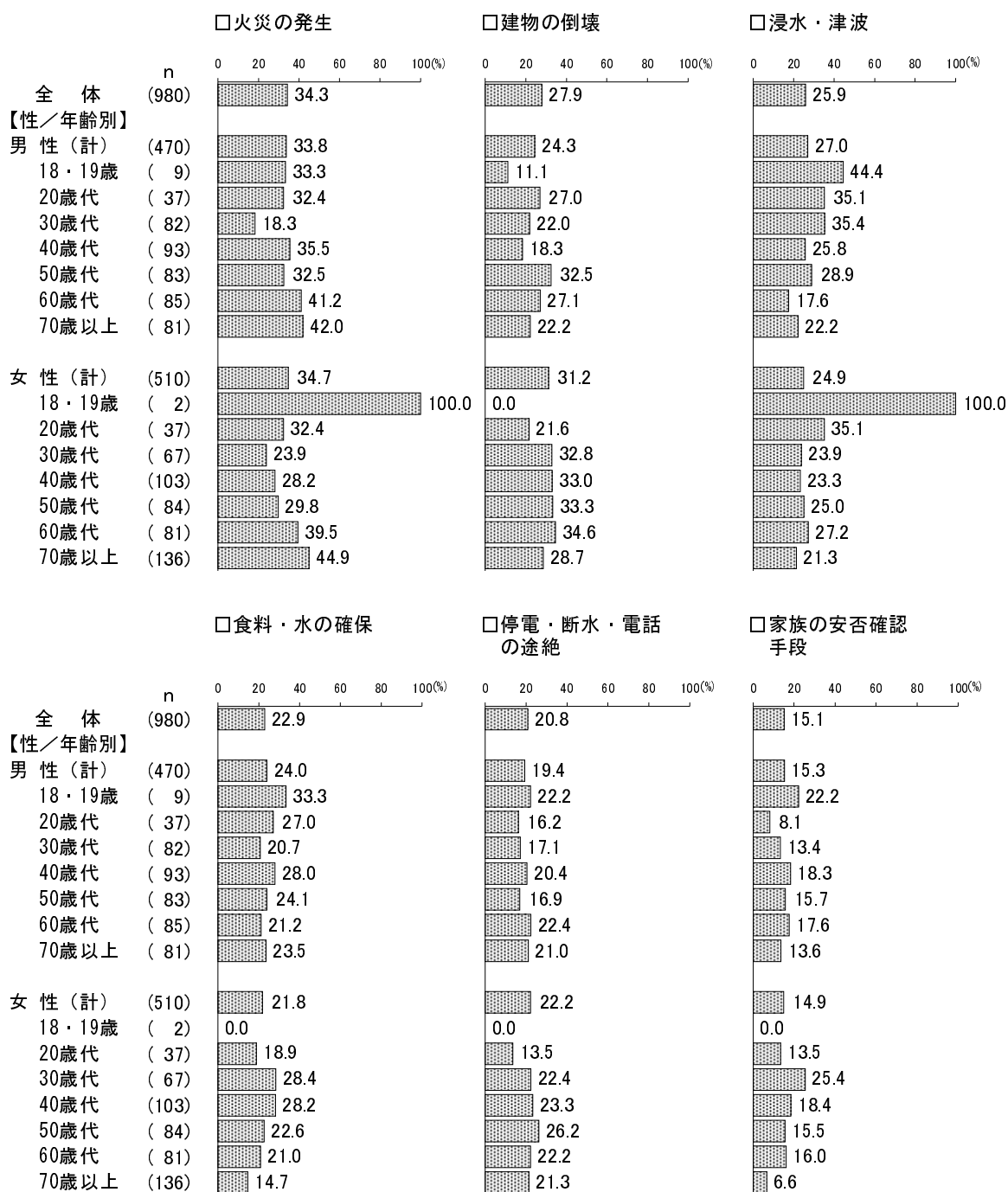
(注1) 平成21年までは「浸水」
(注2) 平成21年までは「情報の提供」

【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「建物の倒壊」は女性の方が男性より7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「火災の発生」は女性70歳以上で4割台半ばとなっている。「浸水・津波」は男性の20歳代と30歳代、女性20歳代で3割台半ば、「家族の安否確認手段」は女性30歳代で2割台半ばとなっている。（図表4-1-3）

図表4-1-3 震災時の不安—性別・性／年齢別（上位6項目）

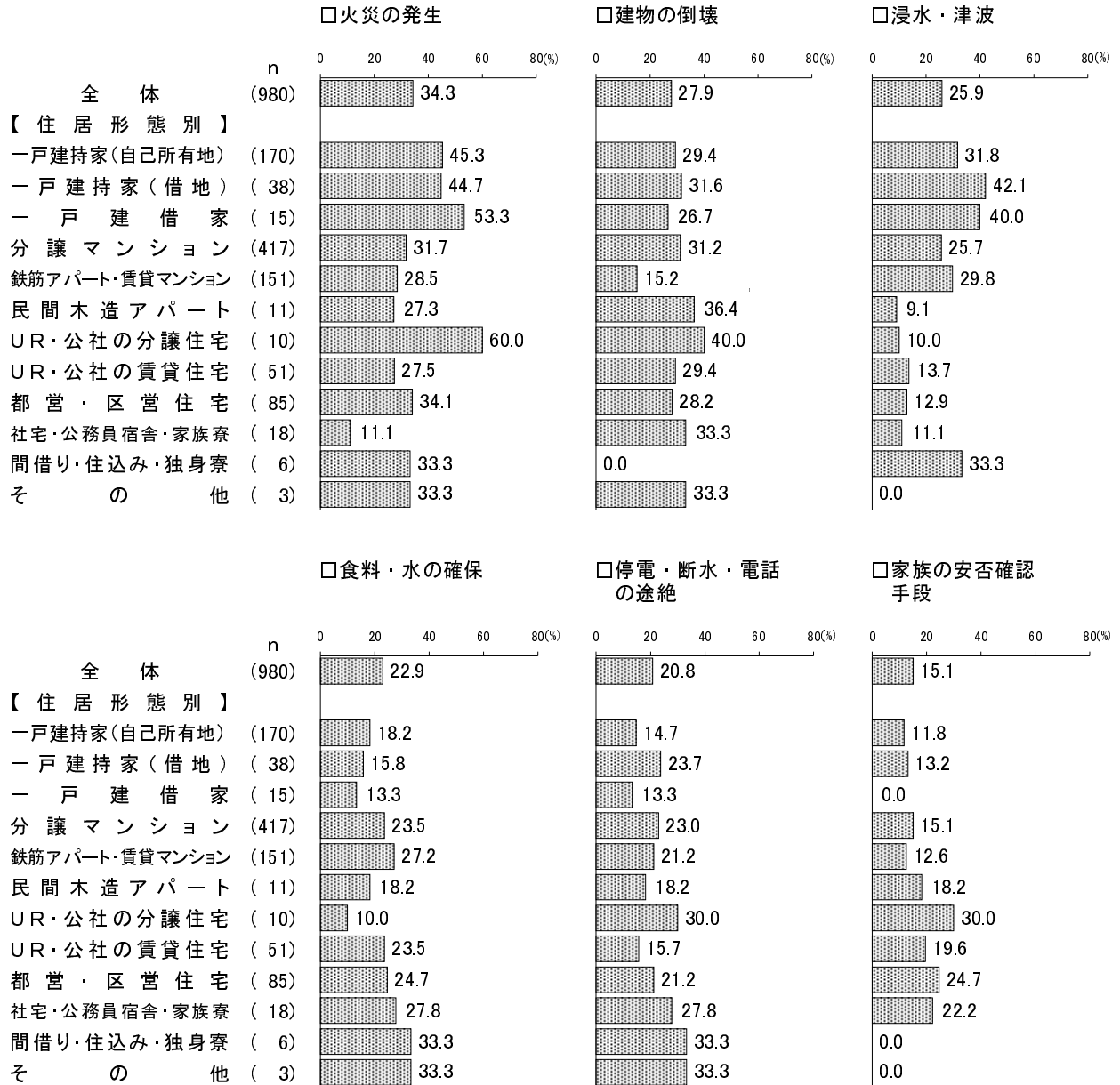


【住居形態別】

住居形態別でみると、「火災の発生」はUR・公社の分譲住宅で6割、一戸建借家で5割を超えている。「浸水・津波」は一戸建持家(借地)と一戸建借家で4割台となっている。

(図表4-1-4)

図表4-1-4 震災時の不安-住居形態別(上位6項目)



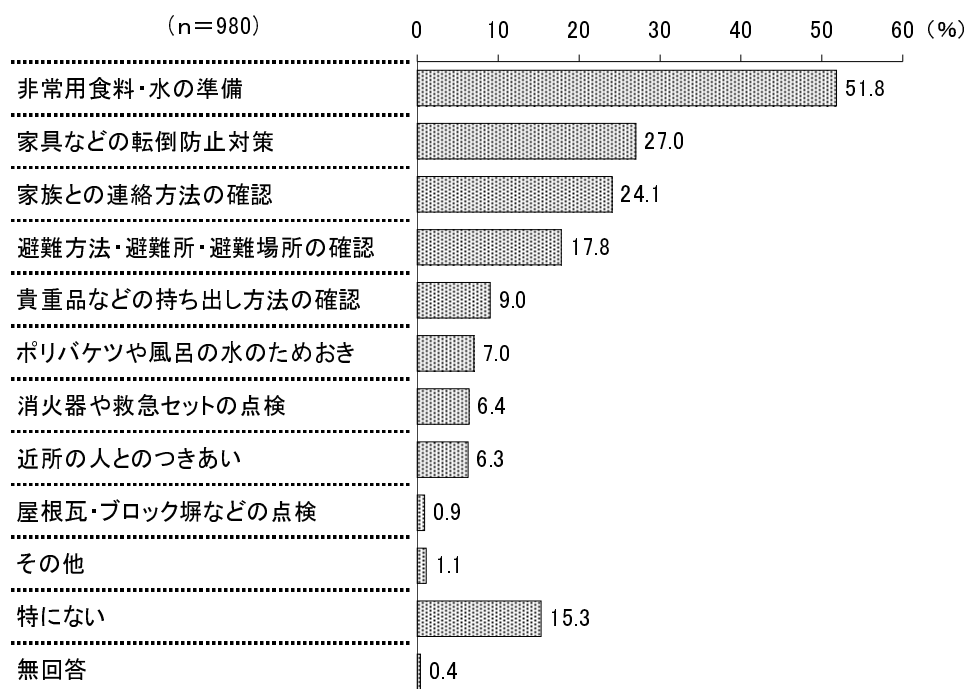
4-2 震災時の備え

◇「非常用食料・水の準備」が5割を超える

問6	あなたのご家庭で、大地震に備えて普段から特に心掛けていることを次の中から <u>2つ</u> まで選んでください。(回答者数=980)				
1	屋根瓦・ブロック塀などの点検	0.9%	7	家族との連絡方法の確認	24.1%
2	家具などの転倒防止対策	27.0%	8	ポリバケツや風呂の水のためおき	7.0%
3	消火器や救急セットの点検	6.4%	9	近所の人とのつきあい	6.3%
4	非常用食料・水の準備	51.8%	10	その他	1.1%
5	避難方法・避難所・避難場所の確認	17.8%	11	特にない	15.3%
6	貴重品などの持ち出し方法の確認	9.0%		無回答	0.4%

大地震に備えて家庭で普段から特に心掛けていることは何か聞いたところ、「非常用食料・水の準備」(51.8%)が5割を超えて最も多く、次いで「家具などの転倒防止対策」(27.0%)、「家族との連絡方法の確認」(24.1%)と続いている。(図表4-2-1)

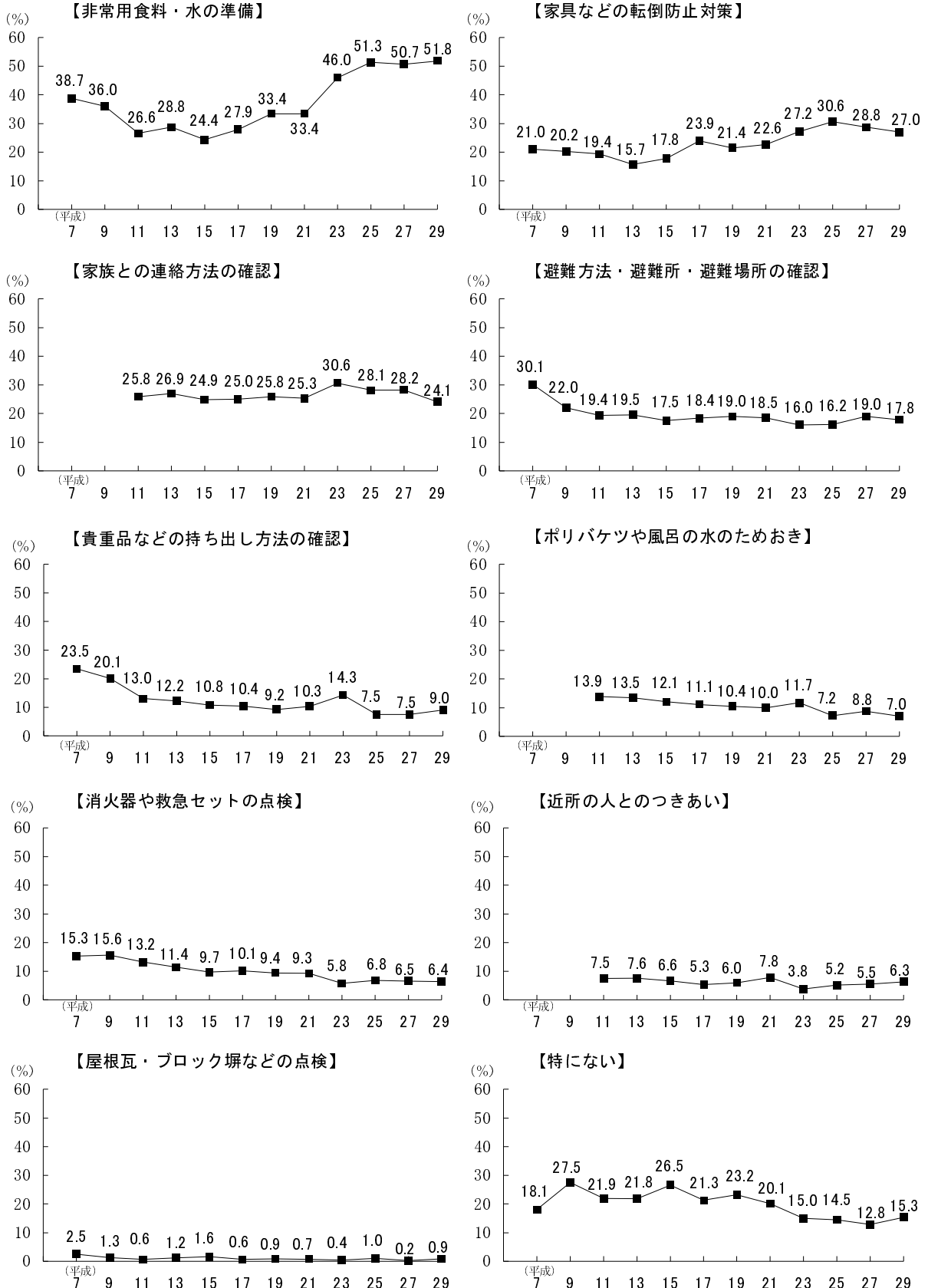
図表4-2-1 震災時の備え(複数回答)



【時系列比較】

時系列の変化をみると、「家族との連絡方法の確認」は前回調査と比べて4ポイント低くなっている。（図表4-2-2）

図表4-2-2 震災時の備え—時系列比較

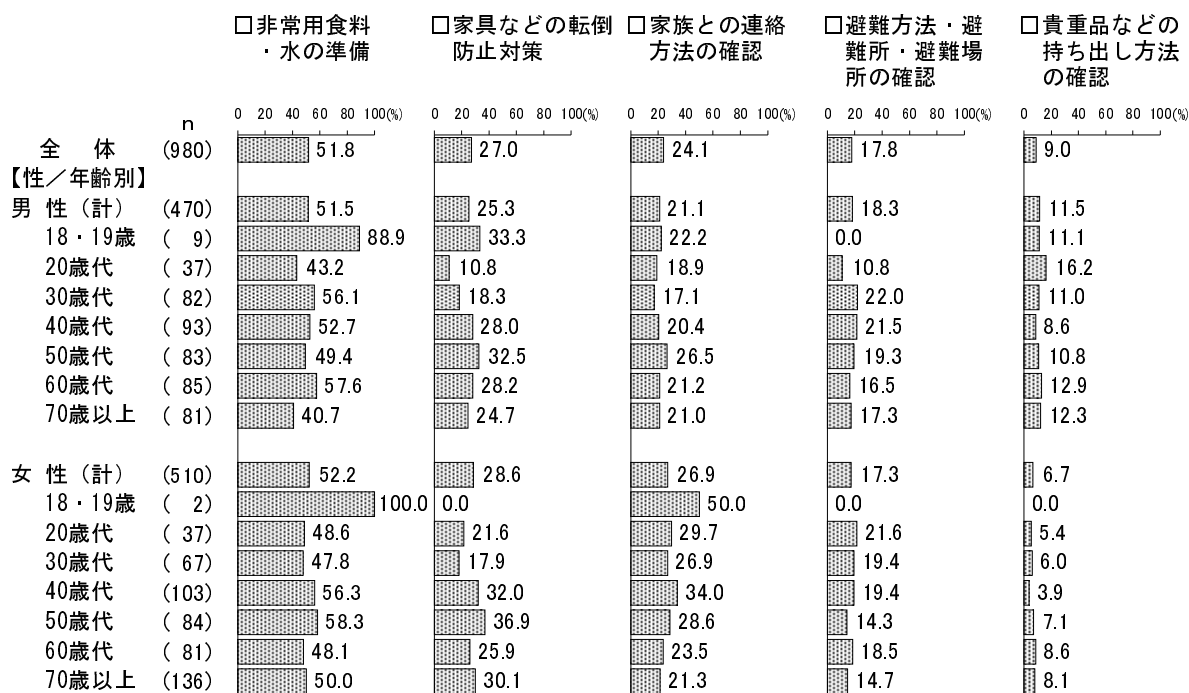


【性別・性／年齢別】

性別でみると、「家族との連絡方法の確認」は女性の方が男性より6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「家具などの転倒防止対策」は女性50歳代で4割近くとなっている。「家族との連絡方法の確認」は女性40歳代で3割台半ばとなっている。（図表4-2-3）

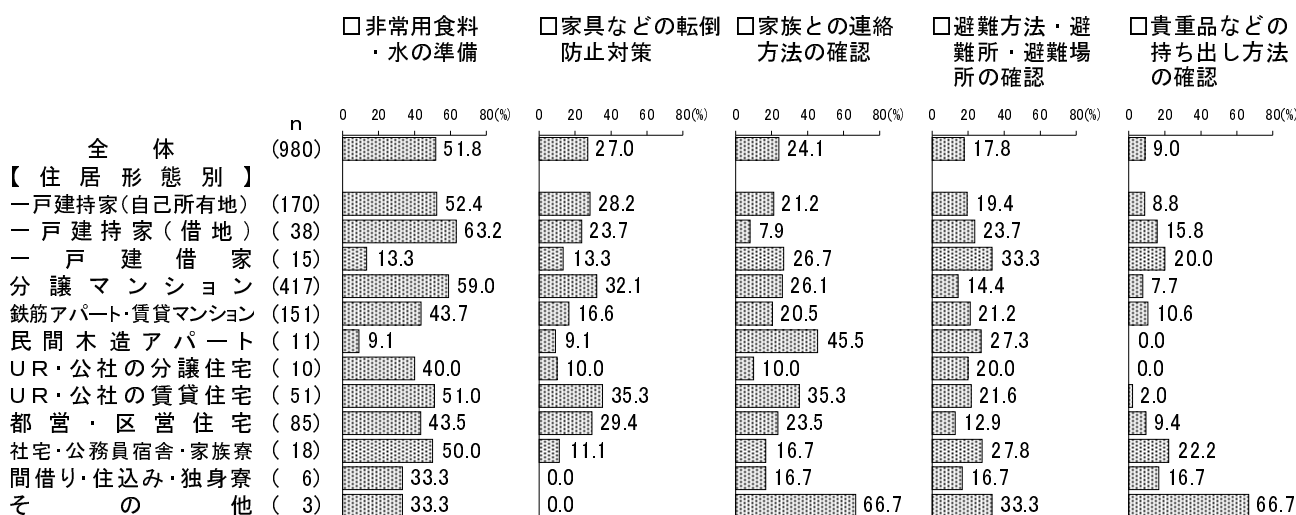
図表4-2-3 震災時の備え—性別・性／年齢別（上位5項目）



【住居形態別】

住居形態別でみると、「非常用食料・水の準備」は一戸建持家（借地）と分譲マンションで6割前後となっている。（図表4-2-4）

図表4-2-4 震災時の備え—住居形態別（上位5項目）



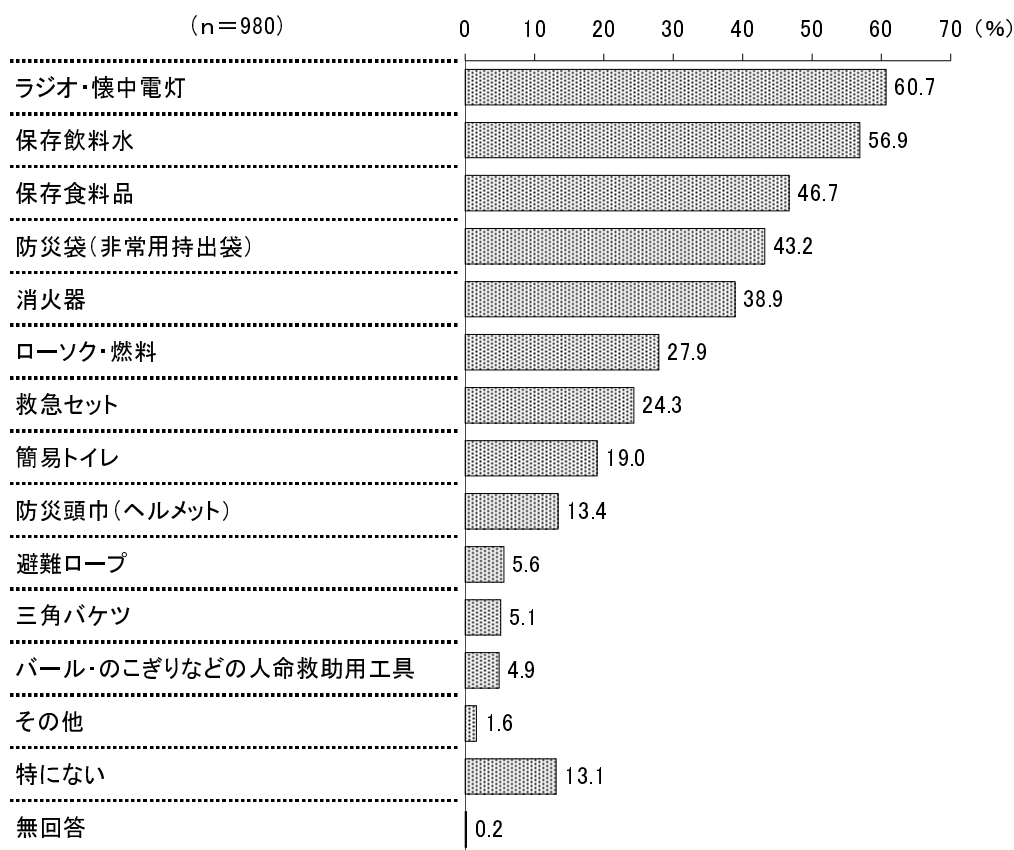
4-3 家庭内で準備している防災用品・用具

◇「ラジオ・懐中電灯」がほぼ6割

問7	あなたのご家庭で、災害に備えて現在準備している防災用品および用具を、次の中からすべて選んでください。(回答者数=980)				
1	消火器	38.9%	9	ラジオ・懐中電灯	60.7%
2	三角バケツ	5.1%	10	ローソク・燃料	27.9%
3	避難ロープ	5.6%	11	バール・のこぎりなどの人命救助用工具	4.9%
4	防災袋(非常用持出袋)	43.2%	12	簡易トイレ	19.0%
5	救急セット	24.3%	13	その他	1.6%
6	防災頭巾(ヘルメット)	13.4%	14	特になし	13.1%
7	保存食料品	46.7%		無回答	0.2%
8	保存飲料水	56.9%			

災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「ラジオ・懐中電灯」(60.7%)がほぼ6割で最も多く、次いで「保存飲料水」(56.9%)、「保存食料品」(46.7%)、「防災袋(非常用持出袋)」(43.2%)と続いている。(図表4-3-1)

図表4-3-1 家庭内で準備している防災用品・用具(複数回答)



【性別・性／年齢別】

性別でみると、男女とも第1位から第5位までは同じ項目になっており、第2位の「保存飲料水」は女性の方が男性より11ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「ラジオ・懐中電灯」は男性の30歳代以上の年代、女性の30歳代と60歳代以上の年代で第1位にあげられており、その他の年代では、「保存飲料水」が第1位にあげられている。（図表4-3-2）

図表4-3-2 家庭内で準備している防災用品・用具－性別・性／年齢別（上位5項目）

(%)

属性		順位	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体			980	ラジオ ・懐中電灯 60.7	保存飲料水 56.9	保存食料品 46.7	防災袋 (非常用持出袋) 43.2	消火器 38.9
性 別	男 性		470	ラジオ ・懐中電灯 58.7	保存飲料水 51.3	保存食料品 42.8	防災袋 (非常用持出袋) 39.8	消火器 36.6
	女 性		510	ラジオ ・懐中電灯 62.5	保存飲料水 62.2	保存食料品 50.4	防災袋 (非常用持出袋) 46.3	消火器 41.0
性 別	男	18・19歳	9	保存食料品／保存飲料水 55.6		防災袋（非常用持出袋） ／ラジオ・懐中電灯 44.4		消火器 33.3
		20歳代	37	保存飲料水 43.2	保存食料品／ラジオ・懐中電灯 37.8		防災袋 (非常用持出袋) 32.4	消火器 29.7
		30歳代	82	ラジオ ・懐中電灯 56.1	保存飲料水 51.2	保存食料品 41.5	防災袋 (非常用持出袋) 40.2	救急セット 29.3
		40歳代	93	ラジオ ・懐中電灯 52.7	保存飲料水 48.4	保存食料品 40.9	防災袋 (非常用持出袋) 37.6	消火器 36.6
		50歳代	83	ラジオ ・懐中電灯 63.9	保存飲料水 49.4	防災袋（非常用持出袋） ／保存食料品 42.2		消火器 38.6
		60歳代	85	ラジオ ・懐中電灯 68.2	保存飲料水 60.0	保存食料品 49.4	消火器 ／防災袋（非常用持出袋） 44.7	
		70歳以上	81	ラジオ ・懐中電灯 64.2	保存飲料水 50.6	消火器 44.4	保存食料品 40.7	防災袋 (非常用持出袋) 37.0
性 別	女	18・19歳	2	保存食料品／保存飲料水 100.0		防災袋（非常用持出袋）／ラジオ・懐中電灯 ／ローソク・燃料 50.0		
		20歳代	37	保存飲料水 59.5	保存食料品 51.4	ラジオ ・懐中電灯 43.2	防災袋 (非常用持出袋) 37.8	救急セット 35.1
		30歳代	67	ラジオ ・懐中電灯 47.8	保存飲料水 43.3	保存食料品 41.8	消火器 ／防災袋（非常用持出袋） 34.3	
		40歳代	103	保存飲料水 64.1	ラジオ ・懐中電灯 58.3	保存食料品 57.3	防災袋 (非常用持出袋) 52.4	消火器 50.5
		50歳代	84	保存飲料水 65.5	ラジオ ・懐中電灯 64.3	防災袋 (非常用持出袋) 50.0	保存食料品 48.8	消火器 39.3
		60歳代	81	ラジオ ・懐中電灯 71.6	保存飲料水 63.0	防災袋 (非常用持出袋) 46.9	保存食料品 45.7	ローソク・燃料 40.7
		70歳以上	136	ラジオ ・懐中電灯 72.1	保存飲料水 67.6	保存食料品 52.2	防災袋 (非常用持出袋) 47.1	消火器 45.6

【住居形態別】

住居形態別でみると、「ラジオ・懐中電灯」は鉄筋アパート・賃貸マンションを除いたすべての住居形態で同率も含め第1位にあげられている。「保存飲料水」は一戸建持家（借地）と鉄筋アパート・賃貸マンションで同率も含め第1位、「消火器」はUR・公社の賃貸住宅で同率も含め第1位にあげられている。（図表4-3-3）

図表4-3-3 家庭内で準備している防災用品・用具－住居形態別（上位5項目）

(%)

属性		順位	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体			980	ラジオ・懐中電灯 60.7	保存飲料水 56.9	保存食料品 46.7	防災袋 (非常用持出袋) 43.2	消火器 38.9
住 居 形 態 別	一戸建持家 (自己所有地)		170	ラジオ・懐中電灯 64.7	保存飲料水 59.4	防災袋 (非常用持出袋) 57.1	保存食料品 51.8	消火器 40.0
	一戸建持家 (借地)		38	保存飲料水／ラジオ・懐中電灯 63.2		防災袋 (非常用持出袋) 55.3	保存食料品 52.6	ローソク・燃料 36.8
	一戸建借家		15	ラジオ・懐中電灯 40.0	保存食料品／保存飲料水 33.3		消火器／防災袋(非常用持出袋) ／ローソク・燃料 26.7	
	分譲 マンション		417	ラジオ・懐中電灯 66.7	保存飲料水 64.3	保存食料品 52.5	防災袋 (非常用持出袋) 46.3	消火器 45.1
	鉄筋アパー ト・賃貸マン ション		151	保存飲料水 45.0	ラジオ・懐中電灯 43.7	保存食料品 30.5	防災袋 (非常用持出袋) 27.2	消火器 17.2
	民間木造 アパート		11	ラジオ・懐中電灯 27.3	保存飲料水 18.2	消火器 ／防災袋(非常用持出袋) 9.1		
	UR・公社の 分譲住宅		10	ラジオ・懐中電灯 70.0	保存食料品 60.0	保存飲料水 50.0	ローソク・燃料 40.0	消火器／防災袋(非常用持出袋) ／パール・のこぎり などの人命救助用具 ／簡易トイレ 20.0
	UR・公社の 賃貸住宅		51	消火器／ラジオ・懐中電灯 62.7		保存食料品 54.9	保存飲料水 52.9	防災袋 (非常用持出袋) 45.1
	都営・区営 住宅		85	ラジオ・懐中電灯 57.6	保存飲料水 51.8	保存食料品 43.5	消火器 41.2	防災袋 (非常用持出袋) 34.1
	社宅・ 公務員宿舎・ 家族寮		18	ラジオ・懐中電灯 77.8	保存飲料水 55.6	防災袋 (非常用持出袋) 38.9	消火器／保存食料品 ／ローソク・燃料 33.3	
間借り・ 住込み・ 独身寮		6	消火器／三角バケツ／防災袋(非常用持出袋)／救急セット／防災頭巾 (ヘルメット)／保存食料品／保存飲料水／ラジオ・懐中電灯／ローソク・燃料					16.7

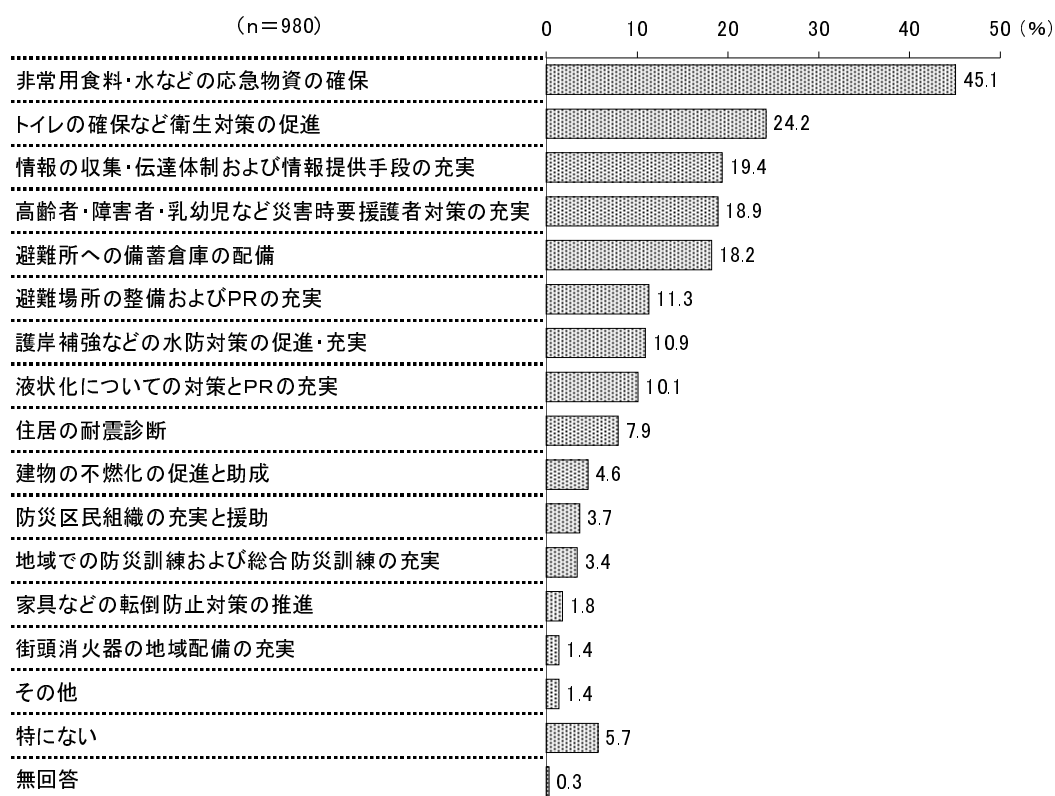
4-4 防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」が4割台半ば

問 8	あなたが、大地震の際の防災対策として、江東区に特に力を入れてほしいことを次の中から <u>2つ</u> まで選んでください。(回答者数=980)	
1	非常用食料・水などの応急物資の確保	45.1%
2	住居の耐震診断	7.9%
3	家具などの転倒防止対策の推進	1.8%
4	避難所への備蓄倉庫の配備	18.2%
5	防災区民組織の充実と援助	3.7%
6	情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実	19.4%
7	建物の不燃化の促進と助成	4.6%
8	地域での防災訓練および総合防災訓練の充実	3.4%
9	街頭消火器の地域配備の充実	1.4%
10	液状化についての対策とPRの充実	10.1%
11	護岸補強などの水防対策の促進・充実	10.9%
12	避難場所の整備およびPRの充実	11.3%
13	高齢者・障害者・乳幼児など災害時要援護者対策の充実	18.9%
14	トイレの確保など衛生対策の促進	24.2%
15	その他	1.4%
16	特にな 無回答	5.7% 0.3%

大地震の際の防災対策として特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(45.1%)が4割台半ばで最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(24.2%)と続いている。(図表4-4-1)

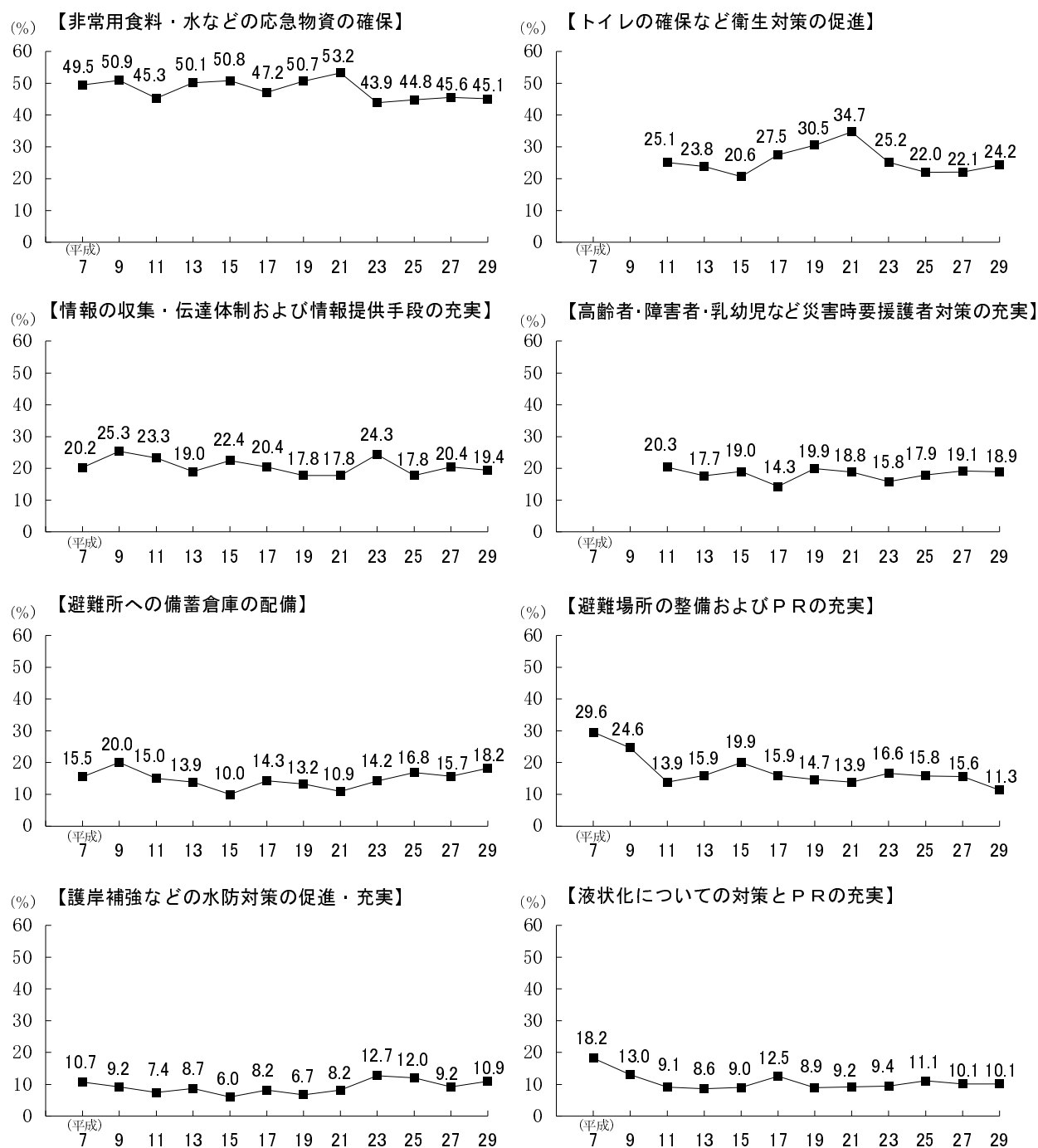
図表4-4-1 防災対策への要望(複数回答)

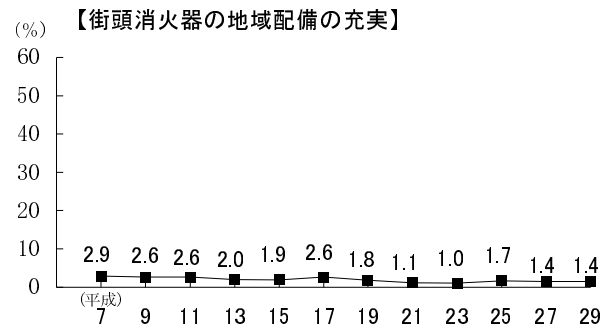
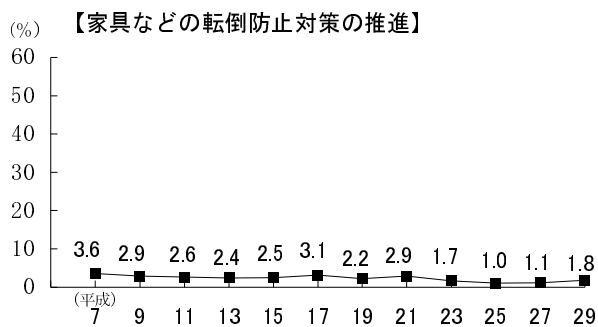
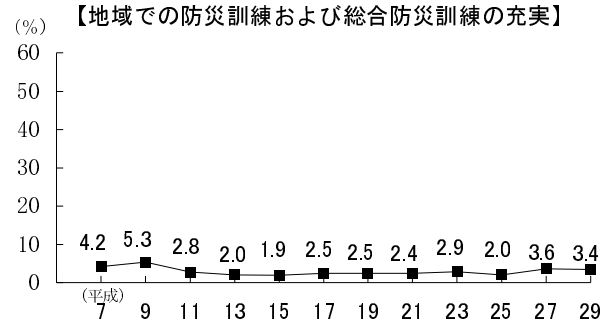
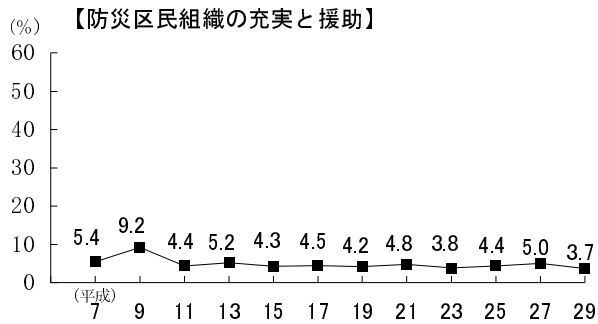
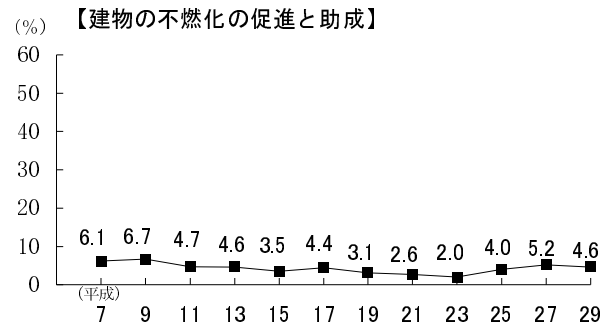
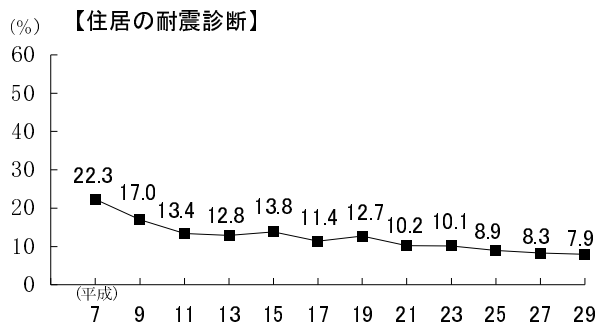


【時系列比較】

時系列の変化をみると、「避難場所の整備およびPRの充実」は前回調査と比べて4ポイント低くなっている。（図表4-4-2）

図表4-4-2 防災対策への要望—時系列比較



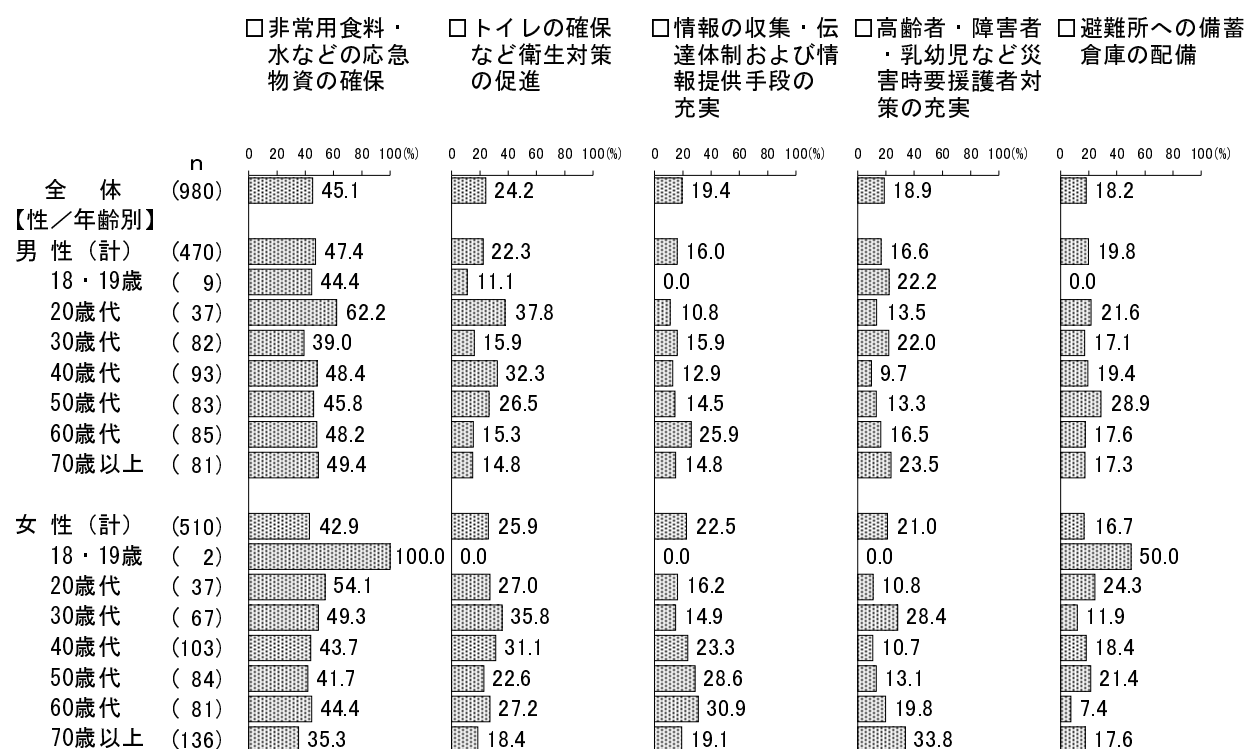


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実」は女性の方が男性より7ポイント高くなっている。一方、「非常用食料・水などの応急物資の確保」は男性の方が女性より5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「非常用食料・水などの応急物資の確保」は男性20歳代で6割を超え、女性20歳代で5割台半ばとなっている。「トイレの確保など衛生対策の促進」は男性20歳代で4割近くとなっている。（図表4-4-3）

図表4-4-3 防災対策への要望－性別・性／年齢別（上位5項目）



5 ごみ・リサイクル

5-1 ごみを減らす活動の取り組み状況

5 ごみ・リサイクル

5-1 ごみを減らす活動の取り組み状況

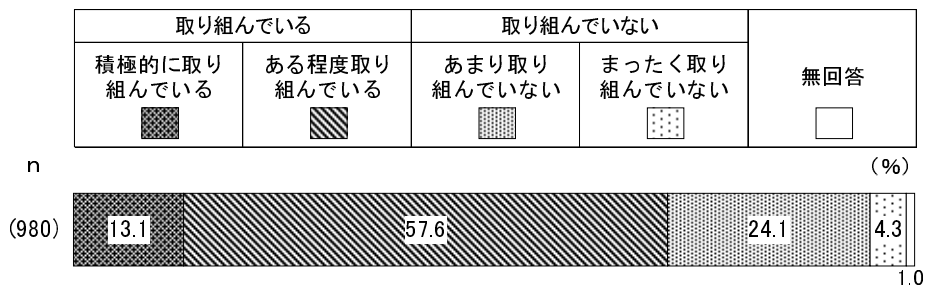
◇《取り組んでいる》はほぼ7割

問9	あなたは、日頃ごみを減らす活動にどのくらい取り組んでいますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=980)			
	1 積極的に取り組んでいる	13.1%	3 あまり取り組んでいない	24.1%
	2 ある程度取り組んでいる	57.6%	4 まったく取り組んでいない	4.3%
			無回答	1.0%
問9-1	(問9で、「1 積極的に取り組んでいる」か「2 ある程度取り組んでいる」とお答えの方に) あなたは、ごみを減らすために、どのような取り組みをなさっていますか。次の中から該当するものを <u>すべて</u> 選んでください。(回答者数=692)			
	1 家具や電気製品は修理してできるだけ長く使っている	36.3%		
	2 買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている	68.6%		
	3 使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している	48.7%		
	4 生ごみは水切りしたり、生ごみ処理器やコンポストを利用して堆肥化したりしている	22.3%		
	5 スーパーなどの店頭回収やバザー・フリーマーケットなどを利用して、地域のリサイクル活動に協力している	20.7%		
	6 町会や自治会等で行っている集団回収や区で行っている資源回収に出している	51.4%		
	7 食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている	55.3%		
	8 その他	0.9%		
	無回答	0.4%		

(1) ごみを減らす活動の取り組み状況

日頃ごみを減らす活動にどのくらい取り組んでいるか聞いたところ、「積極的に取り組んでいる」(13.1%)と「ある程度取り組んでいる」(57.6%)の2つを合わせた《取り組んでいる》(70.7%)はほぼ7割となっている。一方、「あまり取り組んでいない」(24.1%)と「まったく取り組んでいない」(4.3%)の2つを合わせた《取り組んでいない》(28.4%)は3割近くとなっている。(図表5-1-1)

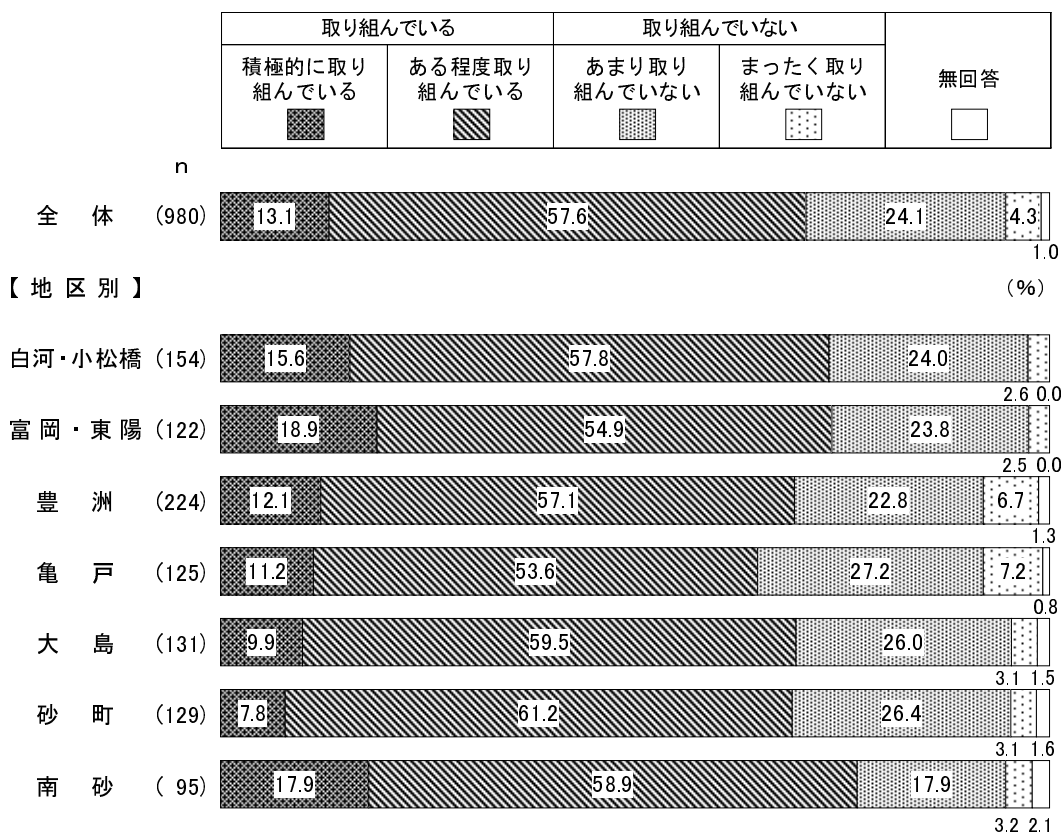
図表5-1-1 ごみを減らす活動の取り組み状況



【地区別】

地区別でみると、《取り組んでいる》は【南砂】地区で8割近くとなっている。一方、《取り組んでいない》は【亀戸】地区で3割台半ばとなっている。(図表5-1-2)

図表5-1-2 ごみを減らす活動の取り組み状況-地区別

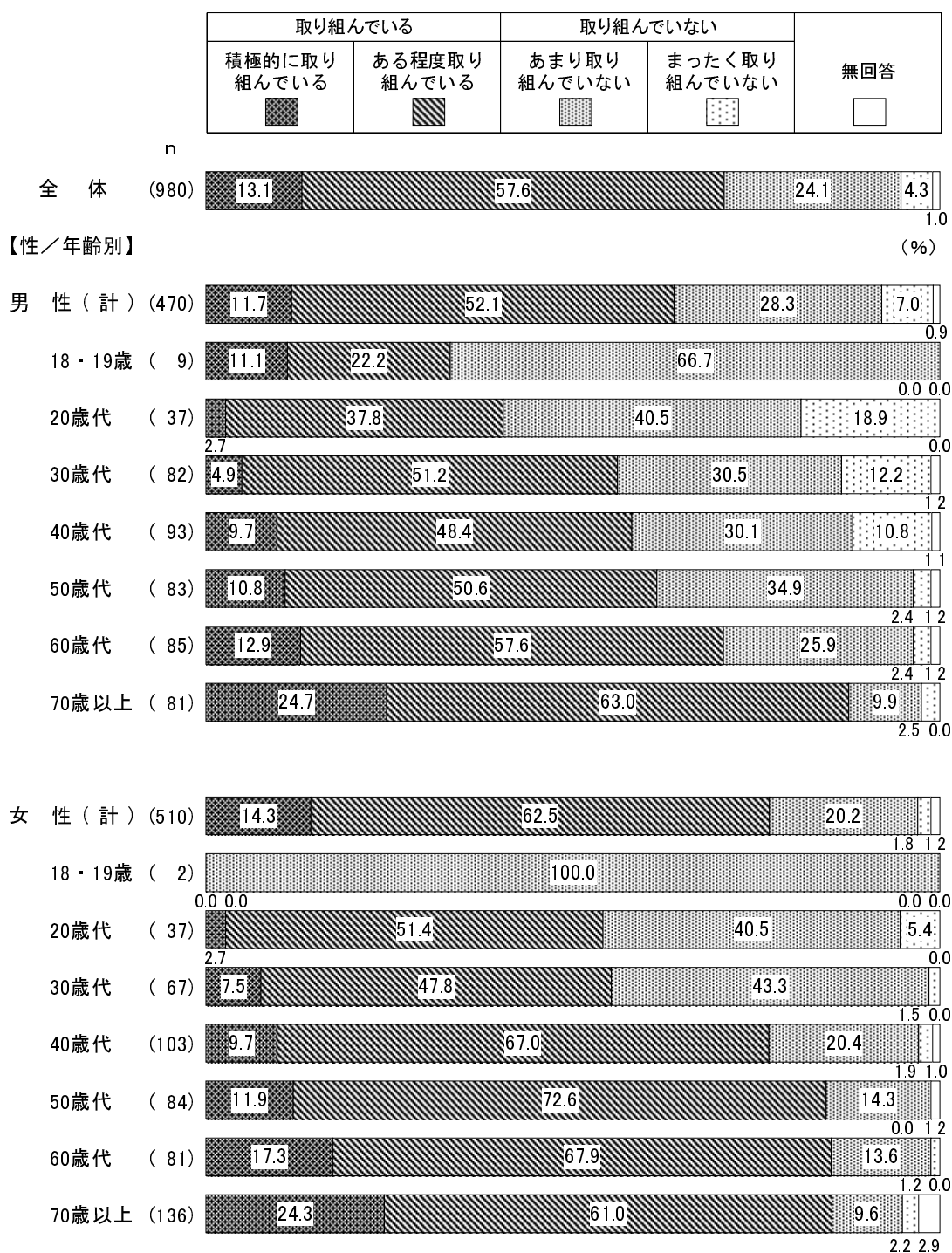


【性別・性／年齢別】

性別でみると、「取り組んでいる」は女性の方が男性より13ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「取り組んでいる」は男女とも高い年代ほど割合が高く、男性70歳以上で9割近くとなっている。一方、「取り組んでいない」は男性20歳代でほぼ6割となっている。（図表5-1-3）

図表5-1-3 ごみを減らす活動の取り組み状況－性別・性／年齢別

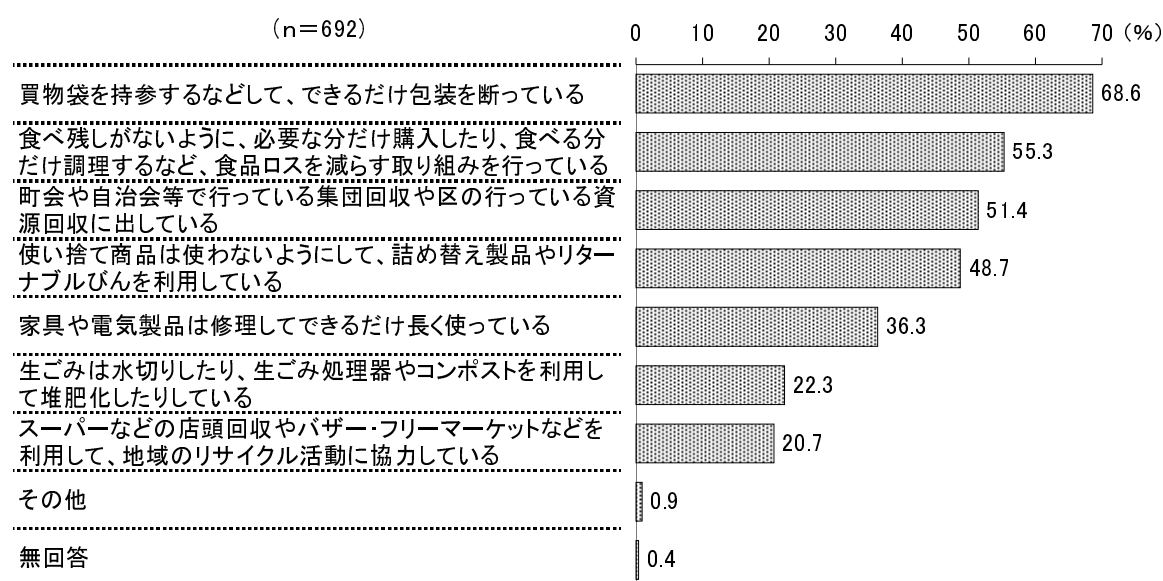


(2) ごみを減らす活動の取り組み内容

◇「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」が7割近く

ごみを減らす活動の取り組み内容を聞いたところ、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」(68.6%)が7割近くで最も多く、次いで「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」(55.3%)、「町会や自治会等で行っている集団回収や区の行っている資源回収に出している」(51.4%)と続いている。(図表5-1-4)

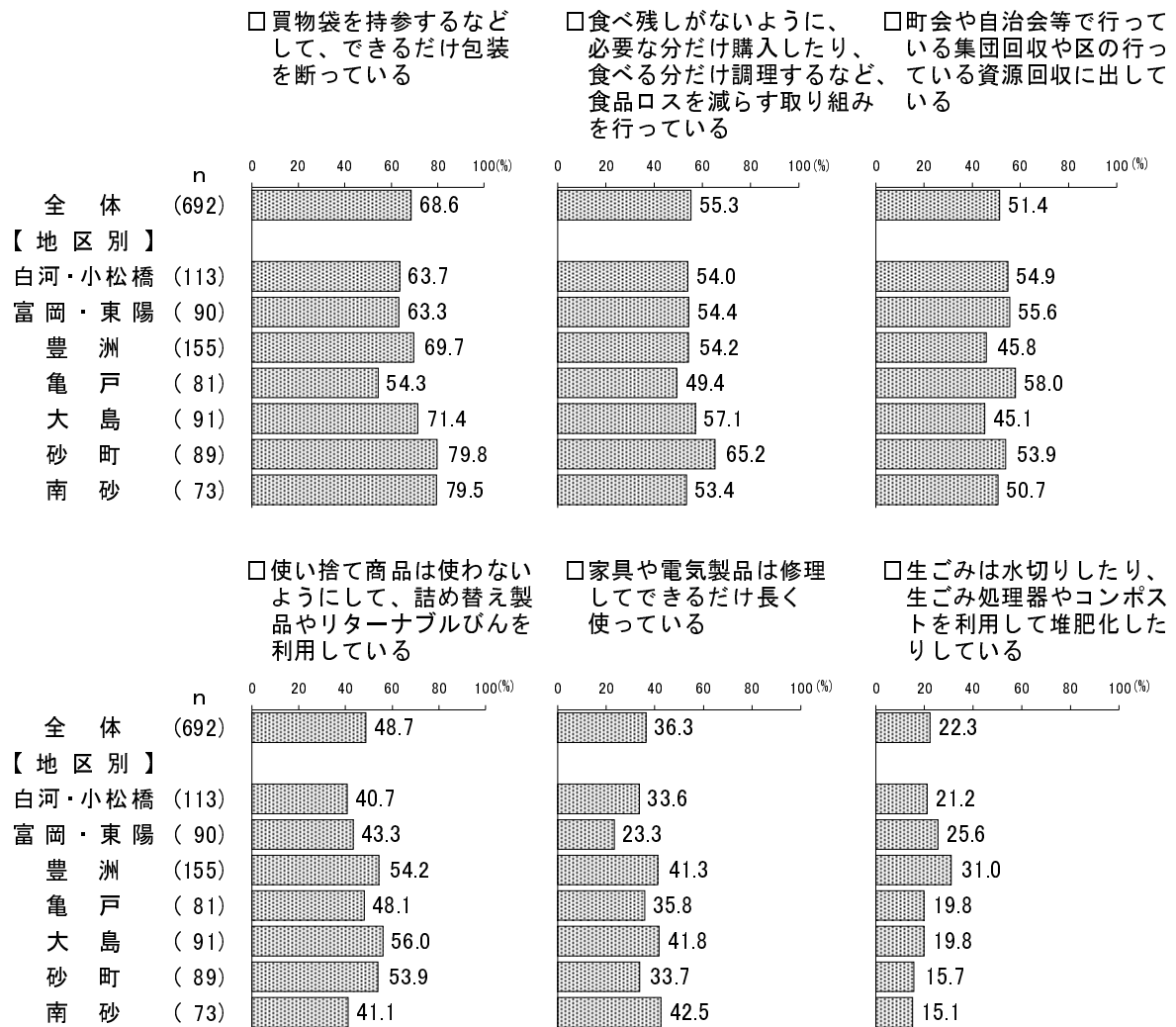
図表5-1-4 ごみを減らす活動の取り組み内容(複数回答)



【地区別】

地区別でみると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は【砂町】地区と【南砂】地区で8割となっている。「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」は【砂町】地区で6割台半ばとなっている。（図表5-1-5）

図表5-1-5 ごみを減らす活動の取り組み内容—地区別（上位6項目）

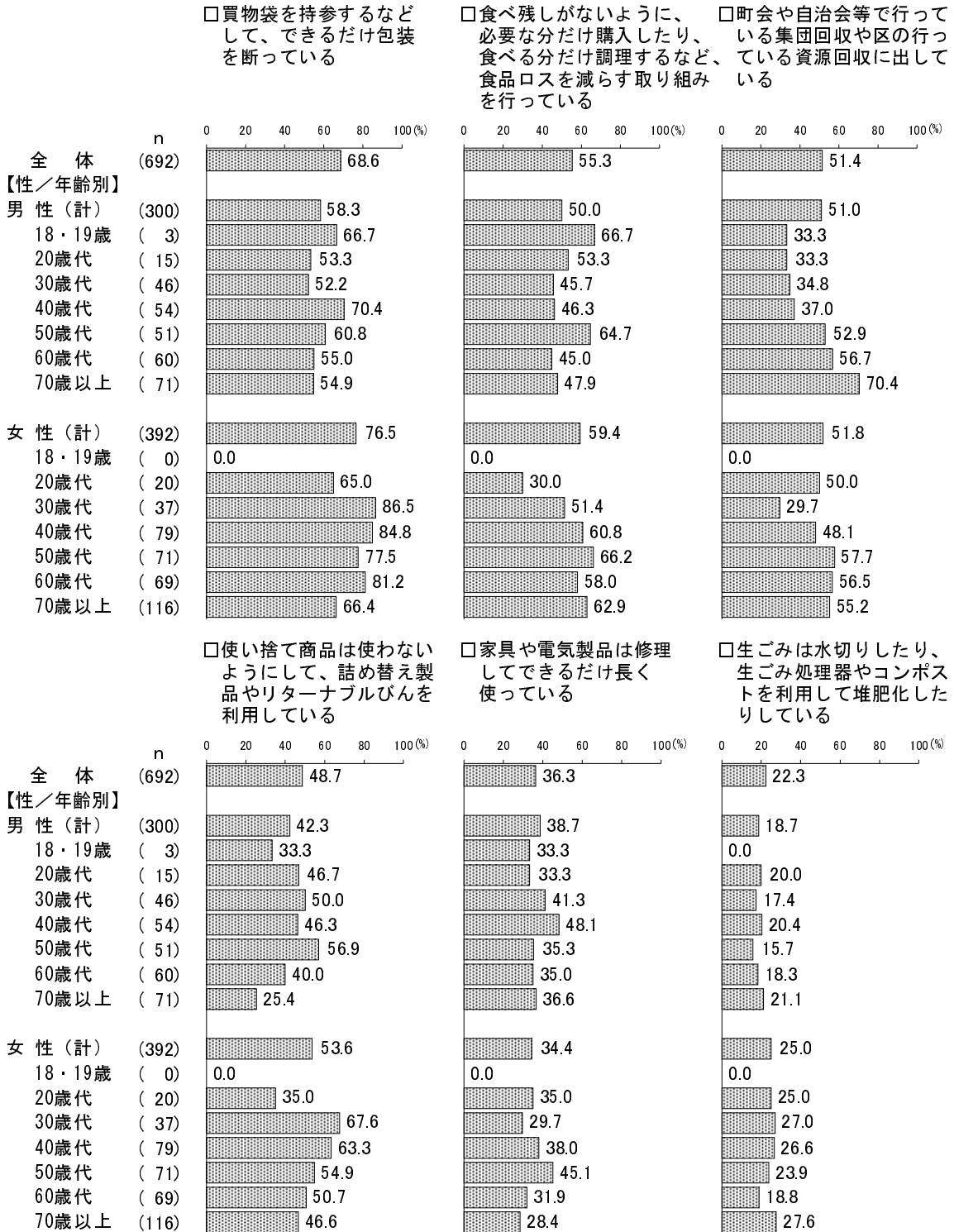


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は女性の方が男性より18ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は女性30歳代で9割近くとなっている。「町会や自治会等で行っている集団回収や区の行っている資源回収に出している」は男性70歳以上で7割となっている。（図表5-1-6）

図表5-1-6 ごみを減らす活動の取り組み内容－性別・性／年齢別



6 交通

-
- 6-1 区内の公共交通機関で不便を感じる事
 - 6-2 南北を結ぶ公共交通に求めるもの
 - 6-3 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え
-

6 交通

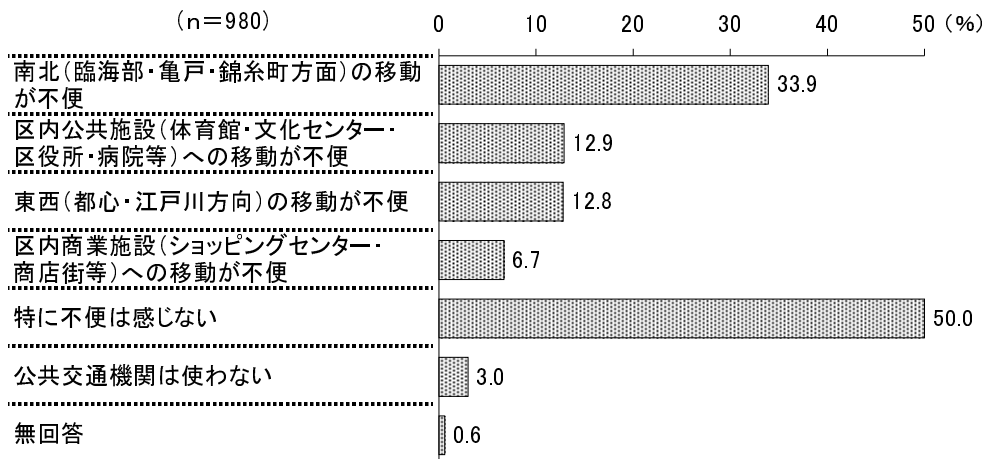
6-1 区内の公共交通機関で不便を感じることに

◇「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動が不便」が3割を超える

問10	あなたは、区内の鉄道・バス等の公共交通機関について不便を感じることはありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=980)	
1	東西（都心・江戸川方向）の移動が不便	12.8%
2	南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動が不便	33.9%
3	区内公共施設（体育館・文化センター・区役所・病院等）への移動が不便	12.9%
4	区内商業施設（ショッピングセンター・商店街等）への移動が不便	6.7%
5	特に不便は感じない	50.0%
6	公共交通機関は使わない	3.0%
	無回答	0.6%

区内の鉄道・バス等の公共交通機関について不便を感じることを聞いたところ、不便を感じる中では、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動が不便」（33.9%）が3割を超えて最も多く、次いで「区内公共施設（体育館・文化センター・区役所・病院等）への移動が不便」（12.9%）、「東西（都心・江戸川方向）の移動が不便」（12.8%）と続いている。一方、「特に不便は感じない」（50.0%）は5割となっている。（図表6-1-1）

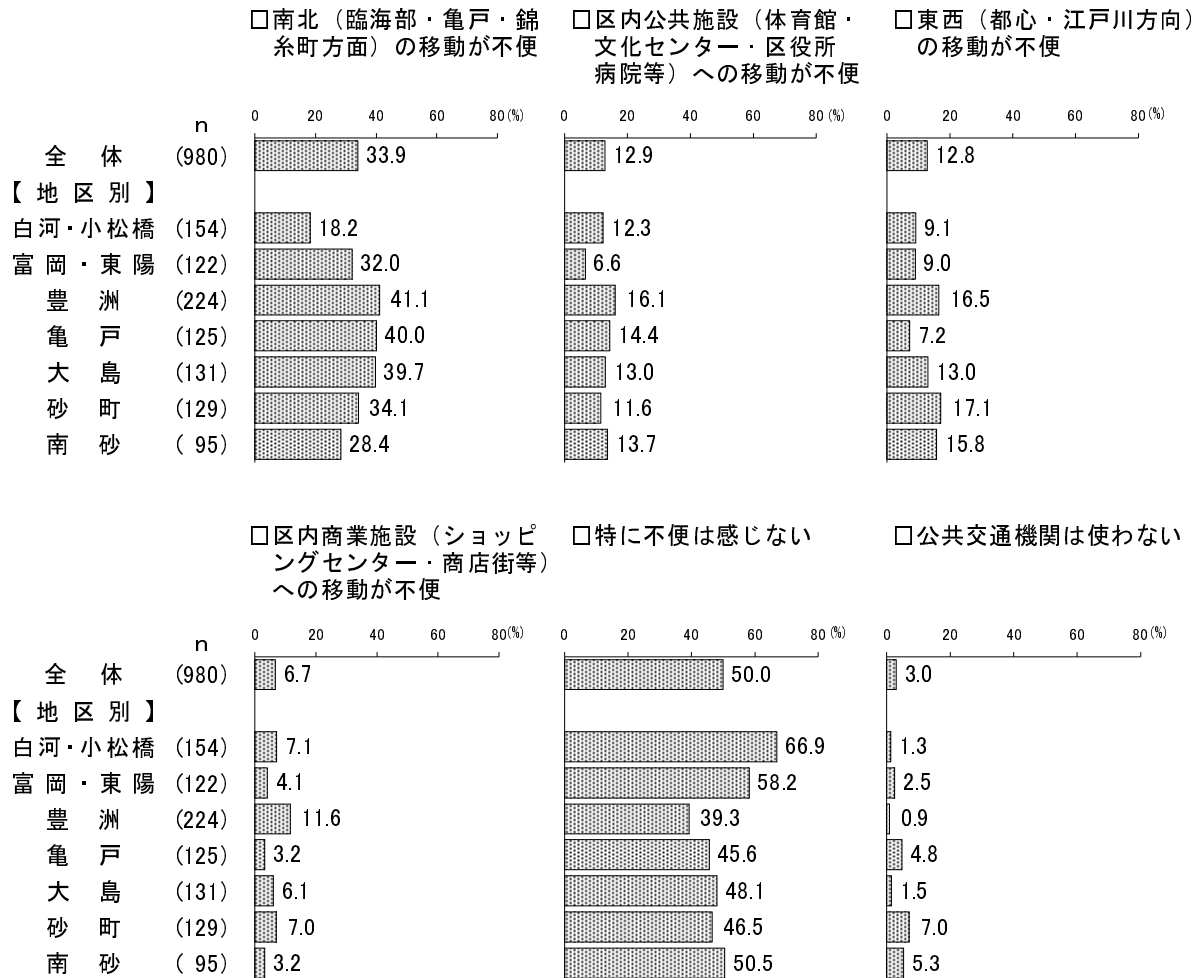
図表6-1-1 区内の公共交通機関で不便を感じることに（複数回答）



【地区別】

地区別で見ると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動が不便」は【豊洲】地区、【亀戸】地区、【大島】地区で4割前後となっている。「特に不便は感じない」は【白河・小松橋】地区で7割近くとなっている。（図表6-1-2）

図表6-1-2 区内の公共交通機関で不便を感じること—地区別

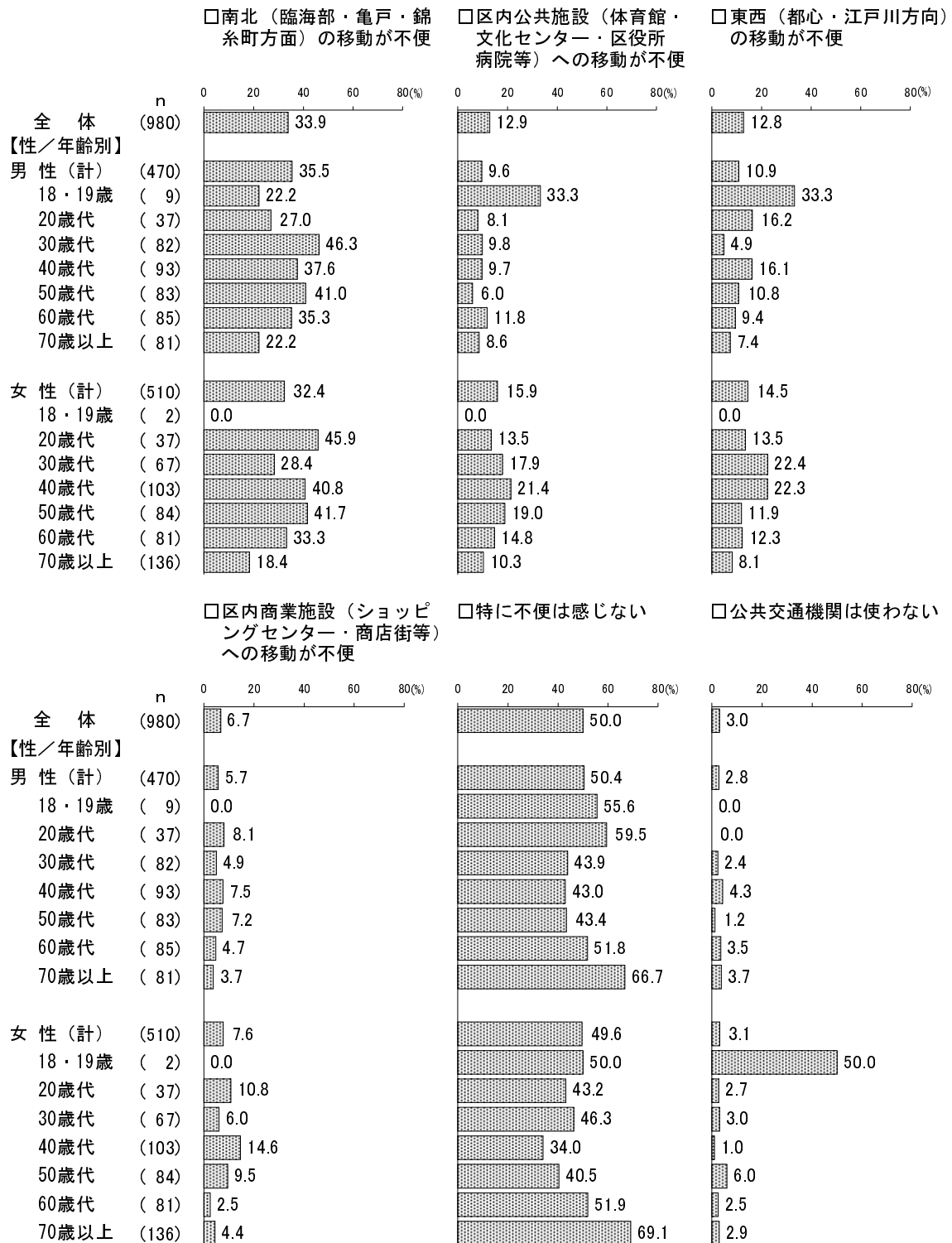


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「区内公共施設（体育館・文化センター・区役所・病院等）への移動が不便」は女性の方が男性より6ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動が不便」は男性30歳代と女性20歳代で4割台半ばとなっている。（図表6-1-3）

図表6-1-3 区内の公共交通機関で不便を感じること－性別・性／年齢別



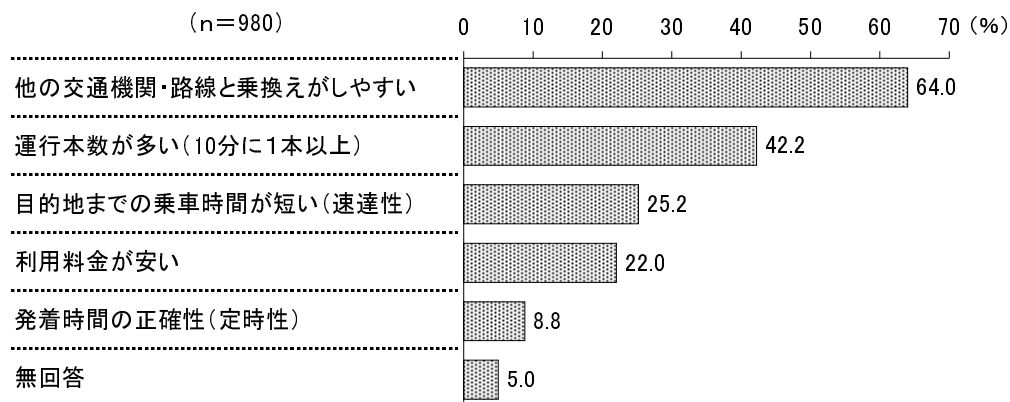
6-2 南北を結ぶ公共交通に求めるもの

◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が6割台半ば

問11	区では南北を結ぶ公共交通の充実を重点課題として位置付け、有楽町線の延伸(豊洲-住吉間)や、バス路線の拡充等を検討しています。あなたが、南北を結ぶ公共交通に求めるものを、次の中から2つまで選んでください。(回答者数=980)	
1	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい	64.0%
2	目的地までの乗車時間が短い(速達性)	25.2%
3	運行本数が多い(10分に1本以上)	42.2%
4	発着時間の正確性(定時性)	8.8%
5	利用料金が安い	22.0%
	無回答	5.0%

南北を結ぶ公共交通に求めるものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」(64.0%)が6割台半ばで最も多く、次いで「運行本数が多い(10分に1本以上)」(42.2%)、「目的地までの乗車時間が短い(速達性)」(25.2%)と続いている。(図表6-2-1)

図表6-2-1 南北を結ぶ公共交通に求めるもの(複数回答)

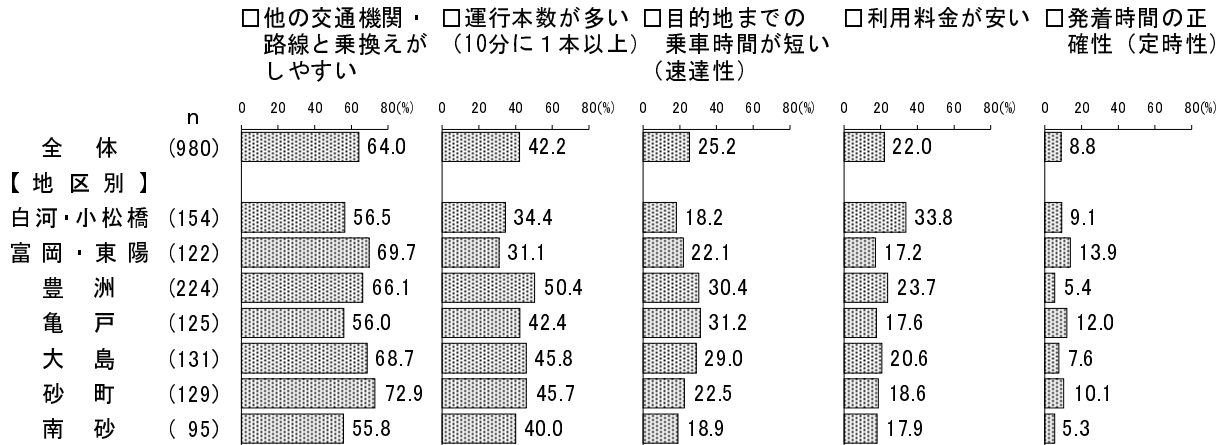


【地区別】

地区別でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は【砂町】地区で7割を超えている。「運行本数が多い(10分に1本以上)」は【豊洲】地区で5割となっている。

(図表6-2-2)

図表6-2-2 南北を結ぶ公共交通に求めるもの—地区別



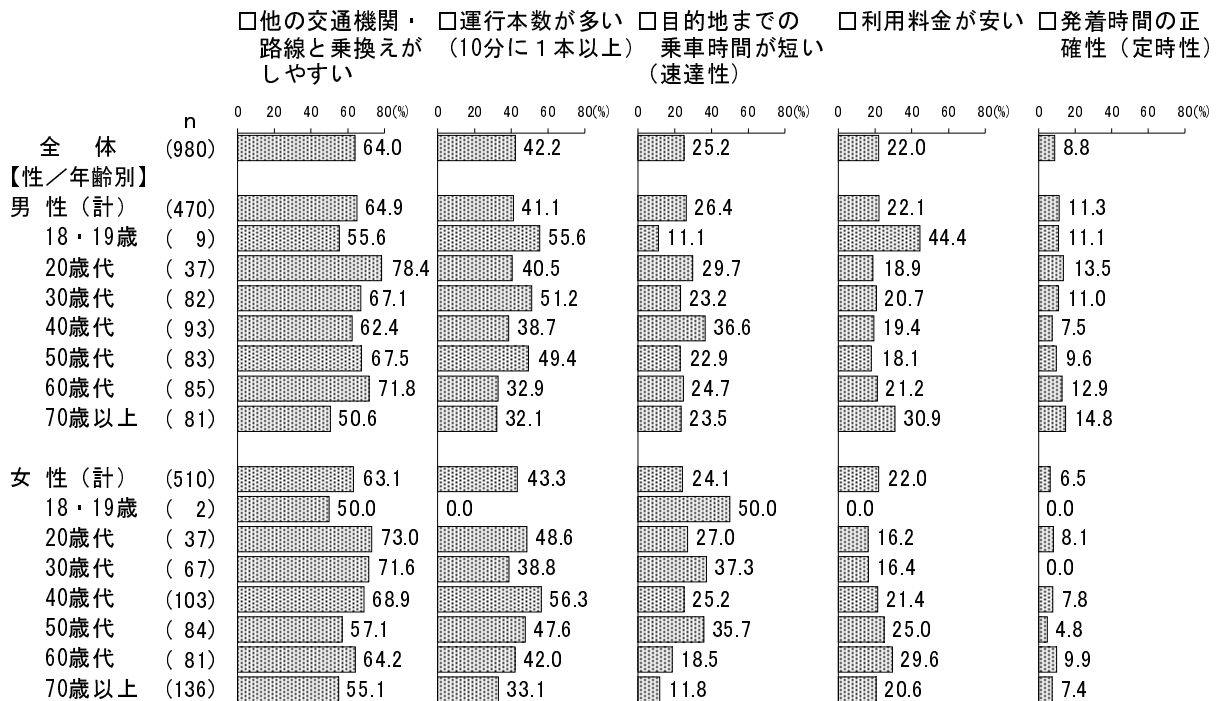
【性別・性／年齢別】

性別でみると、「発着時間の正確性(定時性)」は男性の方が女性より5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は男性20歳代で8割近く、「運行本数が多い(10分に1本以上)」は女性40歳代で5割台半ばとなっている。

(図表6-2-3)

図表6-2-3 南北を結ぶ公共交通に求めるもの—性別・性／年齢別



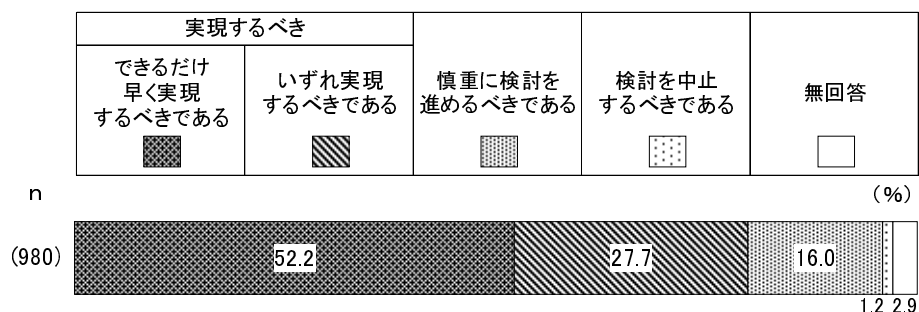
6-3 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え

◇《実現すべき》は8割

問12	<p>区では、南北移動の利便性向上、東西線の混雑緩和などが期待される有楽町線の延伸(豊洲～住吉間)の早期実現を目指しています。あなたは有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業について、どのように考えていますか。次の中から<u>1つだけ</u>選んでください。</p> <p>(回答者数=980)</p>	
1	できるだけ早く実現すべきである	52.2%
2	いずれ実現すべきである	27.7%
3	慎重に検討を進めるべきである	16.0%
4	検討を中止するべきである	1.2%
	無回答	2.9%

有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考えを聞いたところ、「できるだけ早く実現すべきである」(52.2%)と「いずれ実現すべきである」(27.7%)の2つを合わせた《実現すべき》(79.9%)が8割となっている。また、「慎重に検討を進めるべきである」(16.0%)は1割台半ばとなっている。(図表6-3-1)

図表6-3-1 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え

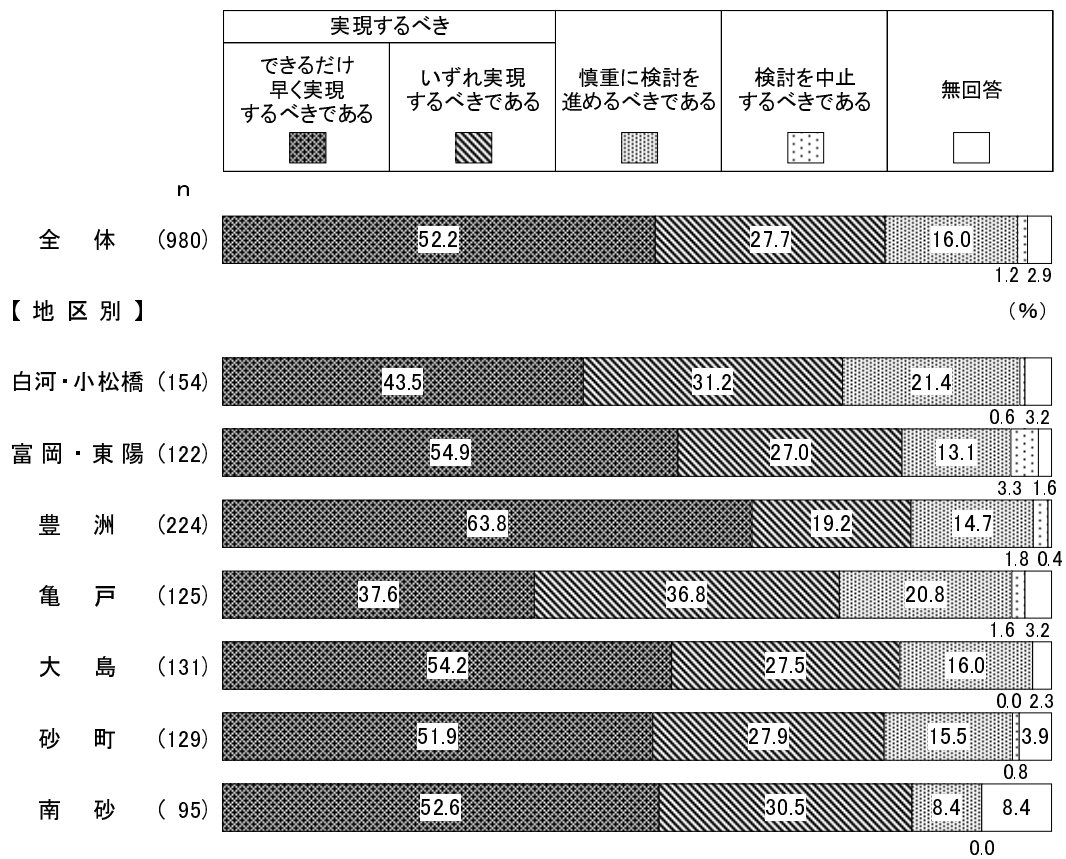


【地区別】

地区別でみると、「できるだけ早く実現するべきである」は【豊洲】地区で6割を超えている。《実現するべき》はすべての地区で7割以上となっている。一方、「慎重に検討を進めるべきである」は【白河・小松橋】地区と【亀戸】地区で2割台となっている。

(図表6-3-2)

図表6-3-2 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え—地区別



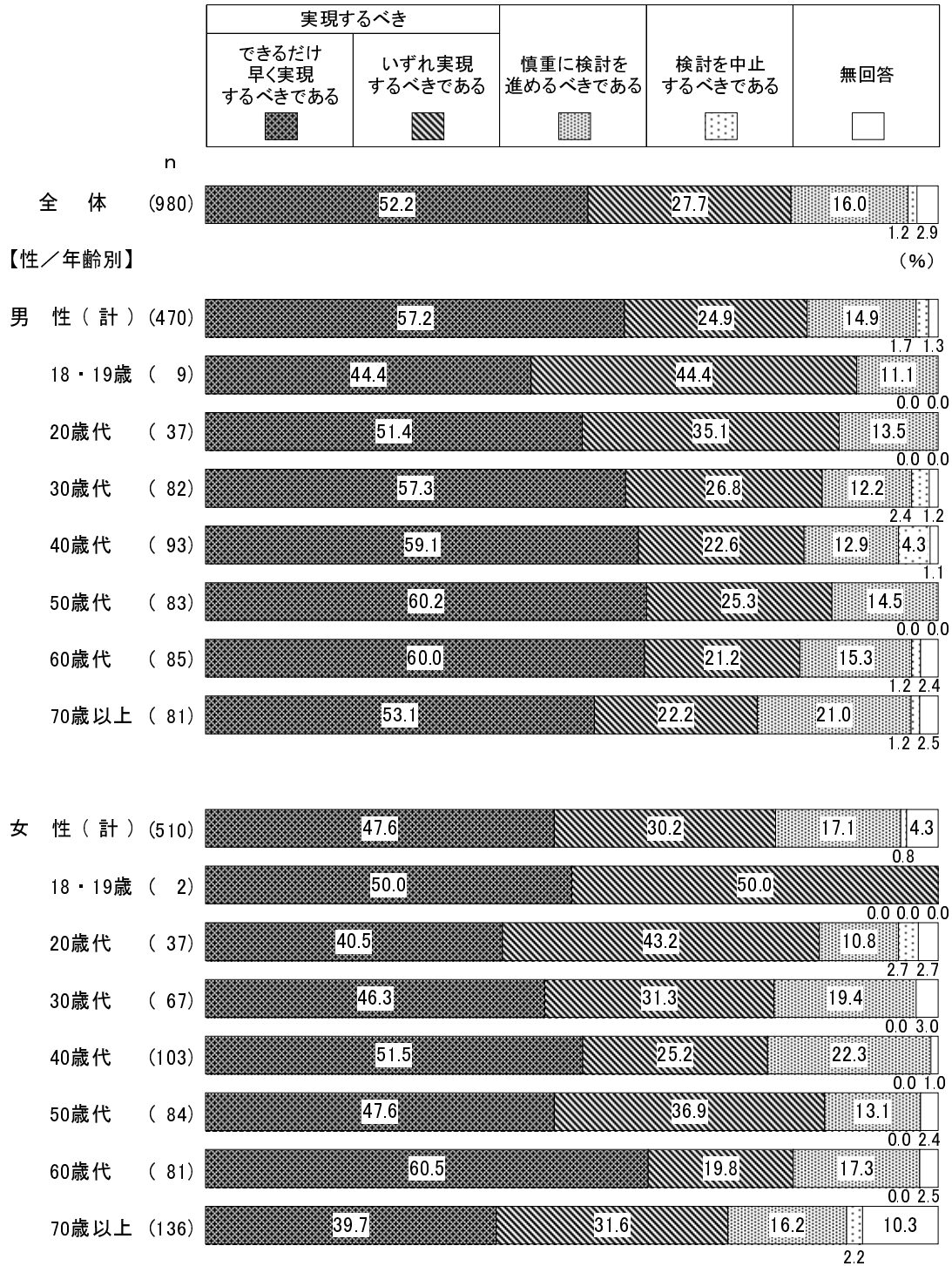
【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「できるだけ早く実現するべきである」は男性の方が女性より10ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「実現するべき」は男性20歳代で9割近くとなっている。

(図表6-3-3)

図表6-3-3 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考えー性別・性／年齢別



7 選挙

7-1 東京都議会議員選挙の投票の有無

7-2 「選挙公報」の閲読状況

7 選挙

7-1 東京都議会議員選挙の投票の有無

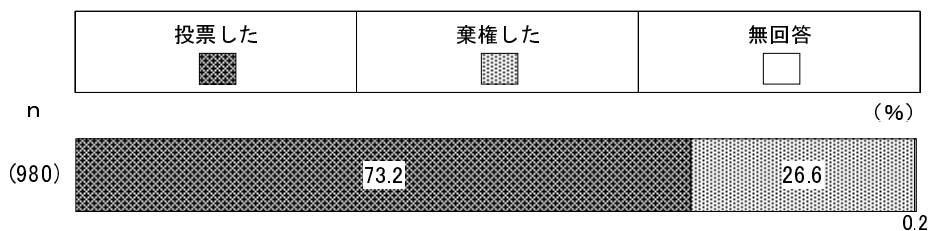
◇「投票した」が7割を超える

問13	平成29年7月2日は、東京都議会議員選挙の投票日でしたが、あなたは投票しましたか。次の中から1つだけ選んでください。(回答者数=980)				
	1 投票した	73.2%	2 棄権した	26.6%	
			無回答	0.2%	
問13-1	(問13で、「1 投票した」とお答えの方に) あなたが、候補者を選ぶのに役立つ と思うものを、次の中から2つまで選 んでください。(回答者数=717)		問13-2	(問13で、「2 棄権した」とお答えの方に) あなたが、東京都議会議員選挙に投票 しなかった理由を、次の中から1つだ け選んでください。(回答者数=261)	
	1 選挙公報	43.2%	1 支持する候補者がいなかった	29.5%	
	2 候補者のポスター	23.4%	2 候補者をよく知らなかった	15.3%	
	3 候補者のはがき	3.3%	3 結果に影響ないと思った	1.9%	
	4 候補者の演説	13.2%	4 棄権もひとつの意思表示だから	4.2%	
	5 候補者の新聞広告	13.1%	5 投票する時間がなかった	14.6%	
	6 マスコミの選挙報道	25.9%	6 病気だった	7.3%	
	7 家族や知人との話し合い	22.3%	7 投票所が遠かった	0.4%	
	8 候補者等のホームページ	8.9%	8 関心がなかった	14.9%	
	9 その他	5.6%	9 期日前(不在者)投票の方法が よくわからなかった	1.9%	
	無回答	0.8%	10 入場整理券が届かなかった	1.5%	
			11 まだ選挙権がなかった	0.4%	
			12 その他	7.7%	
			無回答	0.4%	

(1) 東京都議会議員選挙の投票の有無

平成29年7月に行われた東京都議会議員選挙に投票したか聞いたところ、「投票した」(73.2%)は7割を超えている。なお、実際の東京都議会議員選挙の投票率は54.56%であった。(図表7-1-1)

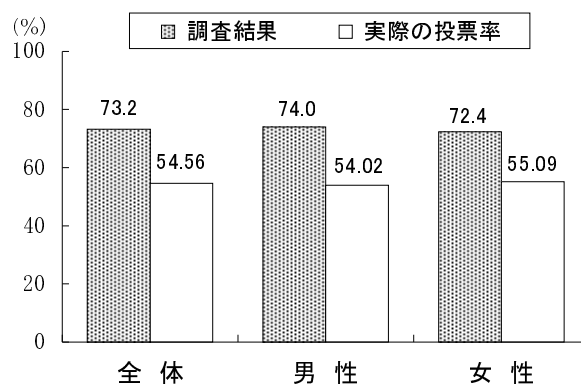
図表7-1-1 東京都議会議員選挙の投票の有無



【性別】

図表 7-1-2 回答投票率と実際の投票率－性別

性別で見ると、大きな差はみられない。
 実際の投票率は、男性 54.02%、女性 55.09%
 となっている。(図表 7-1-2)

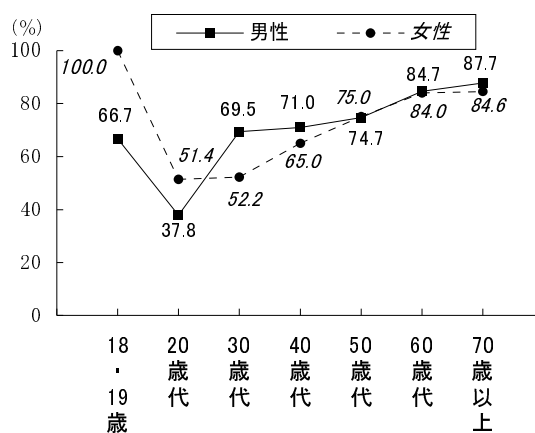


【性／年齢別】

性／年齢別で見ると、20 歳代では女性の方が
 男性より 14 ポイント高く、30 歳代では男性の方
 が女性より 17 ポイント高くなっている。

(図表 7-1-3)

図表 7-1-3 回答投票率－性／年齢別



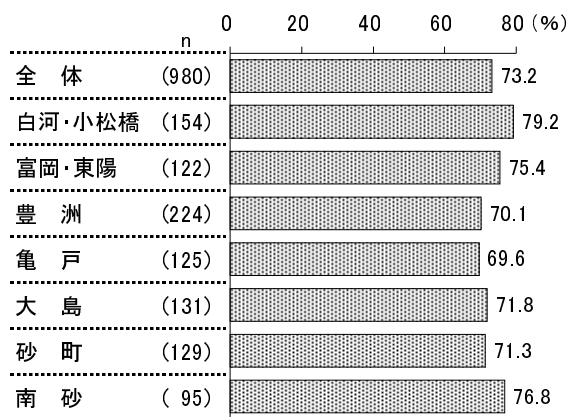
(注) 18・19歳の回答者数は男性9名・女性2名

【地区別】

地区別で見ると、【白河・小松橋】地区ではほぼ
 8割、【南砂】地区で8割近くとなっている。

(図表 7-1-4)

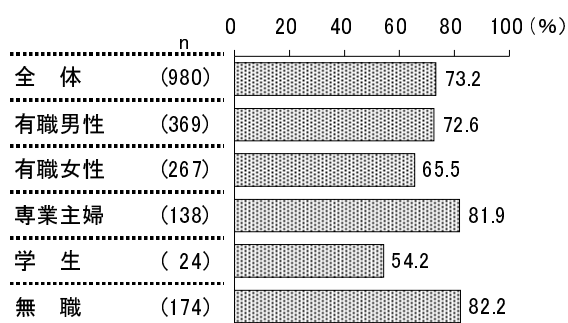
図表 7-1-4 回答投票率－地区別



【職業別】

職業別で見ると、無職と専業主婦が8割を
 超えている。(図表 7-1-5)

図表 7-1-5 回答投票率－職業別



(2) 推定投票率

実際の投票率は54.56%であり、今回の調査結果(73.2%)とは18.6ポイントの差がある。

このような形式の質問で、回答が実際の結果と差異が生じることが多いのは、①世論調査の回答者は、世論調査に協力しなかった人に比べて区政への関心度が相対的に高いと考えられ、回答者全体に占める投票した人の割合も高くなると考えられること、②実際には投票に行っていない人の中には、面接する調査員に対して“見かけをつくろう”とする心理が働いて「投票した」と答えた人がいると考えられること、の2つの要因が考えられる。これらの要因は世論調査では避けがたいものであるが、結果の数値を一定の値としてみる限り、大きな支障はないと考えられる。そこで、性/年齢別による分析を正確にするため、下記の式による補正係数を算出した。(図表7-1-6)

図表7-1-6 実際の投票率との比較と補正係数

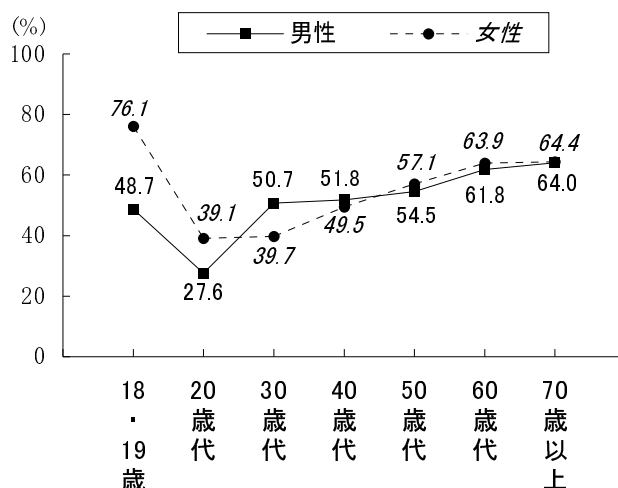
	全 体	■補正係数 = 実際の投票率 ÷ 回答投票率			
調査結果による投票率	73.2%	男性	0.7300	54.02%	74.0%
実際の投票率	54.56%	女性	0.7609	55.09%	72.4%
		全体	0.7454	54.56%	73.2%

それぞれの性別の補正係数を各年齢層に掛け合わせて、性/年齢別の推定投票率を求めると以下の図表7-1-7のようになる。なお、グラフ中の数値については、小数点第2位を四捨五入した。

推定投票率をみると、男性20歳代で最も低く27.6%、女性70歳以上で最も高く64.4%となっている。また、男女とも高い年代ほど割合が高くなっている。(図表7-1-7)

図表7-1-7 調査結果による推定投票率—性/年齢別

【推定投票率】



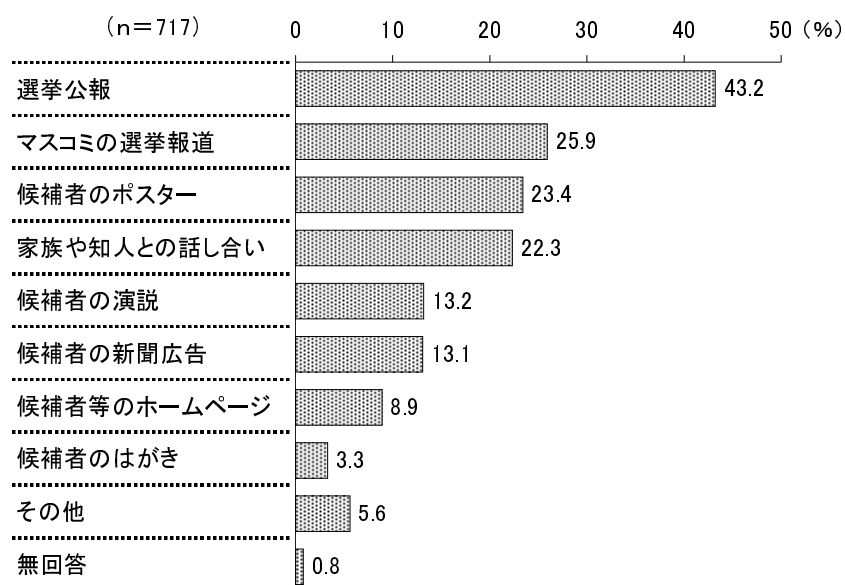
(注) 18・19歳の回答者数は男性9名・女性2名

(3) 候補者を選ぶのに役立ったもの

◇「選挙公報」が4割を超える

平成29年7月に行われた東京都議会議員選挙に「投票した」と答えた方(717人)に、候補者を選ぶのに役立ったものは何か聞いたところ、「選挙公報」(43.2%)が4割を超えて最も多く、次いで「マスコミの選挙報道」(25.9%)、「候補者のポスター」(23.4%)、「家族や知人との話し合い」(22.3%)と続いている。(図表7-1-8)

図表7-1-8 候補者を選ぶのに役立ったもの(複数回答)

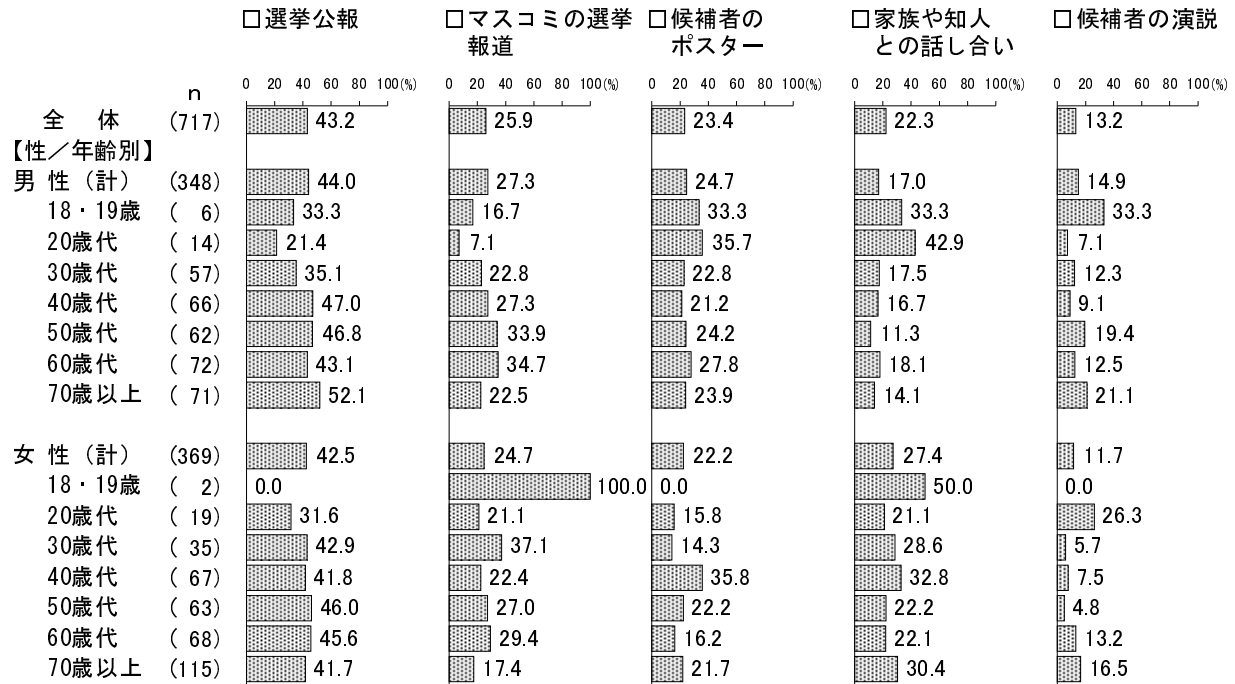


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「家族や知人との話し合い」は女性の方が男性より10ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「選挙公報」は男性70歳以上で5割を超えている。「マスコミの選挙報道」は女性30歳代で4割近くとなっている。(図表7-1-9)

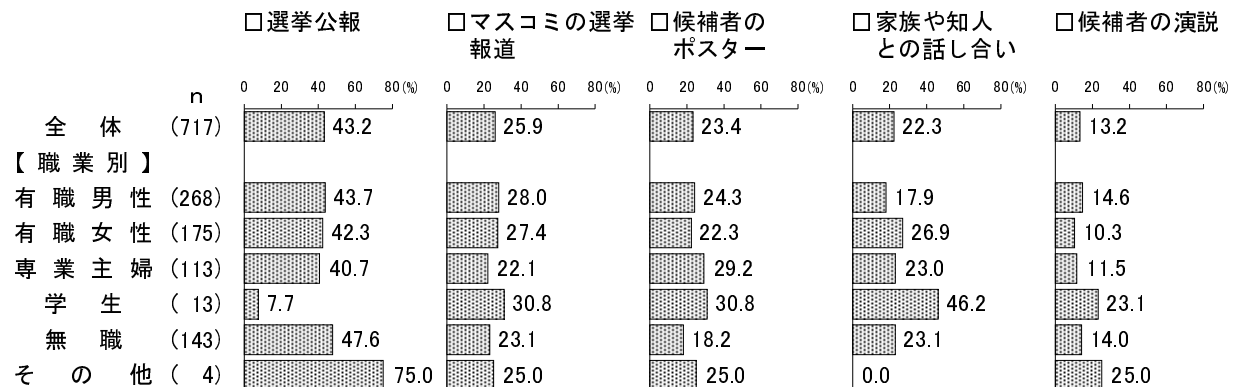
図表7-1-9 候補者を選ぶのに役立ったもの—性別・性／年齢別（上位5項目）



【職業別】

職業別で見ると、「選挙公報」は無職で5割近くとなっている。(図表7-1-10)

図表7-1-10 候補者を選ぶのに役立ったもの—職業別（上位5項目）

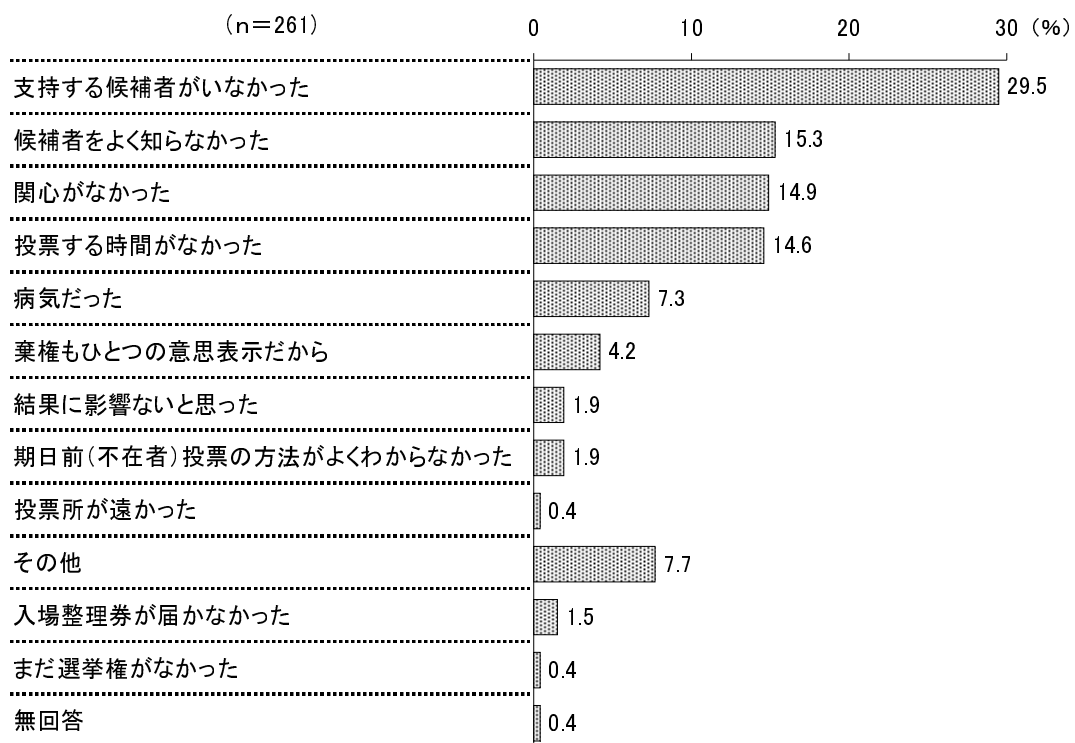


(4) 棄権理由

◇「支持する候補者がいなかった」が3割

平成29年7月に行われた東京都議会議員選挙に「棄権した」と答えた方(261人)に、その理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかった」(29.5%)が3割で最も多く、次いで「候補者をよく知らなかった」(15.3%)、「関心がなかった」(14.9%)、「投票する時間がなかった」(14.6%)と続いている。(図表7-1-11)

図表7-1-11 棄権理由

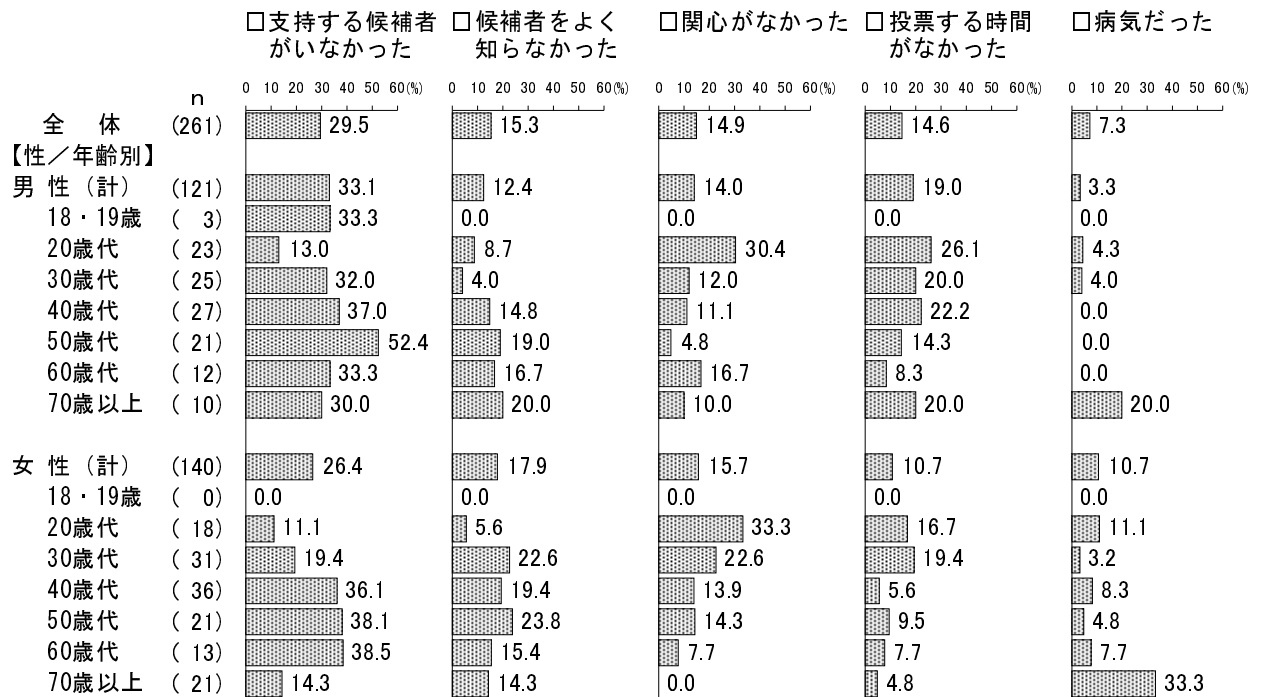


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「投票する時間がなかった」は男性の方が女性より8ポイント高くなっている。一方、「病気だった」は女性の方が男性より7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「支持する候補者がいなかった」は男性50歳代で5割を超えている。「関心がなかった」は男女とも20歳代で3割台となっている。(図表7-1-12)

図表7-1-12 棄権理由—性別・性／年齢別（上位5項目）



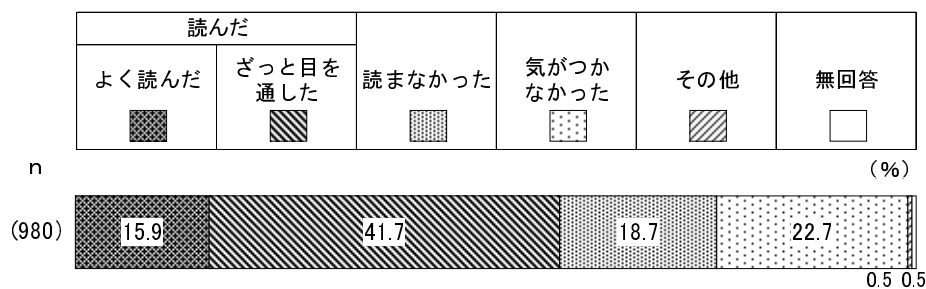
7-2 「選挙公報」の閲読状況

◇《読んだ》は6割近く

問14	区の選挙管理委員会では、東京都議会議員選挙の「選挙公報」を各戸配布し、また、区内各施設や区内各駅に公報スタンドを設置しましたが、あなたはお読みにになりましたか。次の中から1つだけ選んでください。(回答者数=980)				
1	よく読んだ	15.9%	4	気がつかなかった	22.7%
2	ざっと目を通した	41.7%	5	その他	0.5%
3	読まなかった	18.7%		無回答	0.5%

東京都議会議員選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」(15.9%)と「ざっと目を通した」(41.7%)の2つを合わせた《読んだ》(57.6%)は6割近くとなっている。一方、「読まなかった」(18.7%)は2割近く、「気がつかなかった」(22.7%)は2割を超えている。(図表7-2-1)

図表7-2-1 「選挙公報」の閲読状況

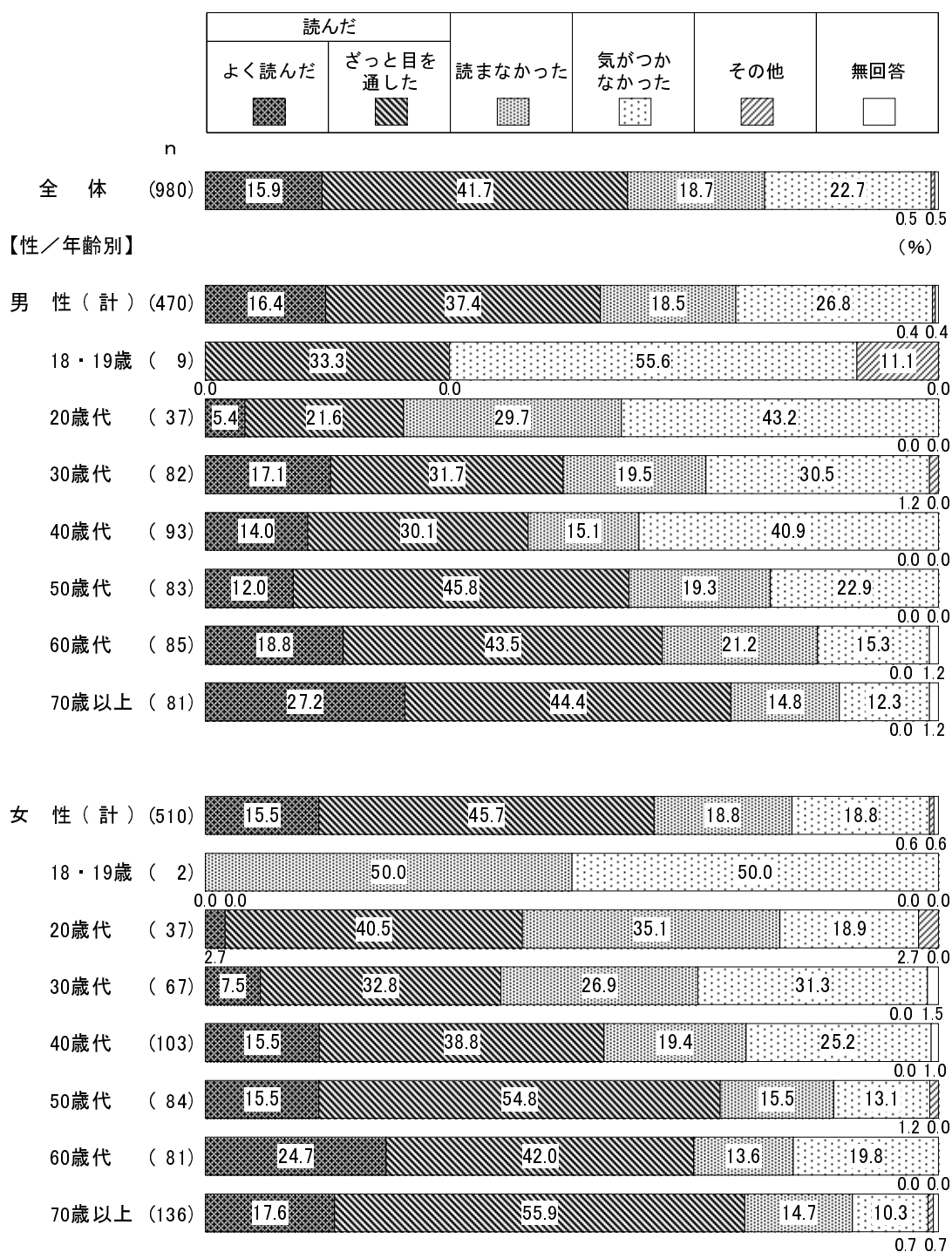


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「ざっと目を通した」は女性の方が男性より8ポイント高くなっている。一方、「気がつかなかった」は男性の方が女性より8ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「読んだ」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高く、女性の50歳代と70歳以上、男性70歳以上で7割台となっている。(図表7-2-2)

図表7-2-2 「選挙公報」の閲読状況－性別・性／年齢別



8 区 議 会

8-1 「こうとう区議会だより」の閲読状況

8-2 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体

8 区議会

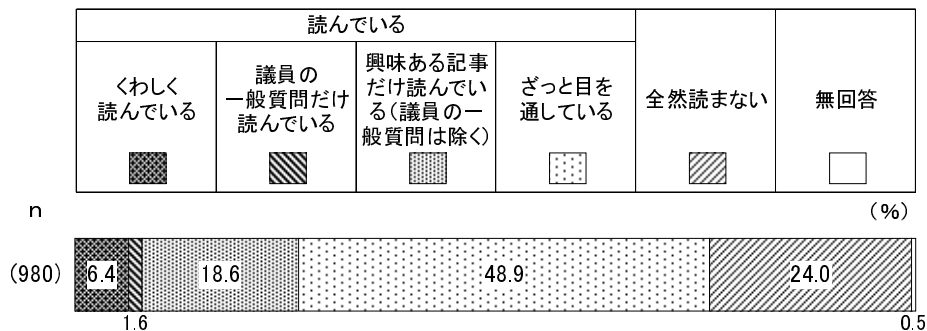
8-1 「こうとう区議会だより」の閲読状況

◇「読んでいます」は7割台半ば

問15	「こうとう区議会だより」は全世帯の方にお届けしていますが、どのくらい読んでいますか。次の中から1つだけ選んでください。(回答者数=980)	
1	くわしく読んでいます	6.4%
2	議員の一般質問だけ読んでいます	1.6%
3	興味ある記事だけ読んでいます(議員の一般質問は除く)	18.6%
4	ざっと目を通している	48.9%
5	全然読まない	24.0%
	無回答	0.5%

「こうとう区議会だより」をどのくらい読んでいるか聞いたところ、「くわしく読んでいます」(6.4%)、「議員の一般質問だけ読んでいます」(1.6%)、「興味ある記事だけ読んでいます(議員の一般質問は除く)」(18.6%)、「ざっと目を通している」(48.9%)の4つを合わせた「読んでいます」(75.5%)が7割台半ばとなっている。(図表8-1-1)

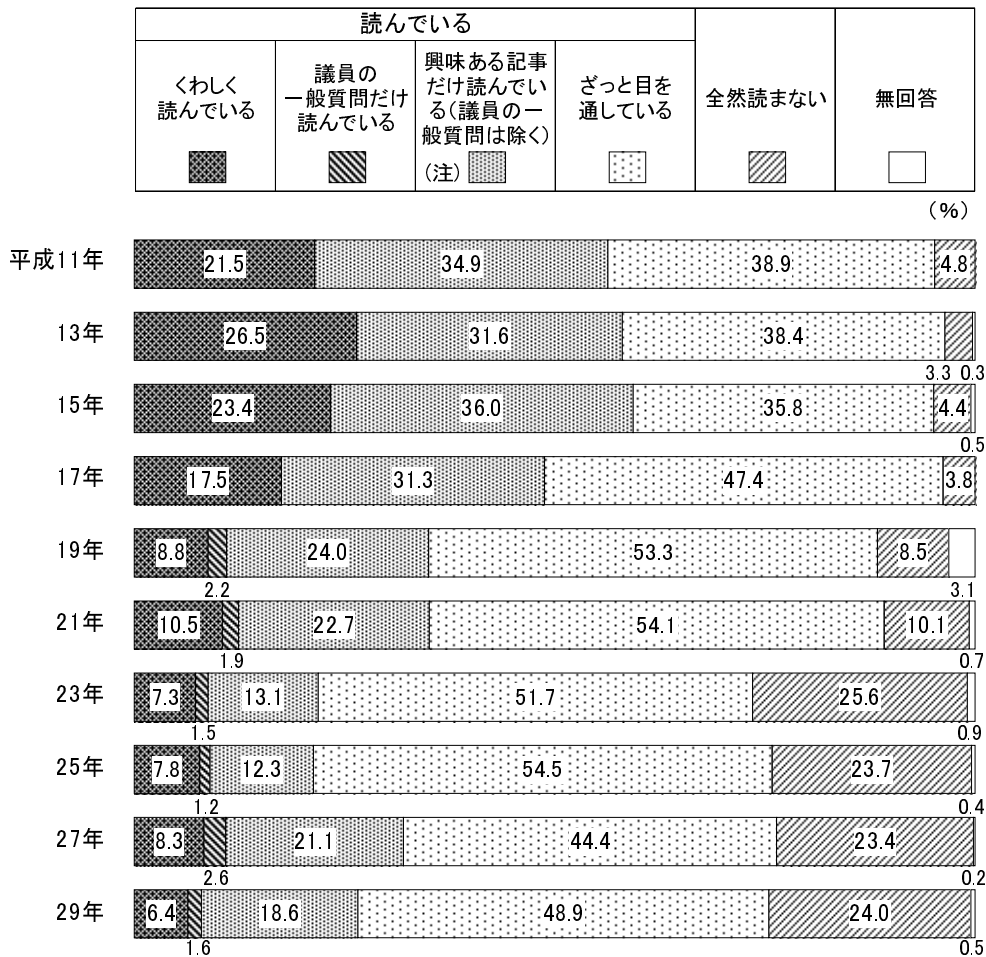
図表8-1-1 「こうとう区議会だより」の閲読状況



【時系列比較】

時系列の変化をみると、「ざっと目を通している」は前回調査と比べて5ポイント高くなっている。（図表8-1-2）

図表8-1-2 「こうとう区議会だより」の閲読状況—時系列比較



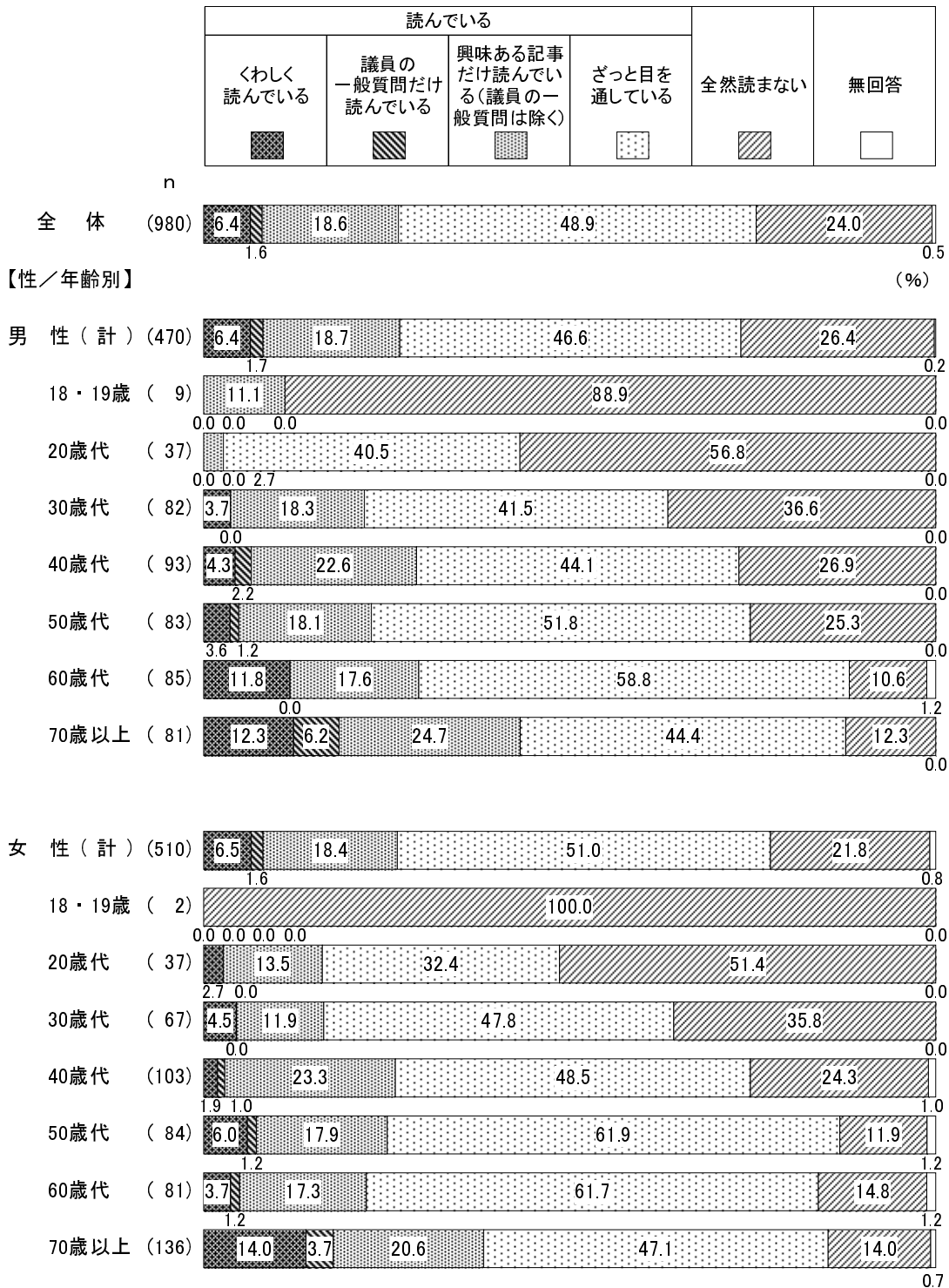
(注) 平成17年までは「興味ある記事だけを読んでいる」

【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「ざっと目を通して」は女性の方が男性より4ポイント高くなっている。
 性／年齢別で見ると、「読んでいる」は男性の60歳以上の年代と女性50歳代で9割近く
 となっている。一方、「全然読まない」は男女とも20歳代で5割台となっている。

(図表8-1-3)

図表8-1-3 「こうとう区議会だより」の閲読状況－性別・性／年齢別



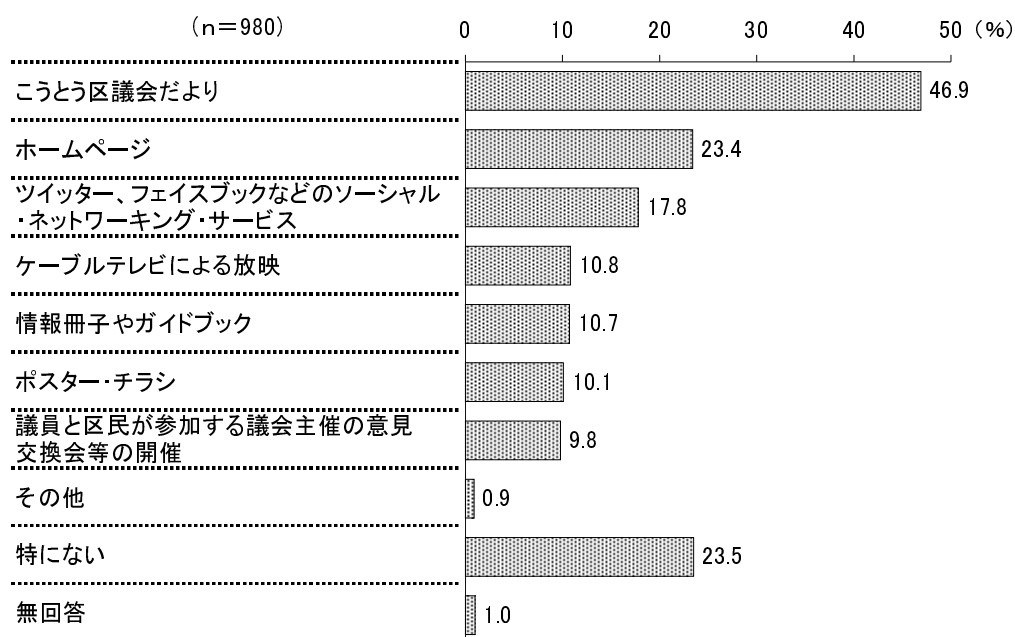
8-2 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体

◇「こうとう区議会だより」が5割近く

問16	区議会では、より開かれた議会の実現を目指しています。議会情報の発信媒体や方法として、充実・導入を求めるものは何ですか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=980)	
1	こうとう区議会だより	46.9%
2	ホームページ	23.4%
3	ケーブルテレビによる放映	10.8%
4	ポスター・チラシ	10.1%
5	情報冊子やガイドブック	10.7%
6	ツイッター、フェイスブックなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス	17.8%
7	議員と区民が参加する議会主催の意見交換会等の開催	9.8%
8	その他	0.9%
9	特にない	23.5%
	無回答	1.0%

充実・導入してほしい議会情報の発信媒体を聞いたところ、「こうとう区議会だより」(46.9%)が5割近くで最も多く、次いで「ホームページ」(23.4%)、「ツイッター、フェイスブックなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス」(17.8%)、「ケーブルテレビによる放映」(10.8%)と続いている。(図表8-2-1)

図表8-2-1 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体(複数回答)



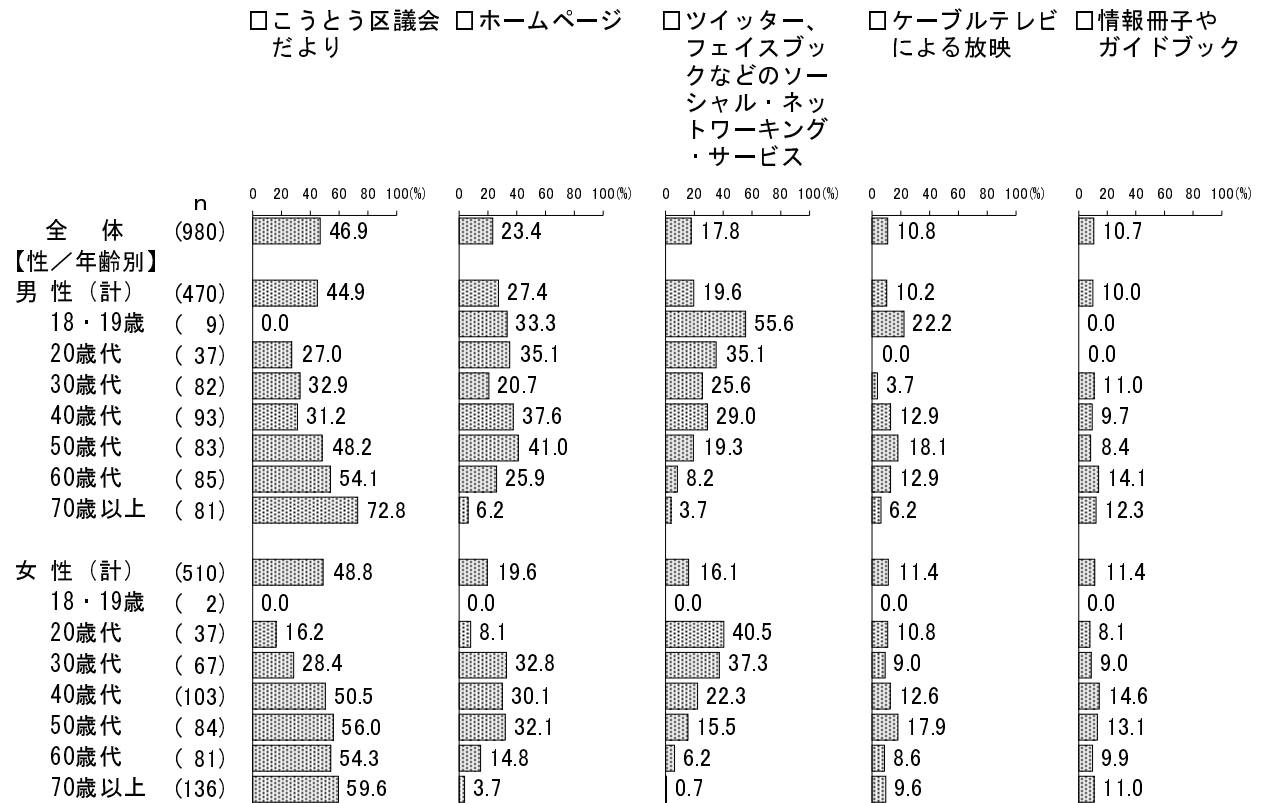
【性別・性／年齢別】

性別でみると、「ホームページ」は男性の方が女性より8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「こうとう区議会だより」は男性70歳以上で7割を超え、「ホームページ」は男性50歳代で4割を超えている。「ツイッター、フェイスブックなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス」は男女ともおおむね低い年代ほど割合が高くなっている。

(図表8-2-2)

図表8-2-2 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体－性別・性／年齢別（上位5項目）



9 図書館

9 - 1 区内図書館の利用頻度

9 図書館

9-1 区内図書館の利用頻度

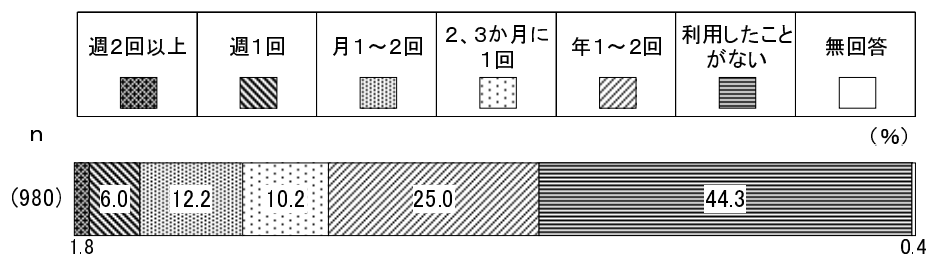
◇「年1～2回」が2割台半ば

問17	区では、図書館における地域の読書活動を推進することにより、誰もが利用しやすい生涯学習の機会を提供することを目指しています。あなたの区内図書館の利用頻度について、もっとも近いものを次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=980)			
	1 週2回以上	1.8%	4 2、3か月に1回	10.2%
	2 週1回	6.0%	5 年1～2回	25.0%
	3 月1～2回	12.2%	6 利用したことがない	44.3%
			無回答	0.4%
問17-1	(問17で、「5 年1～2回」か「6 利用したことがない」とお答えの方に) あなたはどのような図書館サービスが提供されると図書館を利用する様になりますか。次の中から当てはまるものを次の中から <u>すべて</u> 選んでください。(回答者数=679)			
	1 開館時間の延長			15.8%
	2 開館日数の増加			5.3%
	3 資料の充実(図書・雑誌・CD・DVD・データベース等)			23.3%
	4 IT化の推進(自動貸出返却機の設置・Wi-Fi環境の拡大等)			14.7%
	5 レファレンス(調べもの支援)の充実			8.0%
	6 乳幼児・児童・中高生向けサービスの充実(読み聞かせ・学校連携等)			4.7%
	7 高齢者向けサービスの実施(朗読会・高齢者向け施設との連携等)			7.5%
	8 その他			8.7%
	9 特にない			45.2%
	無回答			3.5%

(1) 区内図書館の利用頻度

区内図書館の利用頻度を聞いたところ、「年1～2回」(25.0%)が2割台半ばとなっている。一方、「利用したことがない」(44.3%)は4割台半ばとなっている。(図表9-1-1)

図表9-1-1 区内図書館の利用頻度

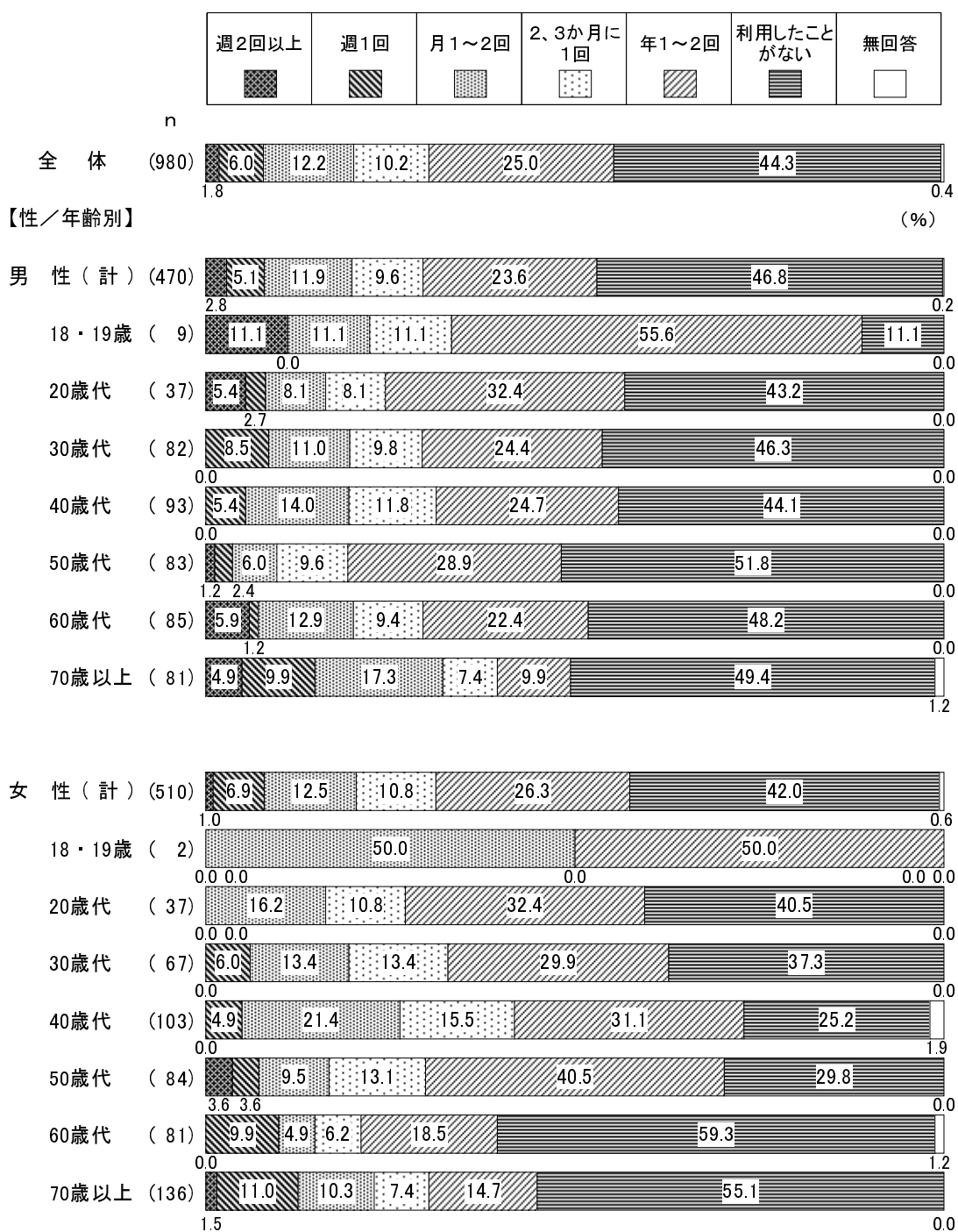


【性別・性／年齢別】

性別でみると、「利用したことがない」は男性の方が女性より5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「年1～2回」は女性50歳代でほぼ4割となっている。「月1～2回」は女性40歳代で2割を超えている。一方、「利用したことがない」は女性60歳代でほぼ6割となっている。（図表9-1-2）

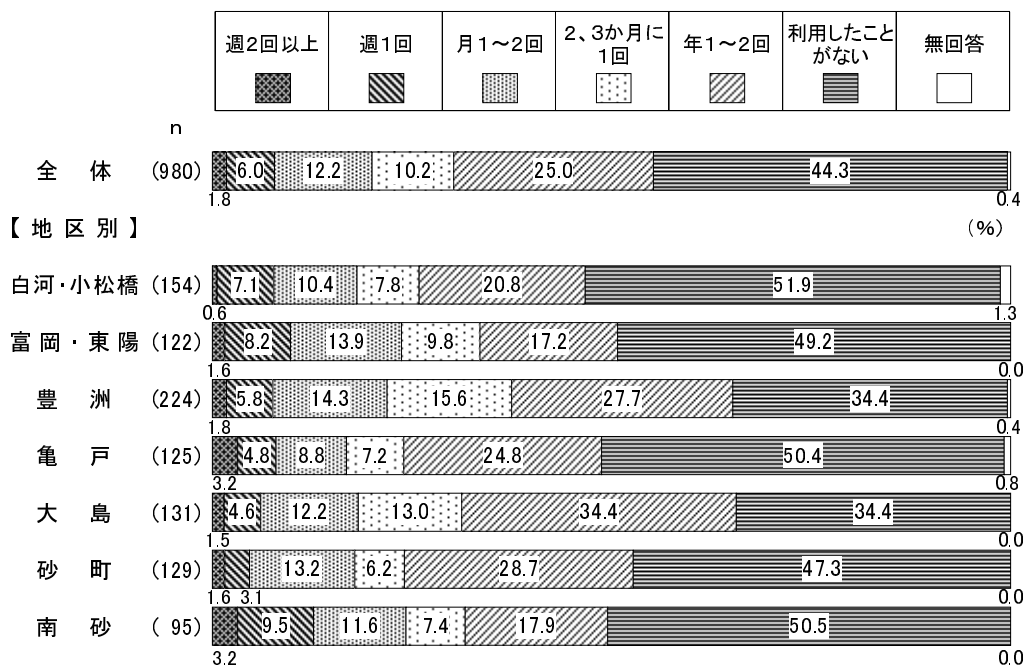
図表9-1-2 区内図書館の利用頻度－性別・性／年齢別



【地区別】

地区別でみると、「年1～2回」は【大島】地区で3割台半ばとなっている。一方、「利用したことがない」は【白河・小松橋】地区、【南砂】地区、【亀戸】地区で5割台となっている。（図表9-1-3）

図表9-1-3 区内図書館の利用頻度—地区別

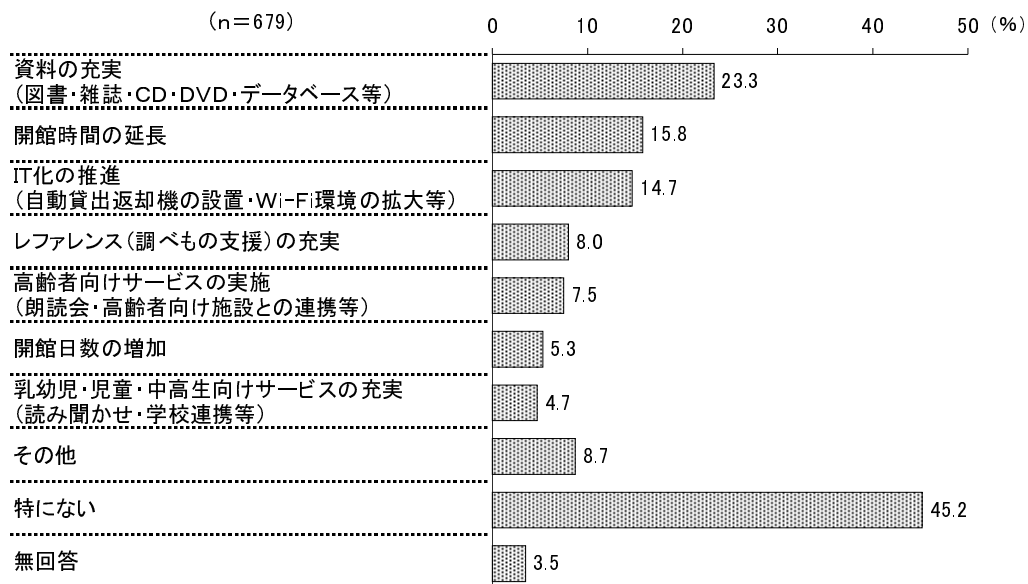


(2) どのようなサービスが提供されると図書館を利用するか

◇「資料の充実（図書・雑誌・CD・DVD・データベース等）」が2割を超える

区内図書館の利用頻度を、「年1～2回」か「利用したことがない」と答えた方(679人)に、どのようなサービスが提供されると図書館を利用するか聞いたところ、「資料の充実（図書・雑誌・CD・DVD・データベース等）」(23.3%)が2割を超えている。（図表9-1-4）

図表9-1-4 どのようなサービスが提供されると図書館を利用するか（複数回答）

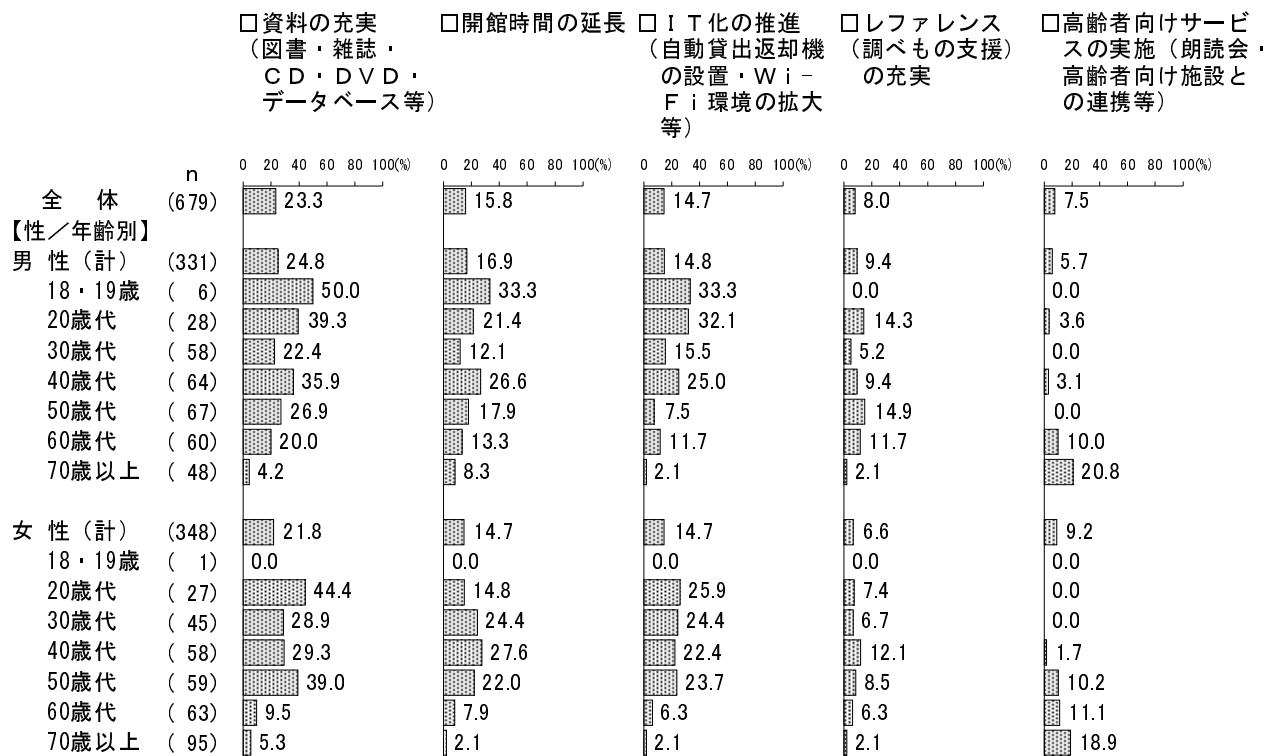


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「高齢者向けサービスの実施（朗読会・高齢者向け施設との連携等）」は女性の方が男性より4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「資料の充実（図書・雑誌・CD・DVD・データベース等）」は女性20歳代で4割台半ばとなっている。「IT化の推進（自動貸出返却機の設置・Wi-Fi環境の拡大等）」は男性20歳代で3割を超えている。（図表9-1-5）

図表9-1-5 どのようなサービスが提供されると図書館を利用するかー性別・性／年齢別（上位5項目）



10 江東区ブランディング戦略

10-1 区のブランドコンセプトの認知状況

10-2 区に持っている印象

10 江東区ブランディング戦略

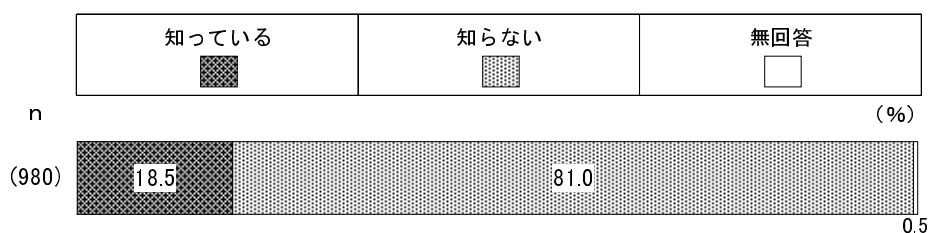
10-1 区のブランドコンセプトの認知状況

◇「知らない」が8割を超える

問18	あなたは区のブランドコンセプト「 ^{スポーツ} & ^{アンド} ^{サポート} ^{コウトウ} ^{シティ} ^{イン} ^{トウキョウ} スポーツと人情が熱いまち 江東区」を知っていますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。 (回答者数=980)			
1	知っている	18.5%	2 知らない	81.0%
			無回答	0.5%

区のブランドコンセプトを知っているか聞いたところ、「知っている」（18.5%）は2割近く、「知らない」（81.0%）が8割を超えている。（図表10-1-1）

図表10-1-1 区のブランドコンセプトの認知状況

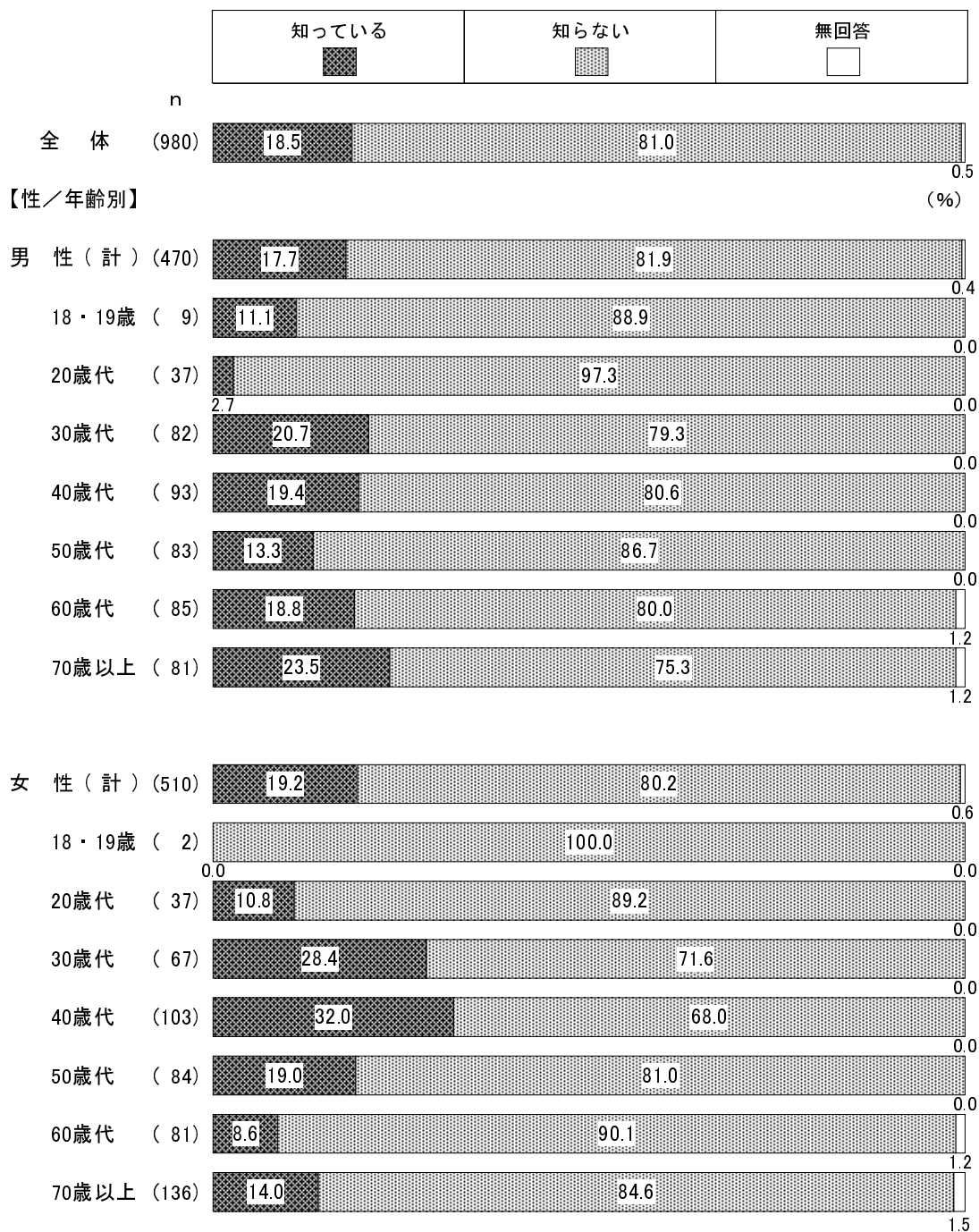


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、大きな差はみられない。

性／年齢別で見ると、「知っている」は女性40歳代で3割を超えている。一方、「知らない」は男性20歳代と女性60歳代で9割台となっている。（図表10-1-2）

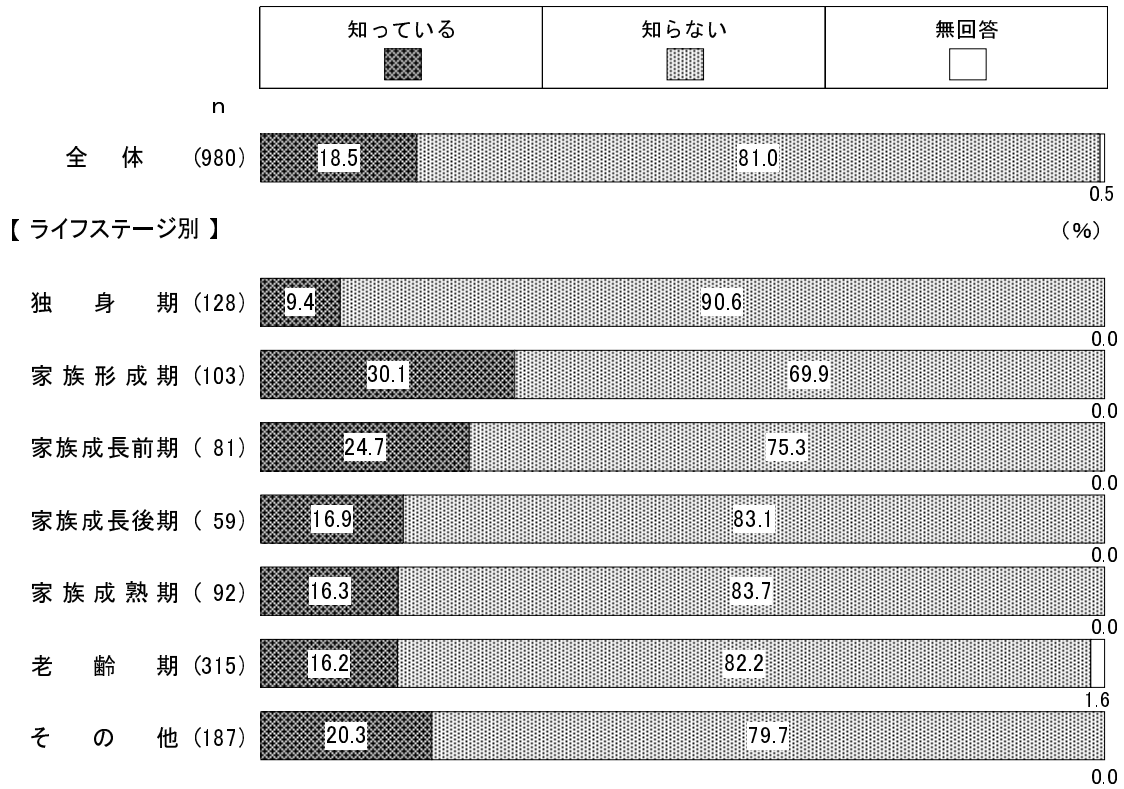
図表10-1-2 区のブランドコンセプトの認知状況－性別・性／年齢別



【ライフステージ別】

ライフステージ別でみると、「知っている」は家族形成期で3割、家族成長前期で2割台半ばとなっている。一方、「知らない」は独身期でほぼ9割となっている。（図表10-1-3）

図表 10-1-3 区のブランドコンセプトの認知状況－ライフステージ別



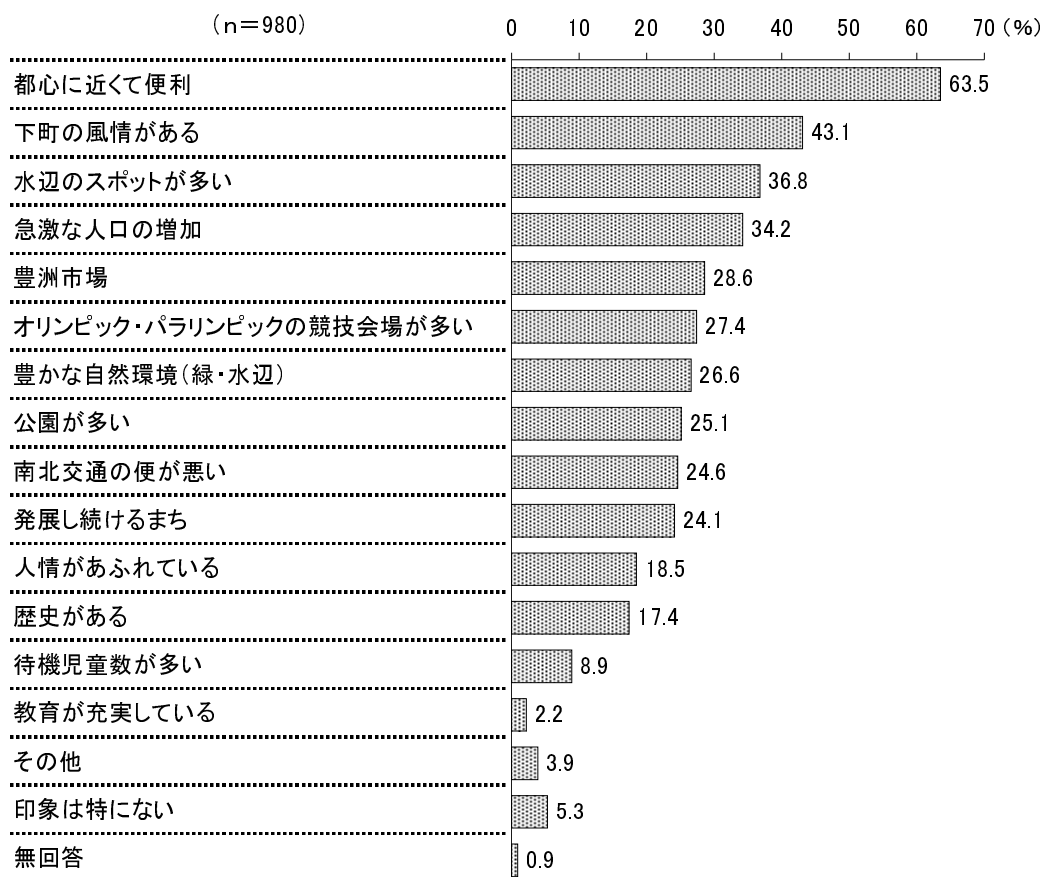
10-2 区に持っている印象

◇「都心に近くて便利」が6割を超える

問19	あなたは江東区にどのような印象をお持ちですか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=980)				
1	発展し続けるまち	24.1%	9	下町の風情がある	43.1%
2	人情があふれている	18.5%	10	南北交通の便が悪い	24.6%
3	豊かな自然環境(緑・水辺)	26.6%	11	待機児童数が多い	8.9%
4	都心に近くて便利	63.5%	12	急激な人口の増加	34.2%
5	歴史がある	17.4%	13	公園が多い	25.1%
6	水辺のスポットが多い	36.8%	14	教育が充実している	2.2%
7	オリンピック・パラリンピック の競技会場が多い	27.4%	15	その他	3.9%
8	豊洲市場	28.6%	16	印象は特にない	5.3%
				無回答	0.9%

江東区にどのような印象を持っているか聞いたところ、「都心に近くて便利」(63.5%)が6割を超えて最も多く、次いで「下町の風情がある」(43.1%)、「水辺のスポットが多い」(36.8%)、「急激な人口の増加」(34.2%)と続いている。(図表10-2-1)

図表10-2-1 区に持っている印象(複数回答)

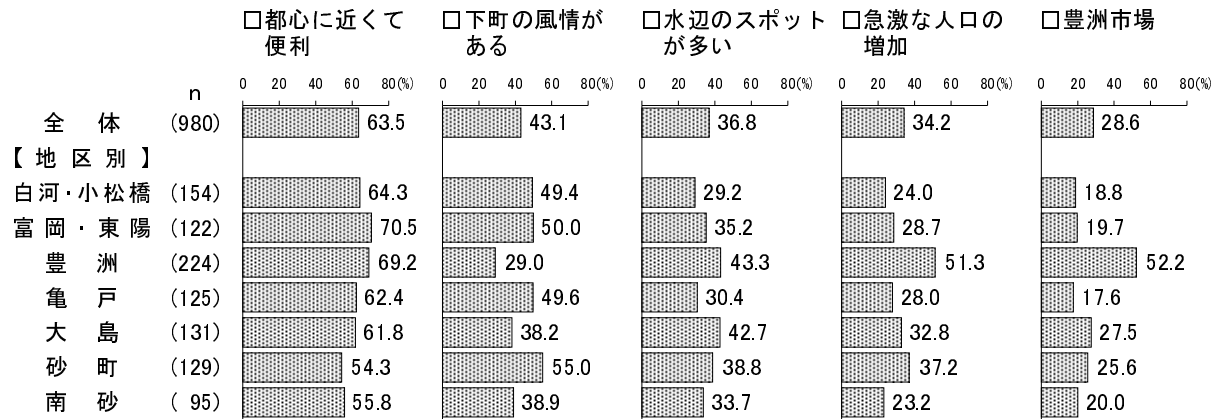


【地区別】

地区別でみると、「都心に近くて便利」は【富岡・東陽】地区と【豊洲】地区でほぼ7割と
なっている。「下町の風情がある」は【砂町】地区で5割台半ばとなっている。

(図表 10-2-2)

図表 10-2-2 区に持っている印象－地区別（上位5項目）

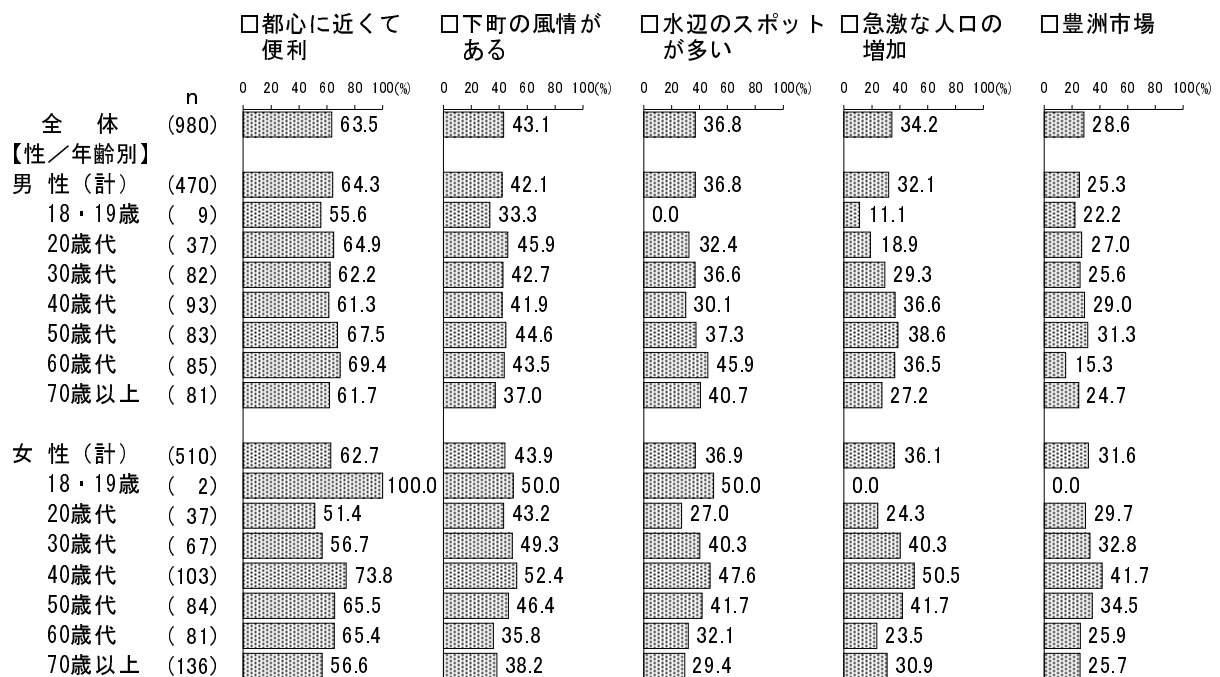


【性別・性／年齢別】

性別でみると、「豊洲市場」は女性の方が男性より6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「都心に近くて便利」は女性40歳代で7割を超えている。「下町の風情がある」は女性40歳代で5割を超えている。（図表 10-2-3）

図表 10-2-3 区に持っている印象－性別・性／年齢別（上位5項目）



11 学校安全

11-1 児童生徒の安全を確保するために必要なこと

11-2 学校の不審者対策として有効なもの

11 学校安全

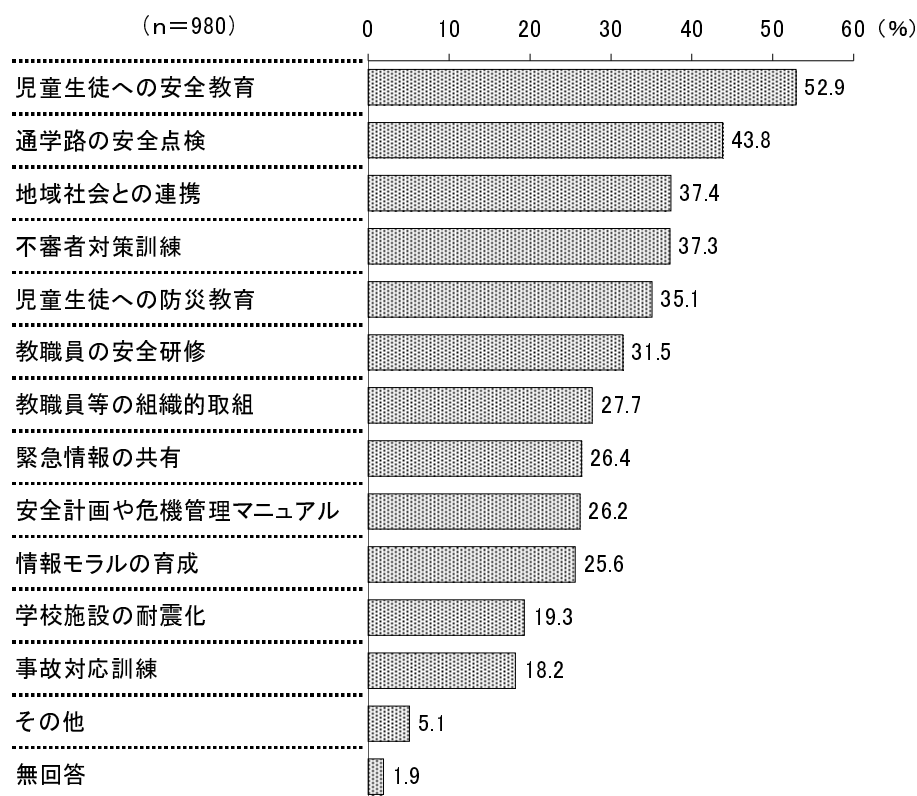
11-1 児童生徒の安全を確保するために必要なこと

◇「児童生徒への安全教育」が5割を超える

問20	あなたは、児童生徒の安全を確保するために何が必要だと思いますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=980)				
1	教職員等の組織的取組	27.7%	8	不審者対策訓練	37.3%
2	安全計画や危機管理マニュアル	26.2%	9	通学路の安全点検	43.8%
3	教職員の安全研修	31.5%	10	事故対応訓練	18.2%
4	児童生徒への安全教育	52.9%	11	地域社会との連携	37.4%
5	児童生徒への防災教育	35.1%	12	緊急情報の共有	26.4%
6	情報モラルの育成	25.6%	13	その他	5.1%
7	学校施設の耐震化	19.3%		無回答	1.9%

児童生徒の安全を確保するために何が必要だと思うか聞いたところ、「児童生徒への安全教育」（52.9%）が5割を超えて最も多く、次いで「通学路の安全点検」（43.8%）、「地域社会との連携」（37.4%）、「不審者対策訓練」（37.3%）と続いている。（図表11-1-1）

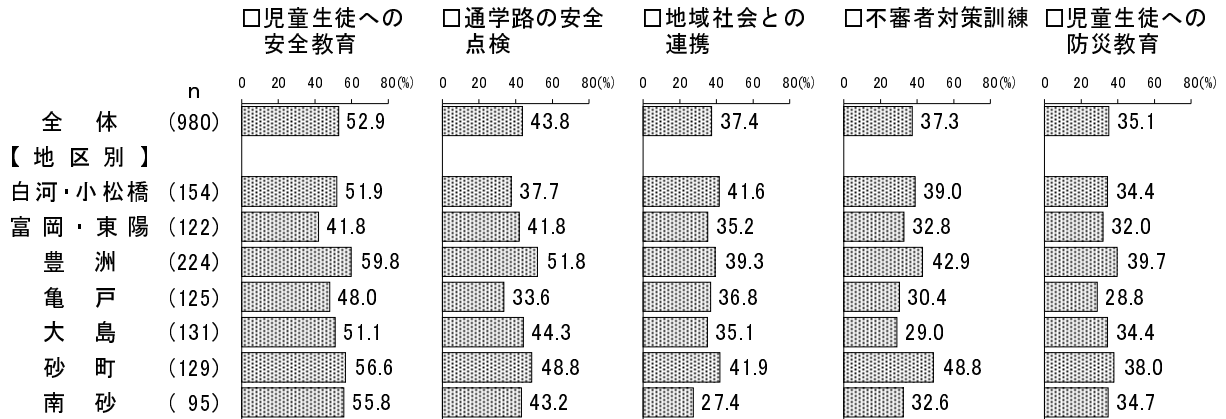
図表11-1-1 児童生徒の安全を確保するために必要なこと（複数回答）



【地区別】

地区別でみると、「児童生徒への安全教育」は【豊洲】地区で6割となっている。「通学路の安全点検」は【豊洲】地区で5割を超え、「不審者対策訓練」は【砂町】地区で5割近くとなっている。（図表 11-1-2）

図表 11-1-2 児童生徒の安全を確保するために必要なこと－地区別（上位5項目）



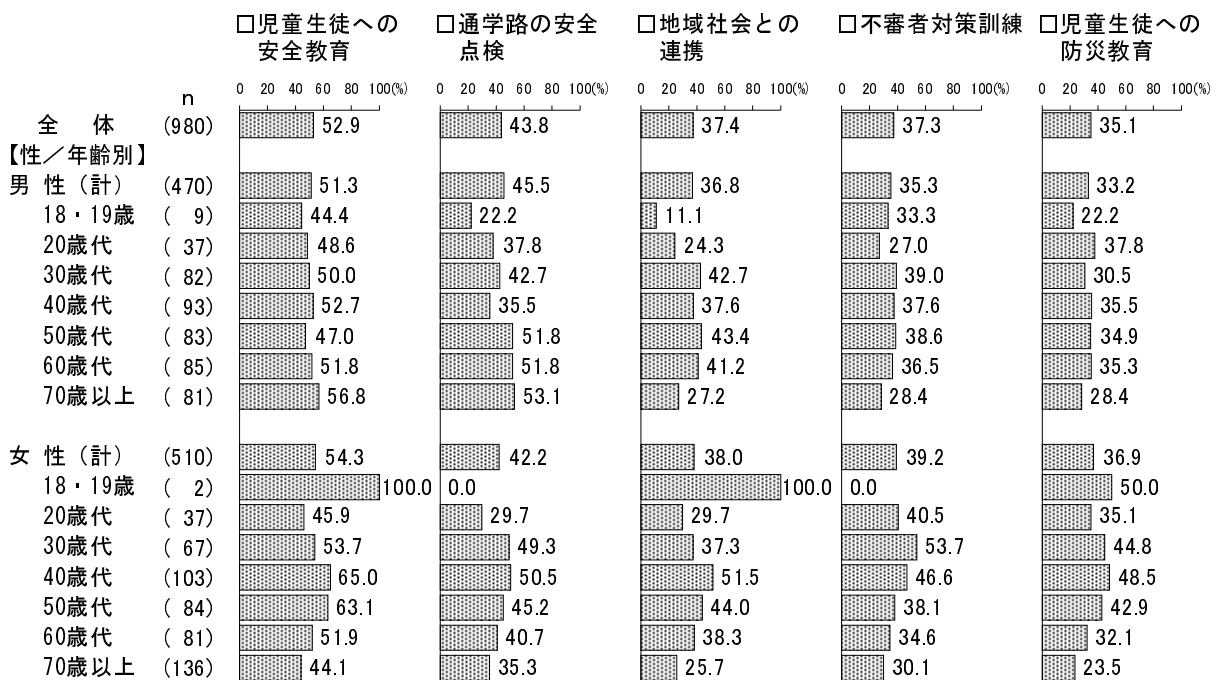
【性別・性／年齢別】

性別でみると、「不審者対策訓練」と「児童生徒への防災教育」は女性の方が男性よりそれぞれ4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「児童生徒への安全教育」は女性の40歳代と50歳代で6割台となっている。「不審者対策訓練」は女性30歳代で5割を超えている。（図表 11-1-3）

図表 11-1-3 児童生徒の安全を確保するために必要なこと－性別・性／年齢別

（上位5項目）



11-2 学校の不審者対策として有効なもの

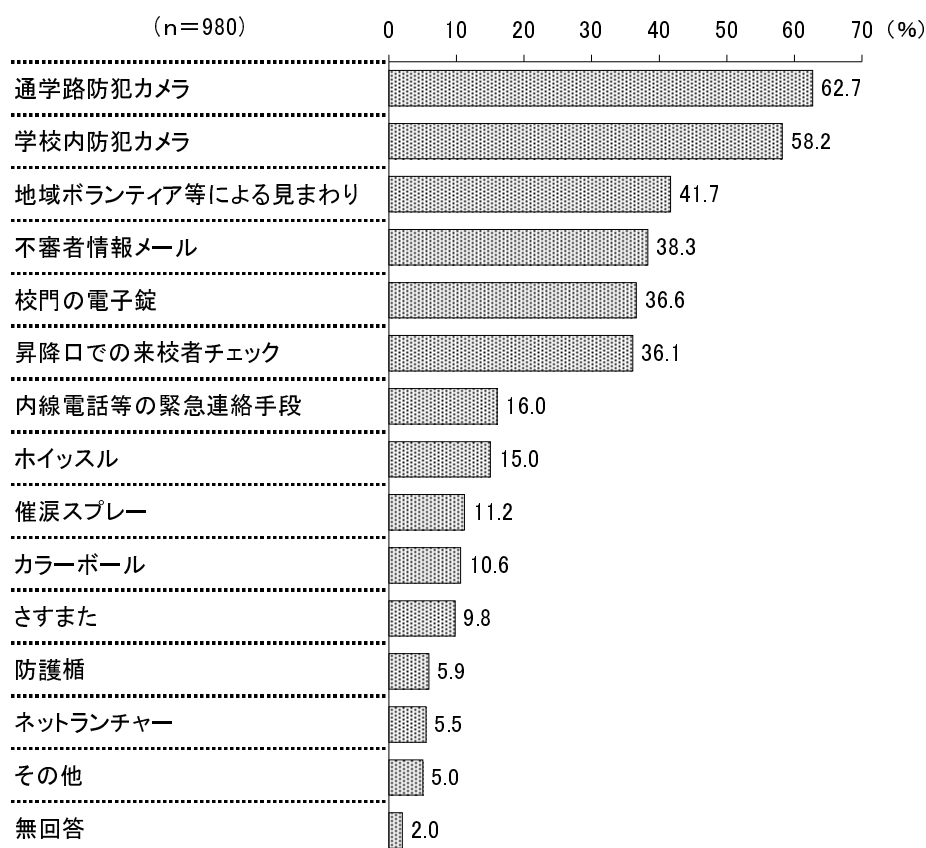
◇「通学路防犯カメラ」が6割を超える

問21	あなたは、学校の不審者対策として何が有効だと思いますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=980)				
1	校門の電子錠	36.6%	9	ネットランチャー	5.5%
2	昇降口での来校者チェック	36.1%	10	防護楯	5.9%
3	学校内防犯カメラ	58.2%	11	カラーボール	10.6%
4	通学路防犯カメラ	62.7%	12	ホイッスル	15.0%
5	不審者情報メール	38.3%	13	地域ボランティア等による	
6	内線電話等の緊急連絡手段	16.0%		見まわり	41.7%
7	さすまた	9.8%	14	その他	5.0%
8	催涙スプレー	11.2%		無回答	2.0%

学校の不審者対策として何が有効だと思うか聞いたところ、「通学路防犯カメラ」(62.7%)が6割を超えて最も多く、次いで「学校内防犯カメラ」(58.2%)、「地域ボランティア等による見まわり」(41.7%)、「不審者情報メール」(38.3%)と続いている。

(図表 11-2-1)

図表 11-2-1 学校の不審者対策として有効なもの(複数回答)

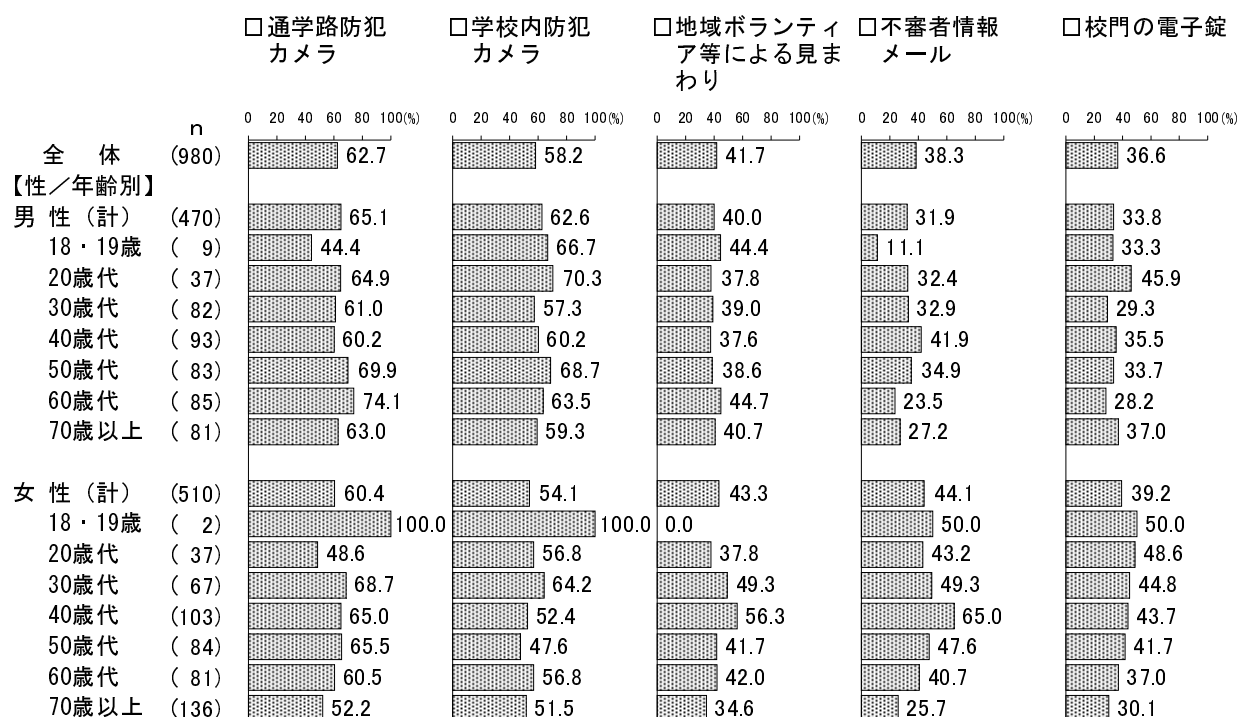


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「不審者情報メール」は女性の方が男性より12ポイント高くなっている。一方、「学校内防犯カメラ」は男性の方が女性より9ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「通学路防犯カメラ」は男性60歳代で7割台半ばとなっている。「学校内防犯カメラ」は男性20歳代で7割、「不審者情報メール」は女性40歳代で6割台半ばとなっている。（図表11-2-2）

図表 11-2-2 学校の不審者対策として有効なもの－性別・性／年齢別（上位5項目）



12 児 童 虐 待

12-1 身近で児童虐待があった場合の通告の有無

12 児童虐待

12-1 身近で児童虐待があった場合の通告の有無

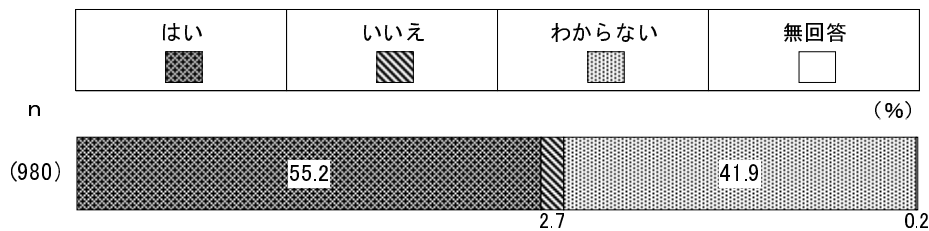
◇「通告（電話連絡）する」が5割台半ば

問22	あなたの身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合は通告（電話連絡）しますか。次の中から1つだけ選んでください。(回答者数=980)	
1	はい	55.2%
2	いいえ	2.7%
3	わからない	41.9%
	無回答	0.2%
問22-1	(問22で、「2 いいえ」か「3 わからない」とお答えの方に) あなたが通告（電話連絡）をしない、または、するかわからないのは何故ですか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=437)	
1	本当は虐待じゃないかもしれないから	71.2%
2	通告（電話連絡）したことが、相手や周囲に知られてしまうと嫌だから	13.3%
3	自分以外の他の人から通告（電話連絡）があるだろうから	4.3%
4	通告（電話連絡）したあとに、どのように対応されるか分からないから	19.5%
5	どこに連絡していいのかわからないから	46.2%
6	面倒なことに関わりたくないから	16.2%
7	その他	1.8%
問22-2	(問22で、「1 はい」とお答えの方に) あなたが、思いつく通告（電話連絡）先はどこですか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=541)	
1	区役所・子育て支援課／03-3647-4408	35.3%
2	江東区南砂子ども家庭支援センター（江東区こどもの虐待ホットライン） ／03-3646-5481（サブロウシロウ ゴヨウハイチバン）	13.3%
3	江東児童相談所／03-3640-5432	31.8%
4	児童相談所全国共通ダイヤル／189（いちはやく）	11.8%
5	警察／110番	70.6%
6	子どもの虐待防止センター／03-5300-2990	10.5%
7	近隣の保育園など公共施設	2.0%
8	その他	2.2%
	無回答	0.4%

(1) 身近で児童虐待があった場合の通告の有無

身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合は通告するか聞いたところ、「はい」(55.2%)が5割台半ば、「いいえ」(2.7%)はわずかとなっている。また、「わからない」(41.9%)は4割を超えている。(図表12-1-1)

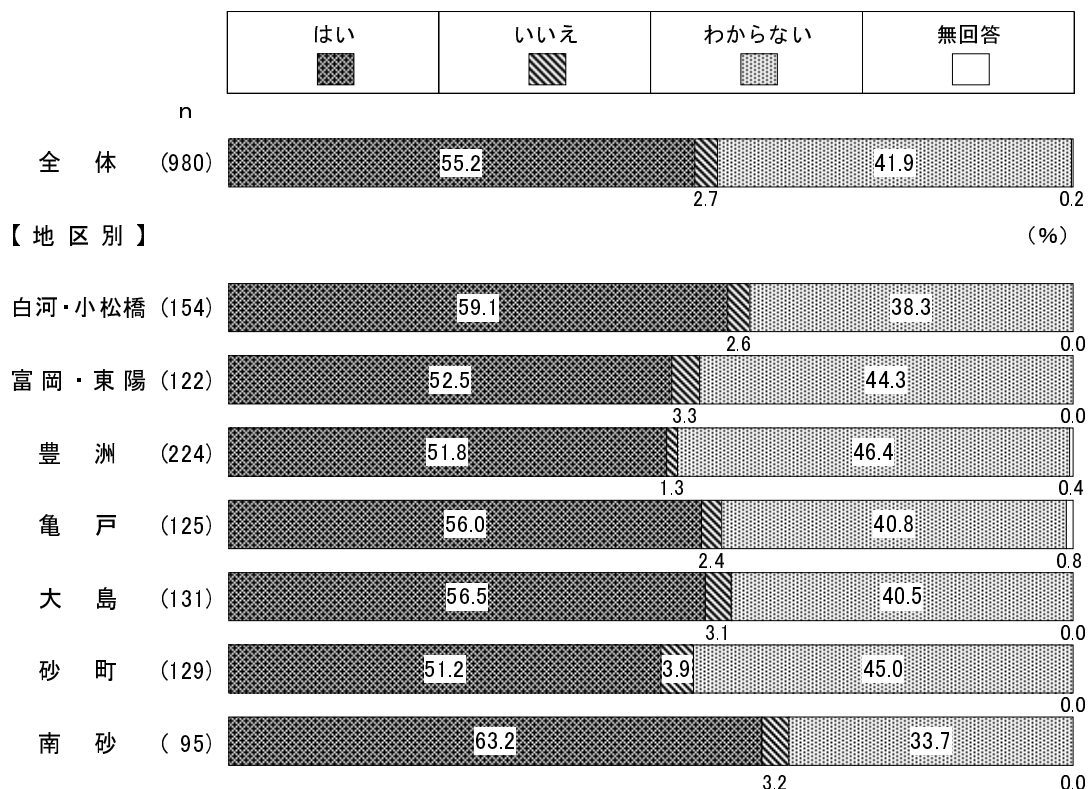
図表 12-1-1 身近で児童虐待があった場合の通告の有無



【地区別】

地区別でみると、「はい」は【南砂】地区で6割を超え、【白河・小松橋】地区でほぼ6割となっている。(図表12-1-2)

図表 12-1-2 身近で児童虐待があった場合の通告の有無—地区別



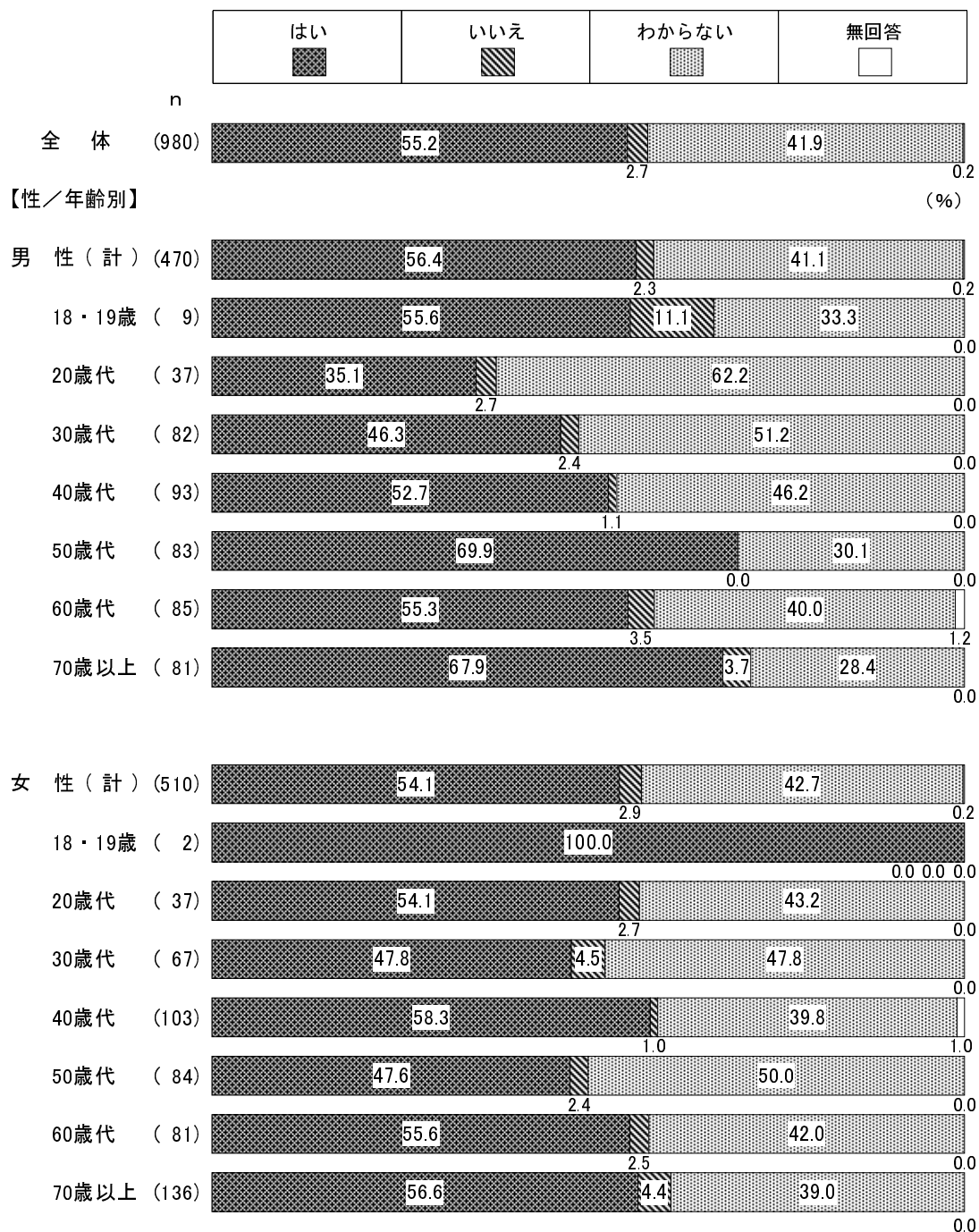
【性別・性／年齢別】

性別で見ると、大きな差はみられない。

性／年齢別で見ると、「はい」は男性の50歳代と70歳以上で6割台となっている。

(図表 12-1-3)

図表 12-1-3 身近で児童虐待があった場合の通告の有無－性別・性／年齢別

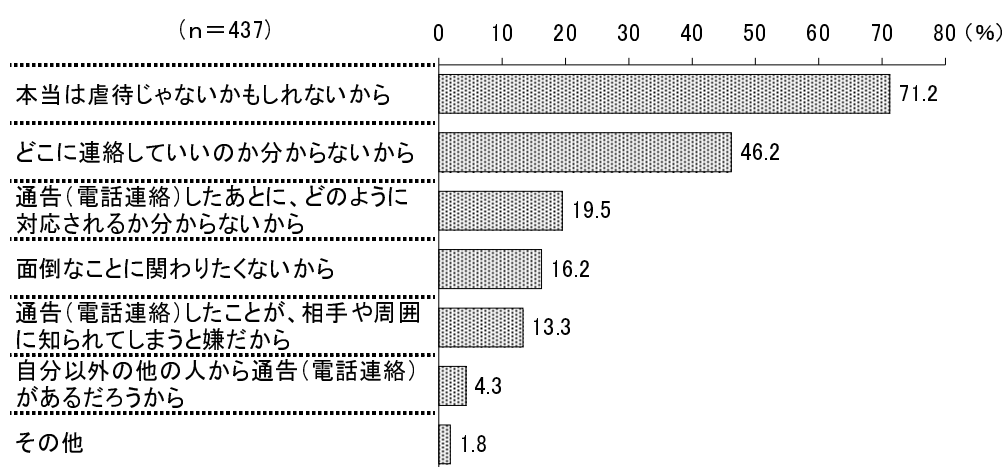


(2) 通告をしない、するかわからない理由

◇「本当は虐待じゃないかもしれないから」が7割を超える

身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合に、通告をしない、または、するかわからないと答えた方(437人)に、その理由を聞いたところ、「本当は虐待じゃないかもしれないから」(71.2%)が7割を超えて最も多く、次いで「どこに連絡していいのか分からないから」(46.2%)、「通告(電話連絡)したあとに、どのように対応されるか分からないから」(19.5%)と続いている。(図表12-2-1)

図表 12-2-1 通告をしない、するかわからない理由(複数回答)

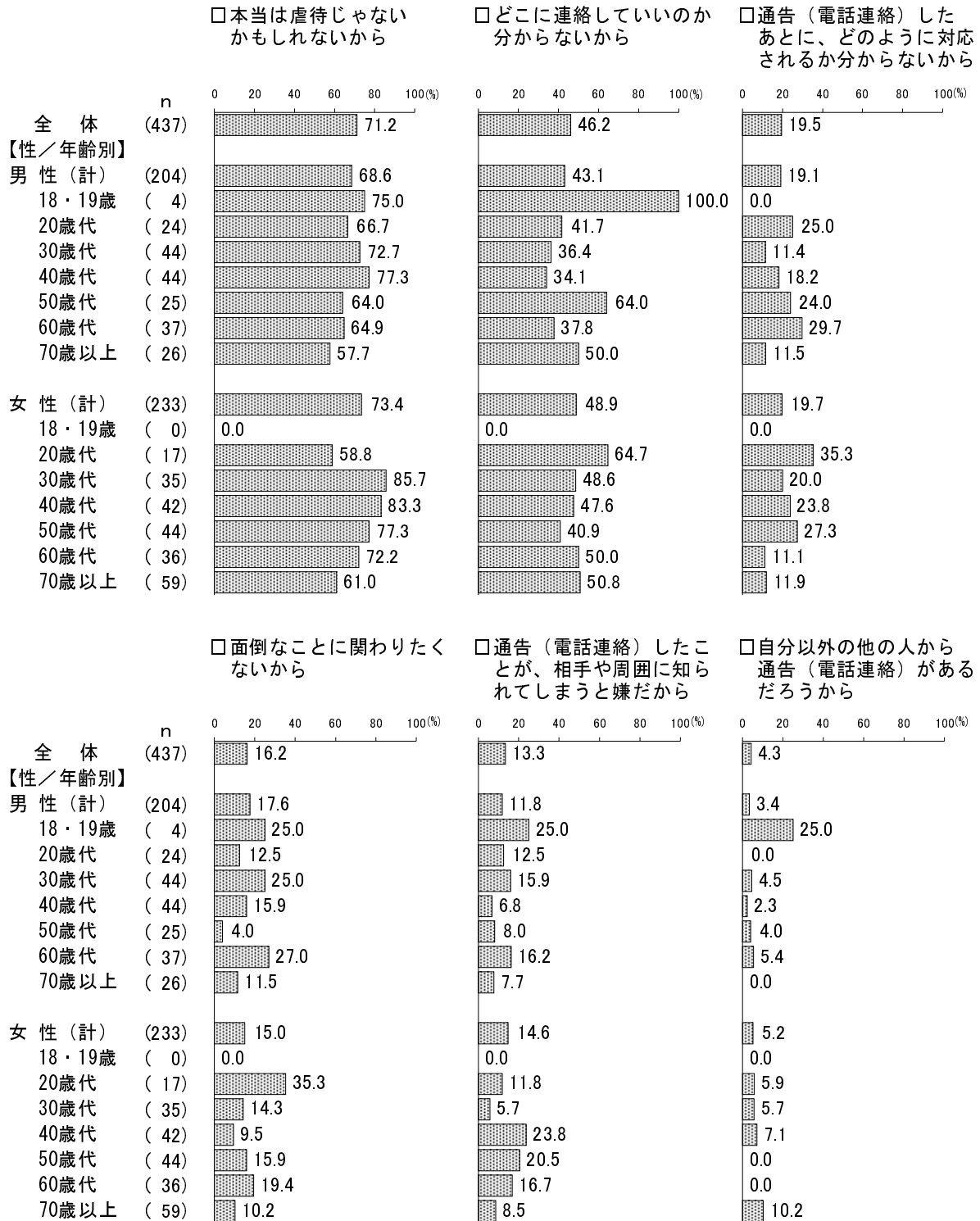


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「どこに連絡していいのかわからないから」は女性の方が男性より6ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「本当は虐待じゃないかもしれないから」は女性の30歳代と40歳代で8割台となっている。「どこに連絡していいのかわからないから」は女性20歳代と男性50歳代で6割台半ばとなっている。(図表12-2-2)

図表12-2-2 通告をしない、するかわからない理由－性別・性／年齢別（上位6項目）

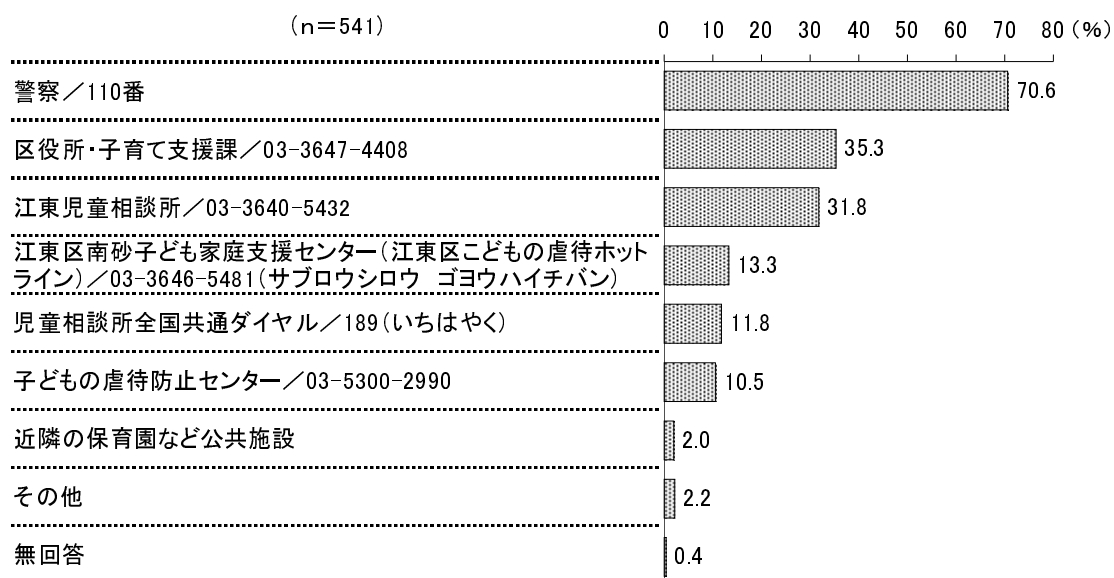


(3) 思いつく通告先

◇「警察／110番」がほぼ7割

身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合に、通告をすると答えた方(541人)に、思いつく通告先を聞いたところ、「警察／110番」(70.6%)がほぼ7割で最も多く、次いで「区役所・子育て支援課／03-3647-4408」(35.3%)、「江東児童相談所／03-3640-5432」(31.8%)と続いている。(図表12-3-1)

図表 12-3-1 思いつく通告先(複数回答)



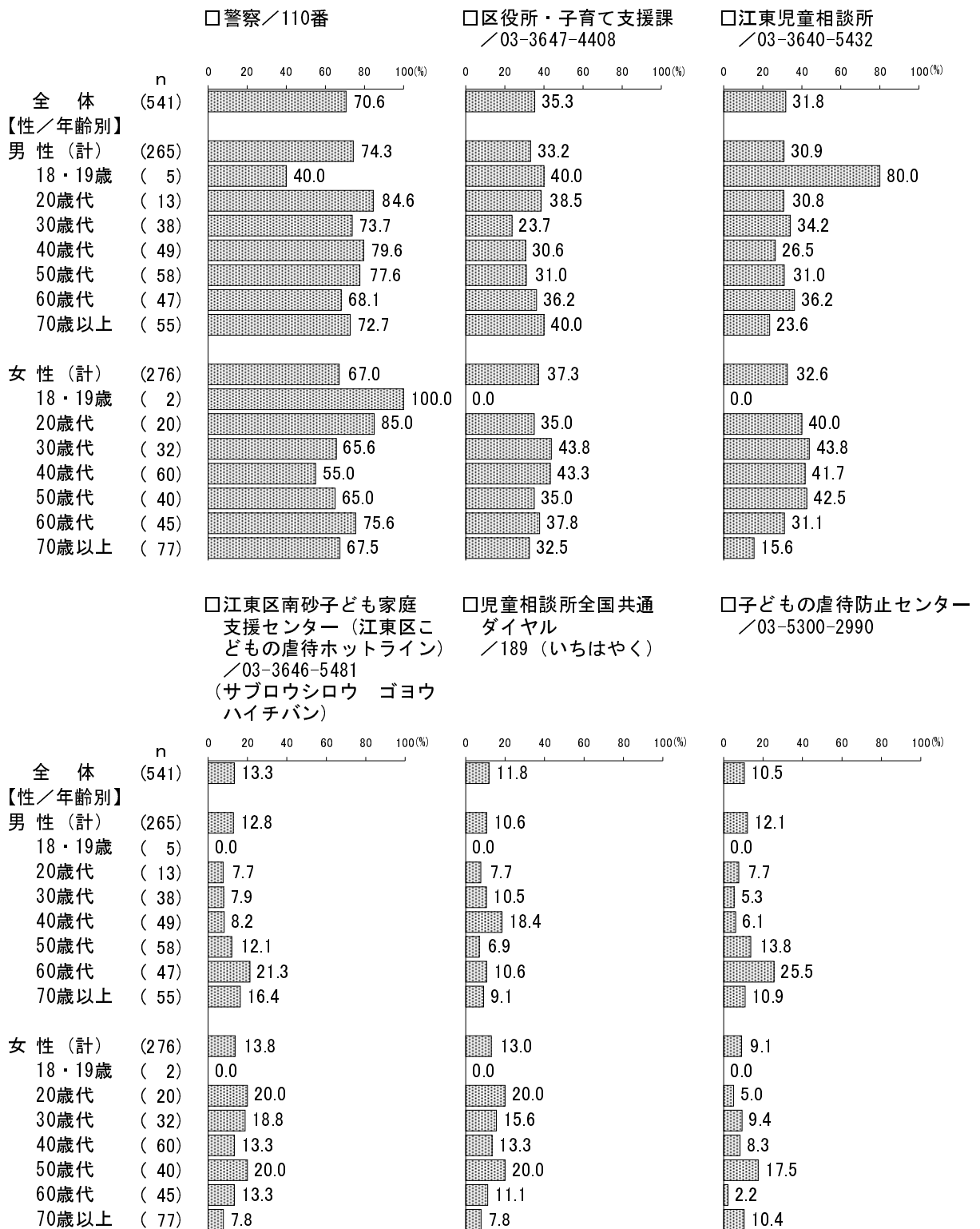
【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「警察／110番」は男性の方が女性より7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「警察／110番」は男女とも20歳代で8割台半ばとなっている。

(図表12-3-2)

図表12-3-2 思いつく通告先—性別・性／年齢別（上位6項目）



13 緑化推進

13-1 「C I G」の認知状況

13-2 江東区の緑が豊かだと思えるか

13-3 今後参加したい、または充実させて欲しいと思う緑に関する事業

13 緑化推進

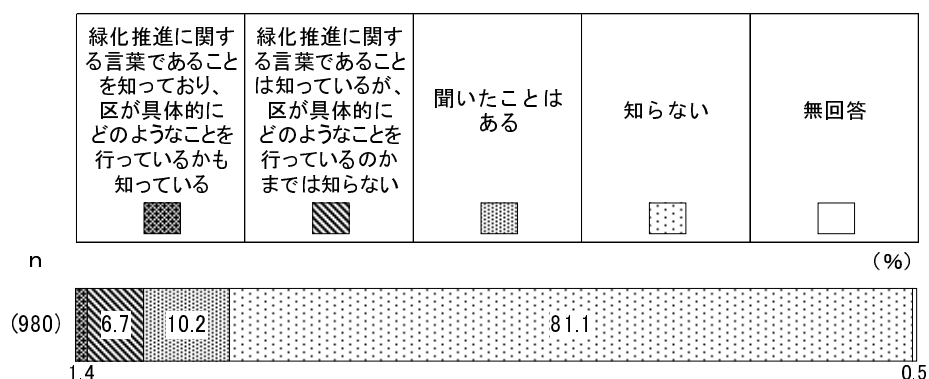
13-1 「C I G」の認知状況

◇「知らない」が8割を超える

問23	「江東区 ^{シティ} CITY ^{イン} IN ^ザ THE ^{グリーン} GREEN (C I G) ^{シーアイジー} 」は、「緑の中の都市」をイメージした、本区の緑化推進事業の総称です。あなたは、 ^{シーアイジー} C I Gという言葉を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。(回答者数=980)
1	緑化推進に関する言葉であることを知っており、区が具体的にどのようなことを行っているのかも知っている 1.4%
2	緑化推進に関する言葉であることは知っているが、区が具体的にどのようなことを行っているのかまでは知らない 6.7%
3	聞いたことはある 10.2%
4	知らない 81.1%
	無回答 0.5%

「C I G」という言葉を知っているか聞いたところ、「緑化推進に関する言葉であることを知っており、区が具体的にどのようなことを行っているのかも知っている」(1.4%)、「緑化推進に関する言葉であることは知っているが、区が具体的にどのようなことを行っているのかまでは知らない」(6.7%)は1割未満、「聞いたことはある」(10.2%)は1割となっている。一方、「知らない」(81.1%)は8割を超えている。(図表13-1-1)

図表 13-1-1 「C I G」の認知状況

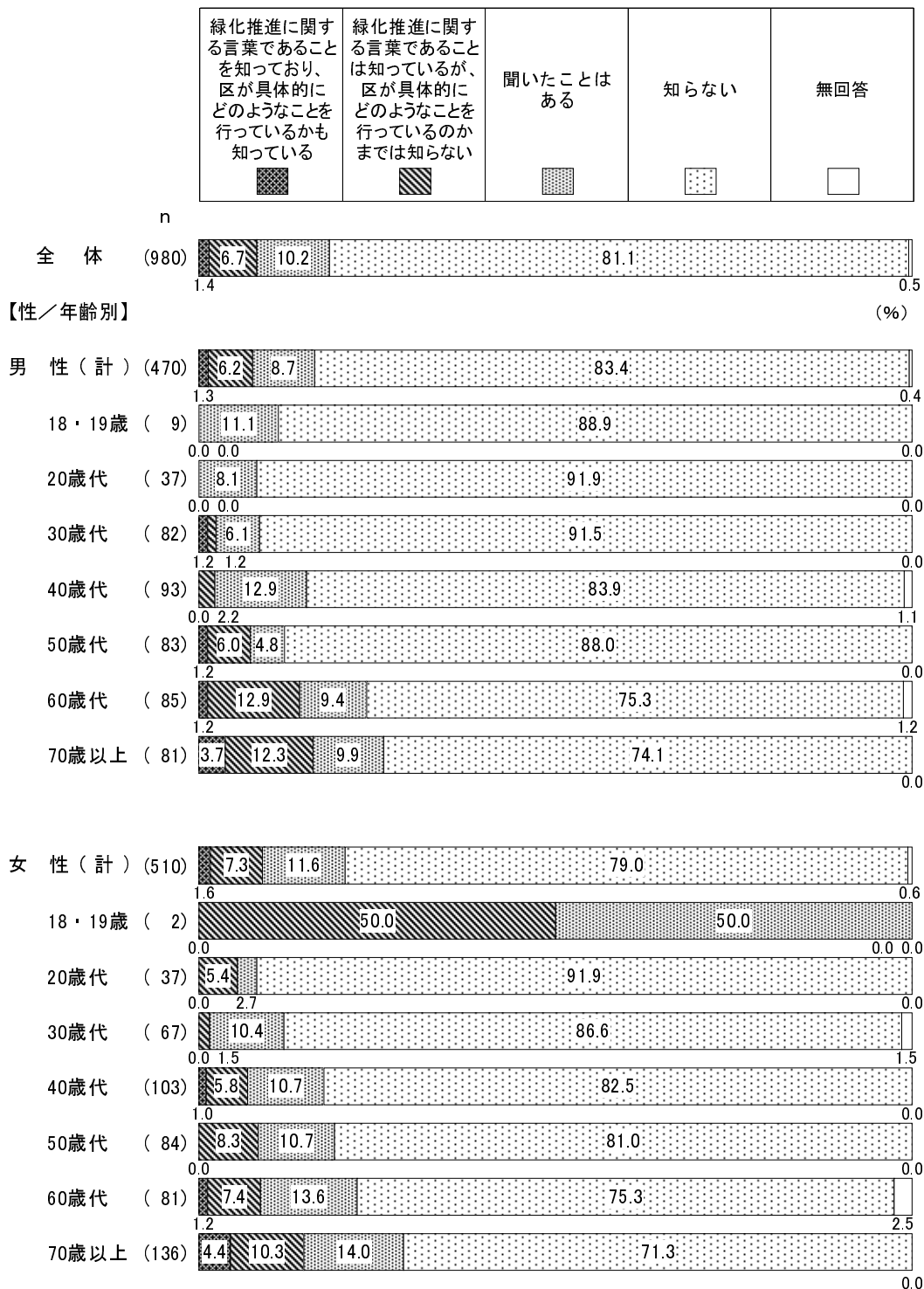


【性別・性／年齢別】

性別でみると、「知らない」は男性の方が女性より4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「緑化推進に関する言葉であることは知っているが、区が具体的にどのようなことを行っているのかまでは知らない」は男性の60歳以上の年代と女性70歳以上で1割台となっている。一方、「知らない」は男性の20歳代と30歳代、女性20歳代で9割を超えている。（図表13-1-2）

図表13-1-2 「CIG」の認知状況－性別・性／年齢別



13-2 江東区の緑が豊かだと思うか

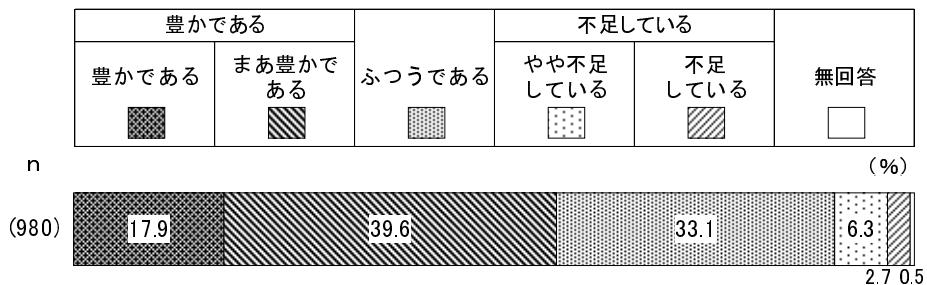
◇《豊かである》は6割近く

問24	あなたは、江東区の緑が豊かだと思いますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。 (回答者数=980)			
	1 豊かである	17.9%	4 やや不足している	6.3%
	2 まあ豊かである	39.6%	5 不足している	2.7%
	3 ふつうである	33.1%	無回答	0.5%
問24-1	(問24で、「4 やや不足している」か「5 不足している」とお答えの方に) 「緑の中の都市」の実現のために、どのような方策が必要と考えますか。次の中から <u>3つ</u> まで選んでください。(回答者数=88)			
	1 公園の緑の充実	55.7%	6 緑の相談所等の整備	-
	2 運河沿いの緑の充実	45.5%	7 緑の講習会等の充実	5.7%
	3 道路沿いの緑の充実	63.6%	8 その他	2.3%
	4 民間地等の緑の充実	25.0%	無回答	3.4%
	5 江東区みどり・温暖化対策 基金の活用	8.0%		

(1) 江東区の緑が豊かだと思うか

江東区の緑が豊かだと思うか聞いたところ、「豊かである」(17.9%)と「まあ豊かである」(39.6%)の2つを合わせた《豊かである》(57.5%)は6割近くとなっている。一方、「やや不足している」(6.3%)と「不足している」(2.7%)の2つを合わせた《不足している》(9.0%)は1割未満となっている。(図表13-2-1)

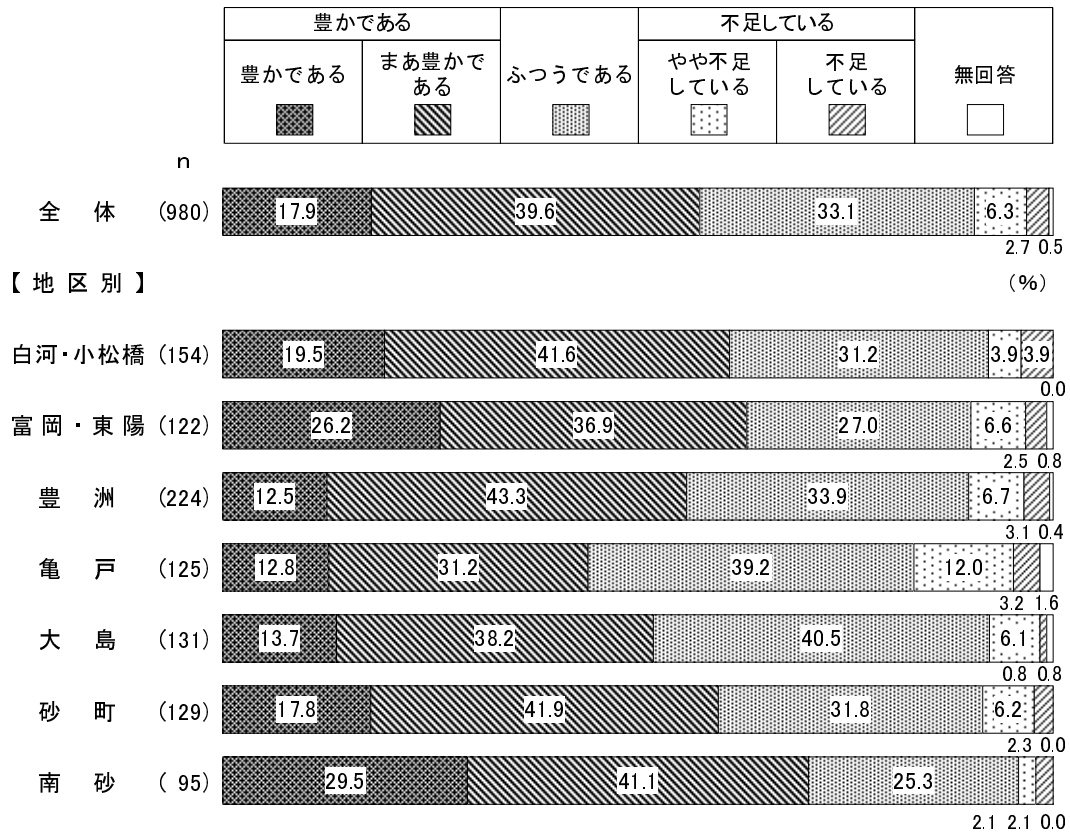
図表 13-2-1 江東区の緑が豊かだと思うか



【地区別】

地区別でみると、「豊かである」は【南砂】地区でほぼ7割、【富岡・東陽】地区と【白河・小松橋】地区で6割を超えている。一方、「不足している」は【亀戸】地区で1割台半ばとなっている。（図表13-2-2）

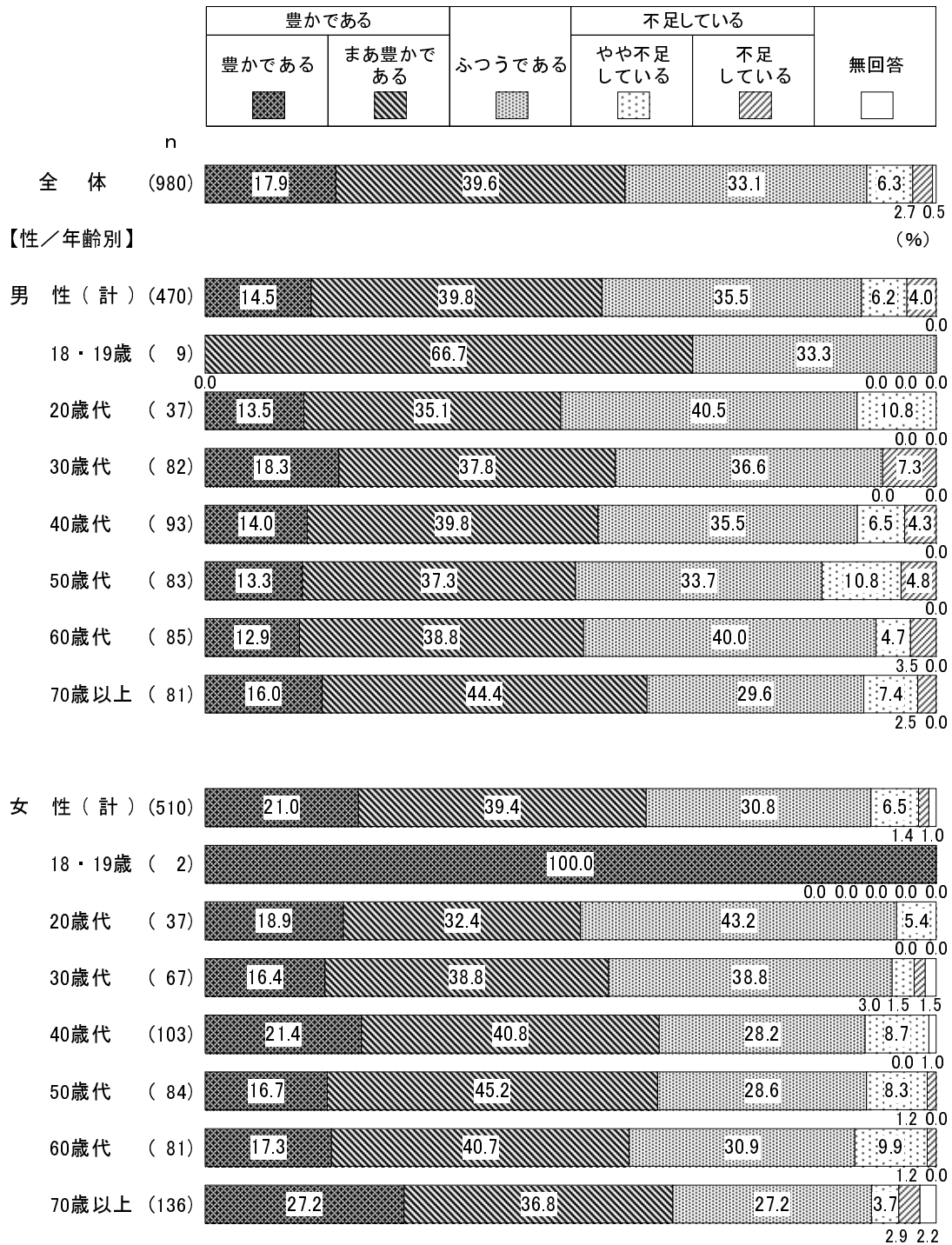
図表 13-2-2 江東区の緑が豊かだと思うかー地区別



【性別・性／年齢別】

性別で見ると、《豊かである》は女性の方が男性より6ポイント高くなっている。
 性／年齢別で見ると、《豊かである》は女性70歳以上で6割台半ばとなっている。一方、《不足している》は男性50歳代で1割台半ばとなっている。（図表13-2-3）

図表 13-2-3 江東区の緑が豊かだと思うかー性別・性／年齢別

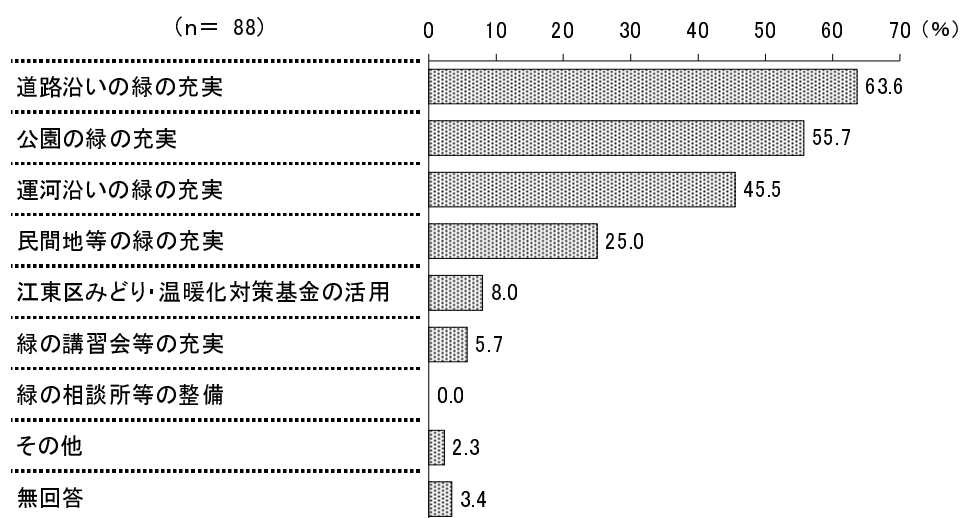


(2) 「緑の中の都市」の実現のために必要な方策

◇「道路沿いの緑の充実」が6割を超える

江東区の緑が、「やや不足している」か「不足している」と答えた方(88人)に、「緑の中の都市」の実現のために必要な方策を聞いたところ、「道路沿いの緑の充実」(63.6%)が6割を超えて最も多く、次いで「公園の緑の充実」(55.7%)と続いている。(図表13-2-4)

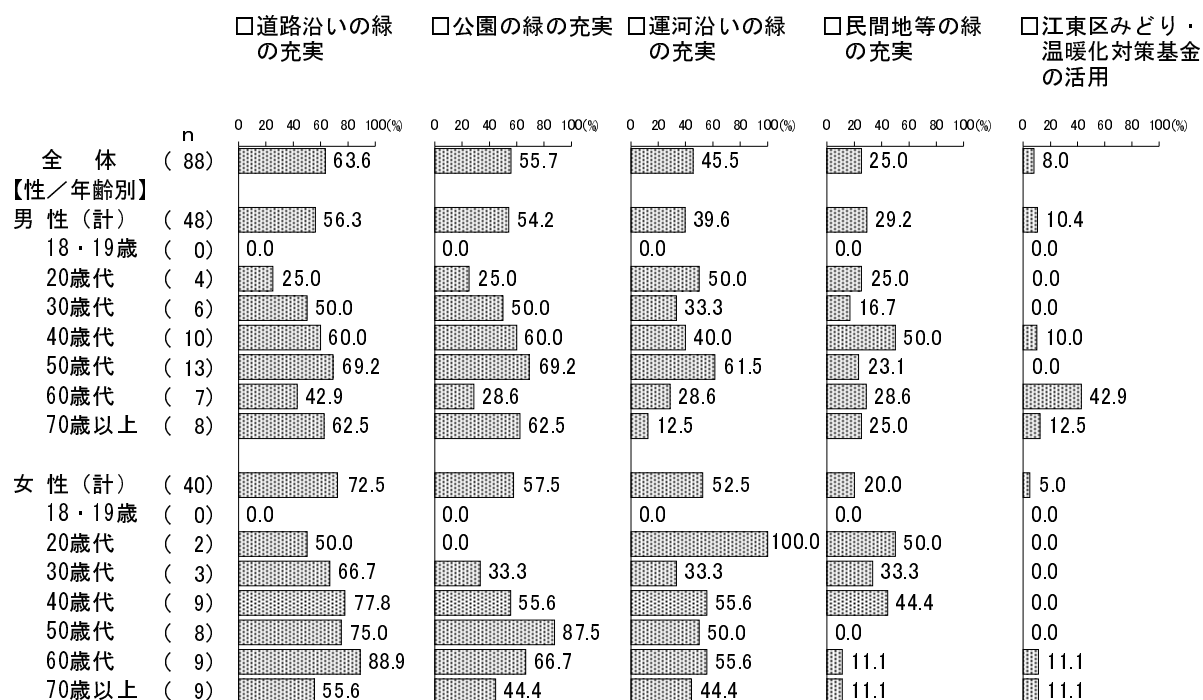
図表 13-2-4 「緑の中の都市」の実現のために必要な方策(複数回答)



【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「道路沿いの緑の充実」は女性の方が男性より16ポイント高くなっている。(図表13-2-5)

図表 13-2-5 「緑の中の都市」の実現のために必要な方策—性別・性／年齢別(上位5項目)



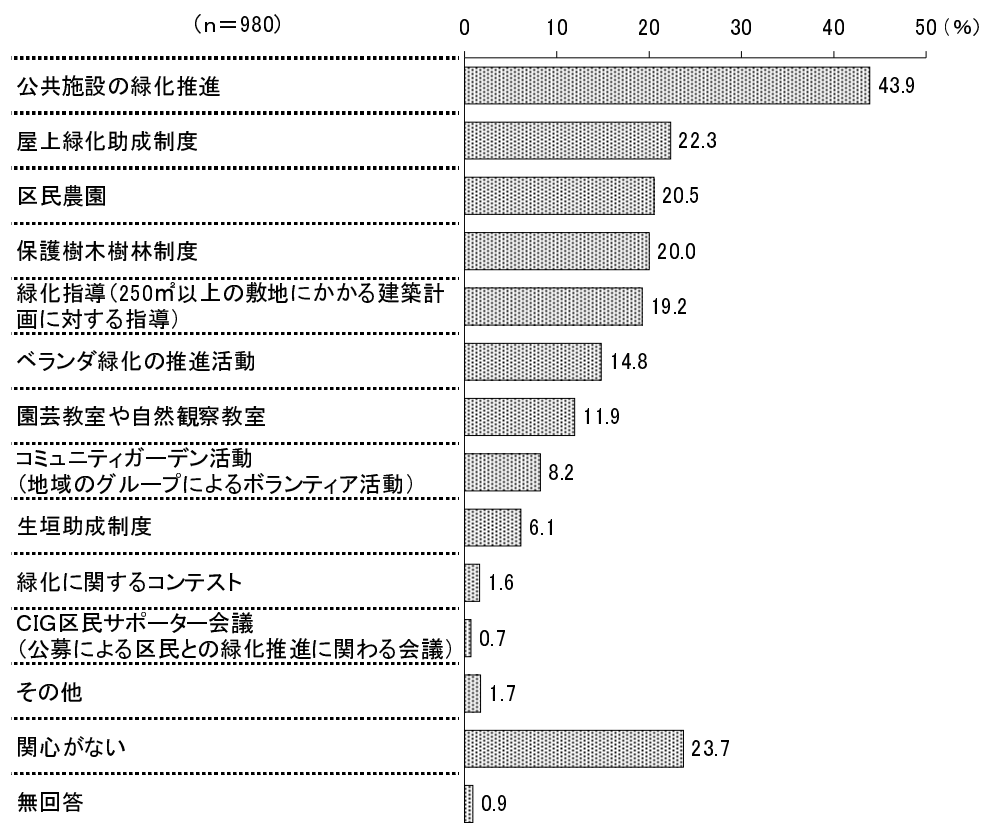
13-3 今後参加したい、または充実させて欲しいと思う緑に関する事業

◇「公共施設の緑化推進」が4割を超える

問25	あなたが今後参加したい、または充実させて欲しいと思う、緑に関する事業は何ですか。次の中から3つまで選んでください。(回答者数=980)	
1	緑化指導(250㎡以上の敷地にかかる建築計画に対する指導)	19.2%
2	生垣助成制度	6.1%
3	屋上緑化助成制度	22.3%
4	公共施設の緑化推進	43.9%
5	保護樹木樹林制度	20.0%
6	園芸教室や自然観察教室	11.9%
7	ベランダ緑化の推進活動	14.8%
8	コミュニティガーデン活動(地域のグループによるボランティア活動)	8.2%
9	区民農園	20.5%
10	緑化に関するコンテスト	1.6%
11	CIG区民サポーター会議(公募による区民との緑化推進に関わる会議)	0.7%
12	その他	1.7%
13	関心がない	23.7%
	無回答	0.9%

今後参加したい、または充実させて欲しいと思う緑に関する事業を聞いたところ、「公共施設の緑化推進」(43.9%)が4割を超えて最も多く、次いで「屋上緑化助成制度」(22.3%)、「区民農園」(20.5%)と続いている。(図表13-3-1)

図表13-3-1 今後参加したい、または充実させて欲しいと思う緑に関する事業(複数回答)

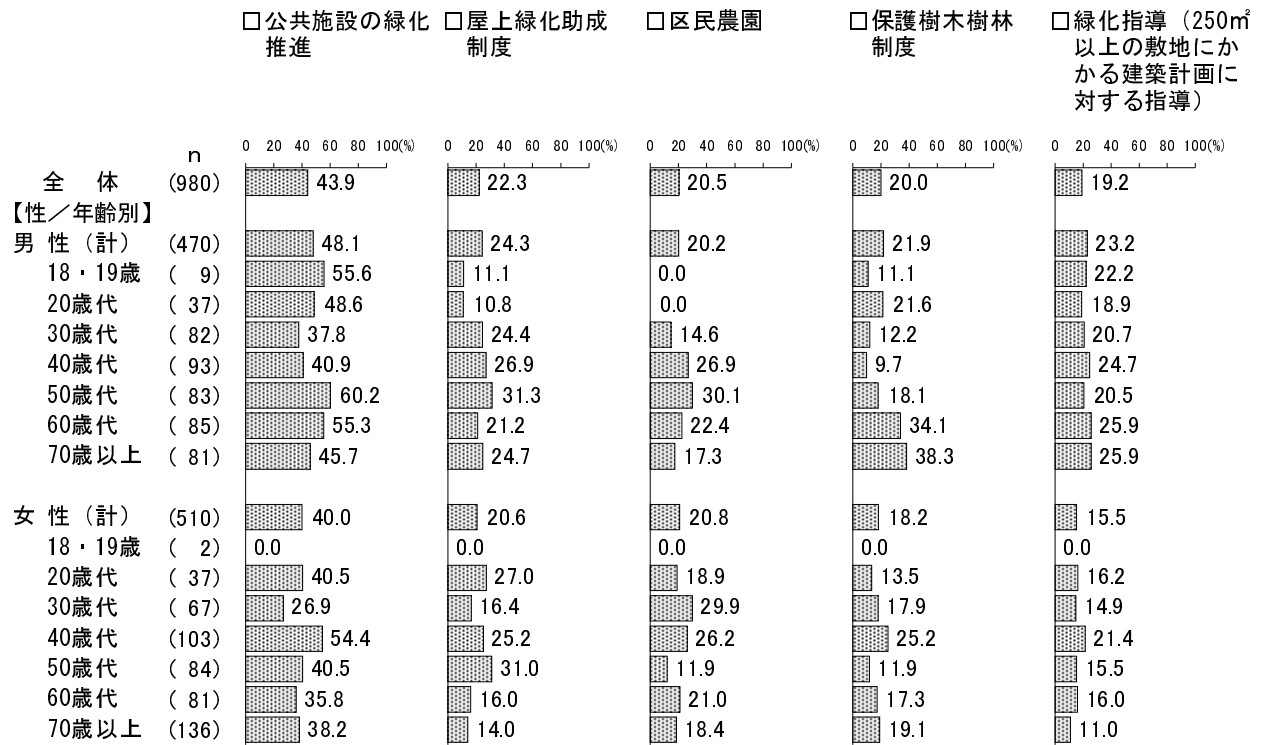


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「公共施設の緑化推進」と「緑化指導（250 m²以上の敷地にかかる建築計画に対する指導）」は男性の方が女性よりそれぞれ8ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「公共施設の緑化推進」は男性50歳代で6割となっている。「保護樹木樹林制度」は男性の60歳代以上の年代で3割台となっている。（図表13-3-2）

図表 13-3-2 今後参加したい、または充実させて欲しいと思う緑に関する事業
- 性別・性／年齢別（上位5項目）



14 広 報

-
- 14-1 「こうとう区報」の閲読状況
 - 14-2 区の仕事や行事の認知媒体
 - 14-3 情報を収集するための機器について持っているもの
 - 14-4 区の情報収集するために必要なインターネット上のサービス
-

14 広報

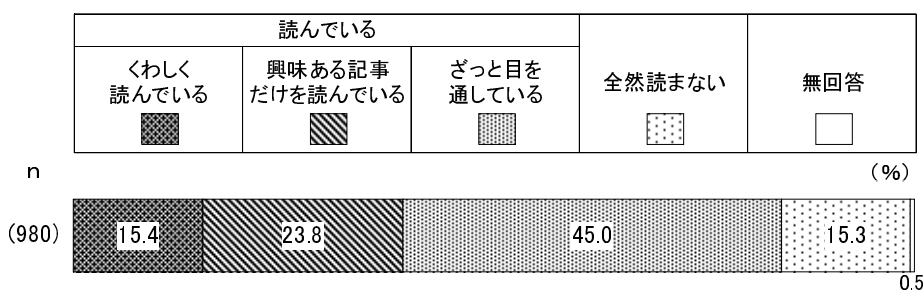
14-1 「こうとう区報」の閲読状況

◇「読んでいる」は8割台半ば

問26	「こうとう区報」は全世帯の方にお届けしていますが、どのくらい読んでいますか。次の中から1つだけ選んでください。(回答者数=980)				
1	くわしく読んでいます	15.4%	3	ざっと目を通して	45.0%
2	興味ある記事だけを	23.8%	4	全然読まない	15.3%
				無回答	0.5%

「こうとう区報」をどのくらい読んでいますか聞いたところ、「くわしく読んでいます」(15.4%)、「興味ある記事だけを読んでいます」(23.8%)、「ざっと目を通して」(45.0%)の3つを合わせた「読んでいます」(84.2%)が8割台半ばとなっている。(図表14-1-1)

図表14-1-1 「こうとう区報」の閲読状況

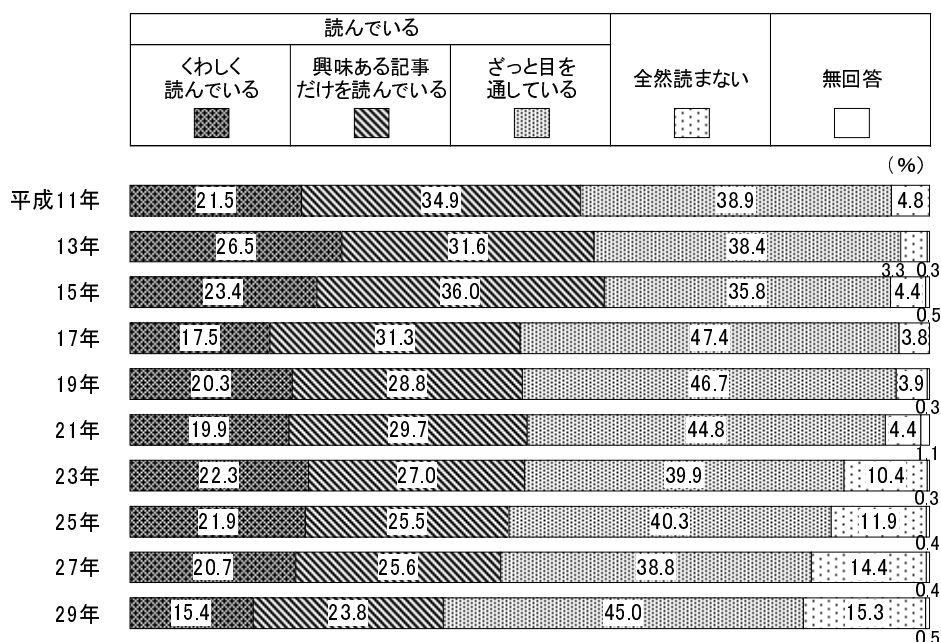


【時系列比較】

時系列の変化をみると、「全然読まない」は平成17年から増加傾向にある。

(図表14-1-2)

図表14-1-2 「こうとう区報」の閲読状況—時系列比較

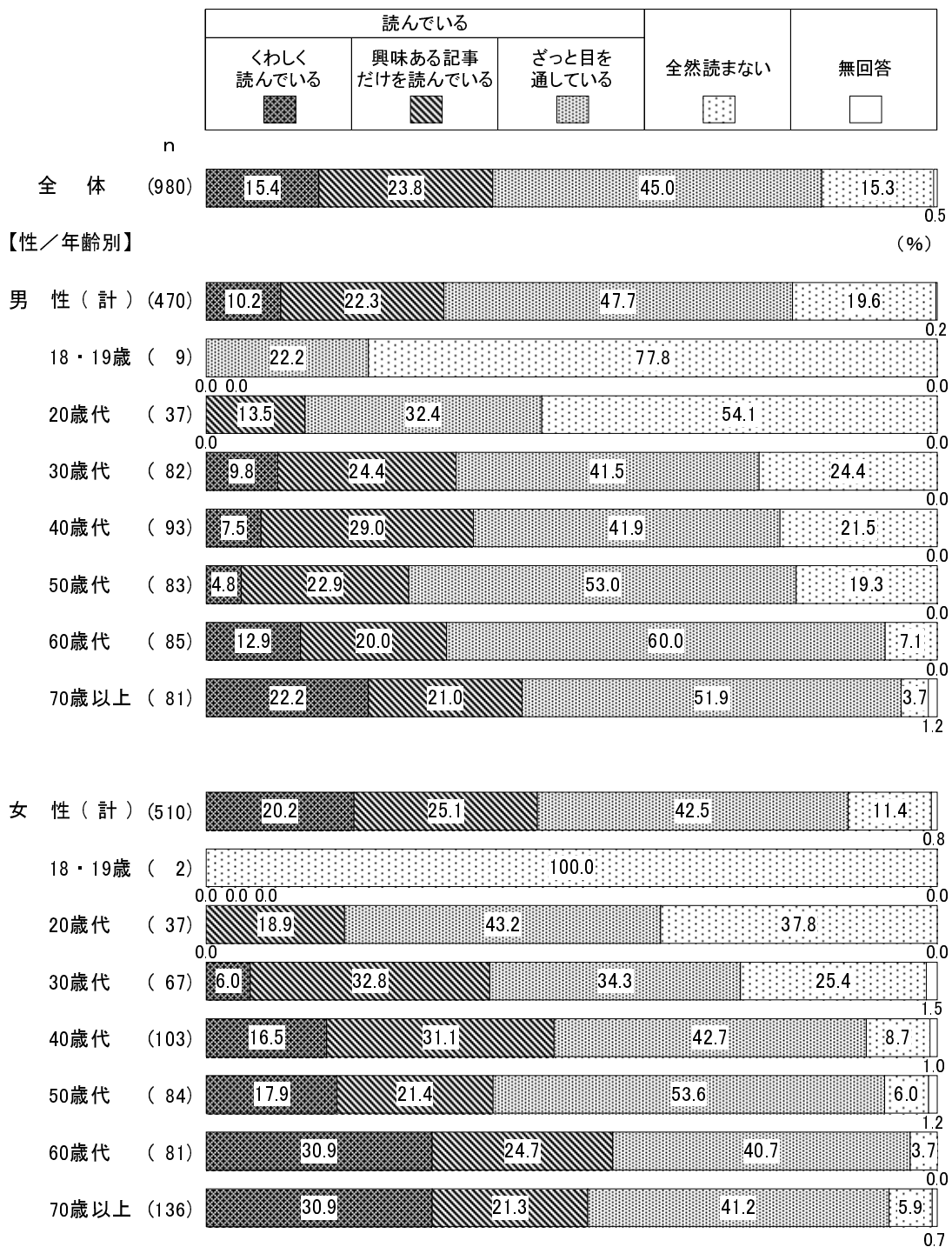


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「くわしく読んでいる」は女性の方が男性より10ポイント高くなっている。一方、「全然読まない」は男性の方が女性より8ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「読んでいる」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高く、女性60歳代と男性70歳以上で9割台半ばとなっている。(図表14-1-3)

図表14-1-3 「こうとう区報」の閲読状況－性別・性／年齢別



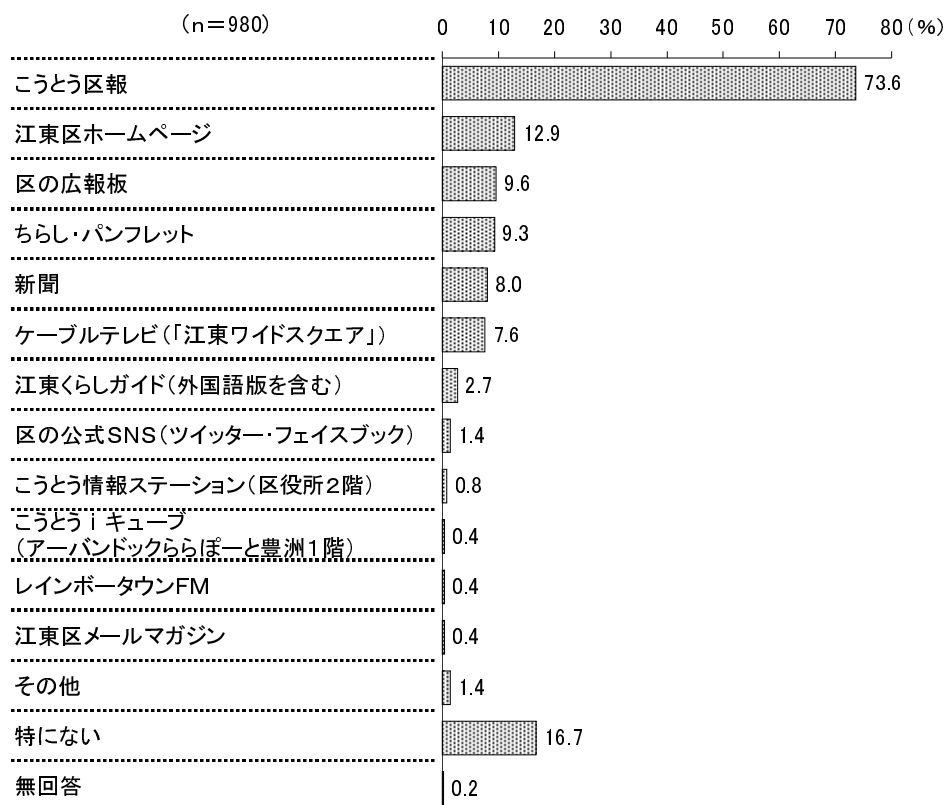
14-2 区の仕事や行事の認知媒体

◇「こうとう区報」が7割を超える

問27	区の仕事や行事を何で知りましたか。次の中から該当するものを <u>すべて</u> 選んでください。 (回答者数=980)	
1	こうとう区報	73.6%
2	江東区ホームページ	12.9%
3	区の公式SNS (ツイッター・フェイスブック)	1.4%
4	ケーブルテレビ (「江東ワイドスクエア」)	7.6%
5	区の広報板	9.6%
6	江東暮らしガイド (外国語版を含む)	2.7%
7	ちらし・パンフレット	9.3%
8	こうとう情報ステーション (区役所2階)	0.8%
9	こうとうiキューブ (アーバンドックららぽーと豊洲1階)	0.4%
10	新聞	8.0%
11	レインボータウンFM	0.4%
12	江東区メールマガジン	0.4%
13	その他	1.4%
14	特にない	16.7%
	無回答	0.2%

区の仕事や行事の情報を何から得ているか聞いたところ、「こうとう区報」(73.6%)が7割を超えて最も多く、次いで「江東区ホームページ」(12.9%)、「区の広報板」(9.6%)、「ちらし・パンフレット」(9.3%)、「新聞」(8.0%)と続いている。(図表14-2-1)

図表 14-2-1 区の仕事や行事の認知媒体 (複数回答)

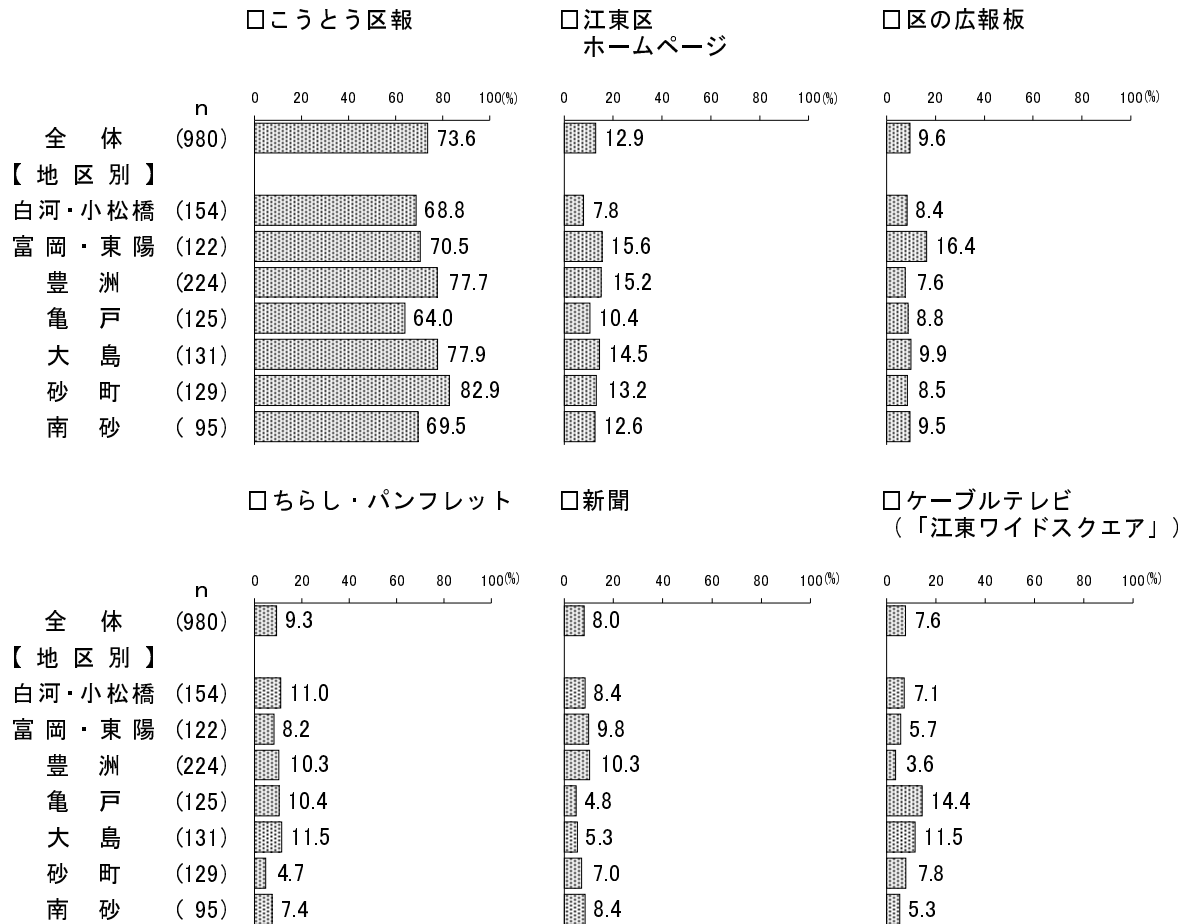


【地区別】

地区別で見ると、「こうとう区報」は【砂町】地区で8割を超え、【大島】地区と【豊洲】地区で8割近くとなっている。「区の広報板」は【富岡・東陽】地区で1割台半ばとなっている。

(図表 14-2-2)

図表 14-2-2 区の仕事や行事の認知媒体—地区別（上位6項目）

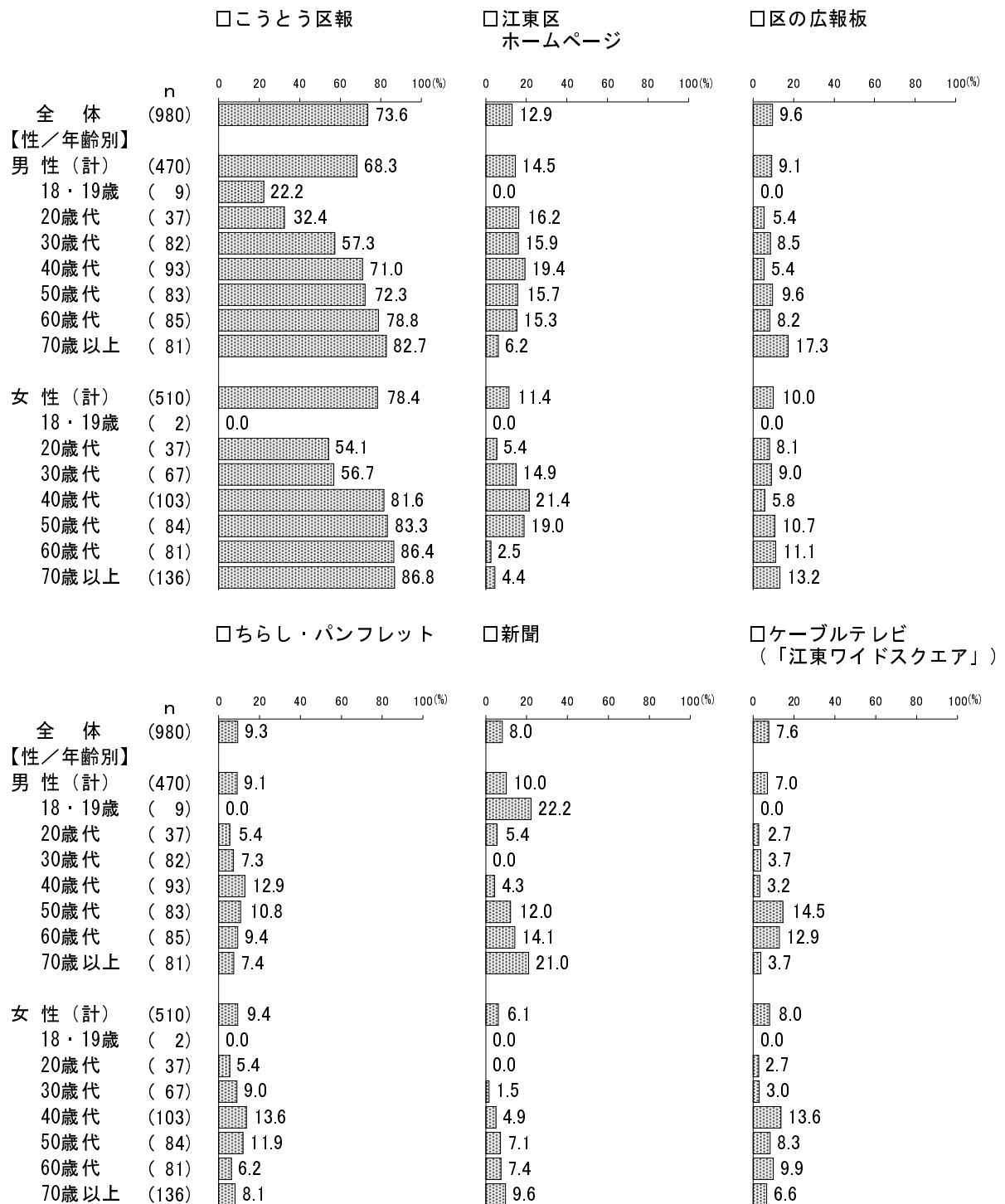


【性別・性／年齢別】

性別でみると、「こうとう区報」は女性の方が男性より10ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「こうとう区報」は男女とも高い年代ほど割合が高く、女性の40歳代以上の年代と男性70歳以上で8割台となっている。「江東区ホームページ」は女性40歳代で2割を超えている。(図表14-2-3)

図表14-2-3 区の仕事や行事の認知媒体－性別・性／年齢別（上位6項目）



14-3 情報を収集するための機器について持っているもの

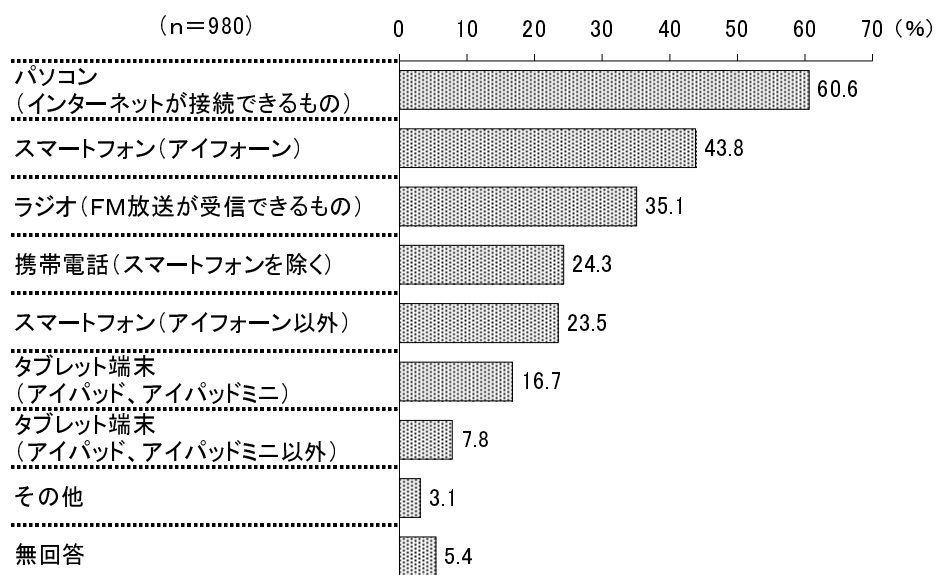
◇「パソコン（インターネットが接続できるもの）」がほぼ6割

問28	情報を収集するための機器について何を持っていますか。次の中から持っているものをすべて選んでください。(回答者数=980)	
1	パソコン（インターネットが接続できるもの）	60.6%
2	ラジオ（FM放送が受信できるもの）	35.1%
3	携帯電話（スマートフォンを除く）	24.3%
4	スマートフォン（アイフォーン）	43.8%
5	スマートフォン（アイフォーン以外）	23.5%
6	タブレット端末（アイパッド、アイパッドミニ）	16.7%
7	タブレット端末（アイパッド、アイパッドミニ以外）	7.8%
8	その他	3.1%
	無回答	5.4%

情報を収集するための機器について何を持っているか聞いたところ、「パソコン（インターネットが接続できるもの）」(60.6%) がほぼ6割で最も多く、次いで「スマートフォン（アイフォーン）」(43.8%)、「ラジオ（FM放送が受信できるもの）」(35.1%) と続いている。

(図表 14-3-1)

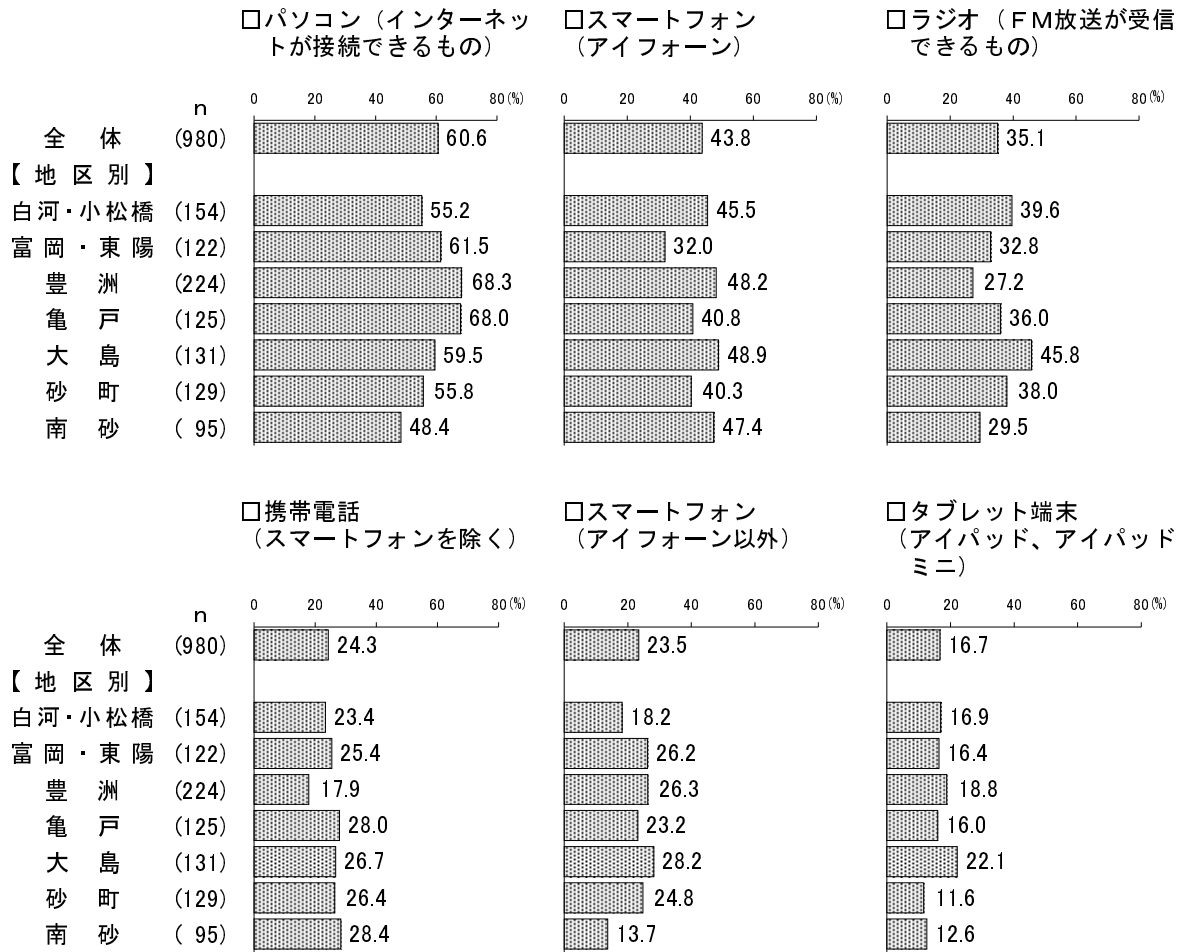
図表 14-3-1 情報を収集するための機器について持っているもの（複数回答）



【地区別】

地区別で見ると、「パソコン（インターネットが接続できるもの）」は【豊洲】地区と【亀戸】地区で7割近くとなっている。「ラジオ（FM放送が受信できるもの）」は【大島】地区で4割半ばとなっている。（図表14-3-2）

図表14-3-2 情報を収集するための機器について持っているもの—地区別（上位6項目）

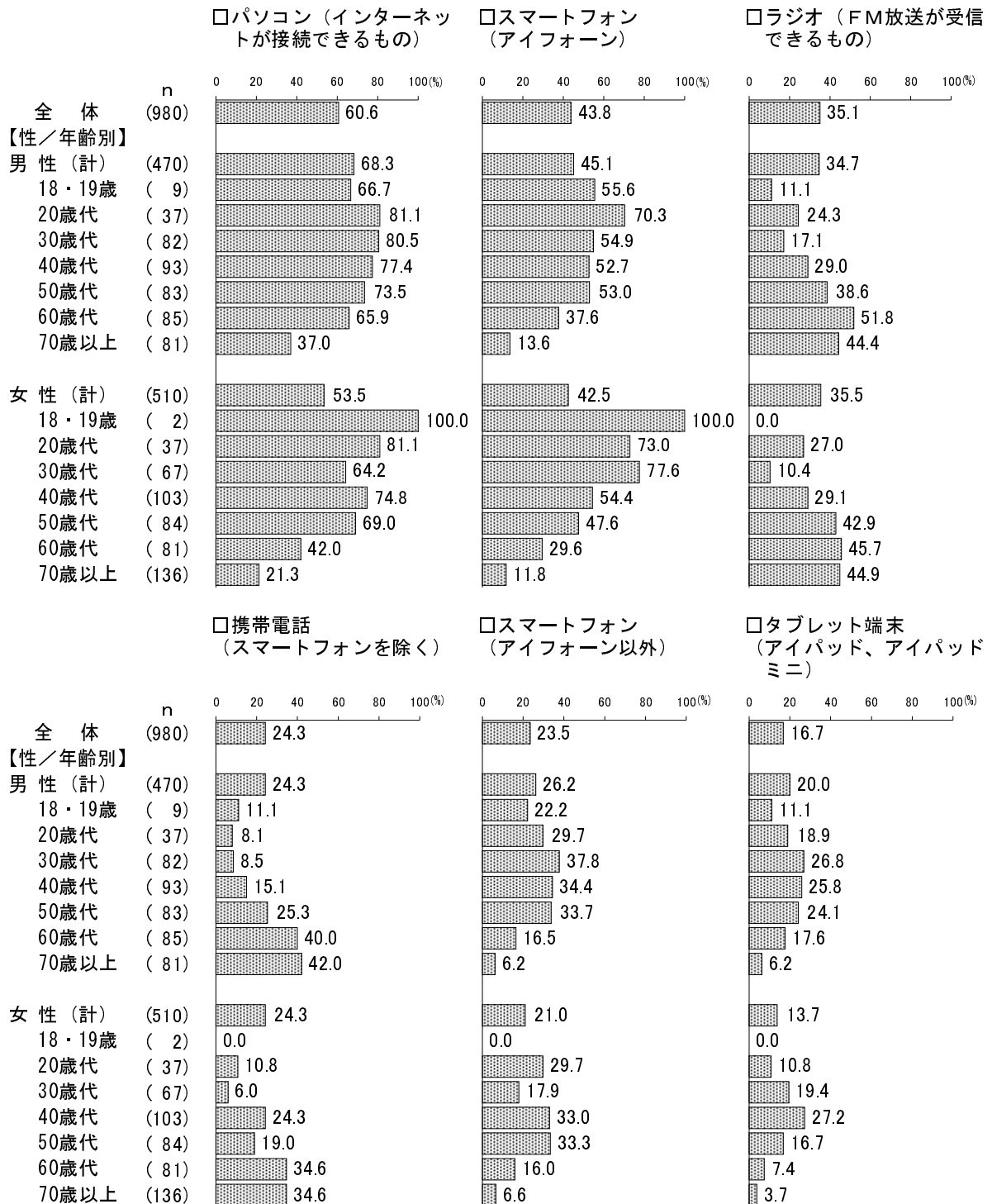


【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「パソコン（インターネットが接続できるもの）」は男性の方が女性より 15 ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「パソコン（インターネットが接続できるもの）」は男性の 20 歳代と 30 歳代、女性 20 歳代で 8 割台となっている。「スマートフォン（アイフォーン）」は女性の 20 歳代と 30 歳代、男性 20 歳代で 7 割台となっている。（図表 14-3-3）

図表 14-3-3 情報を収集するための機器について持っているもの
- 性別・性／年齢別（上位 6 項目）



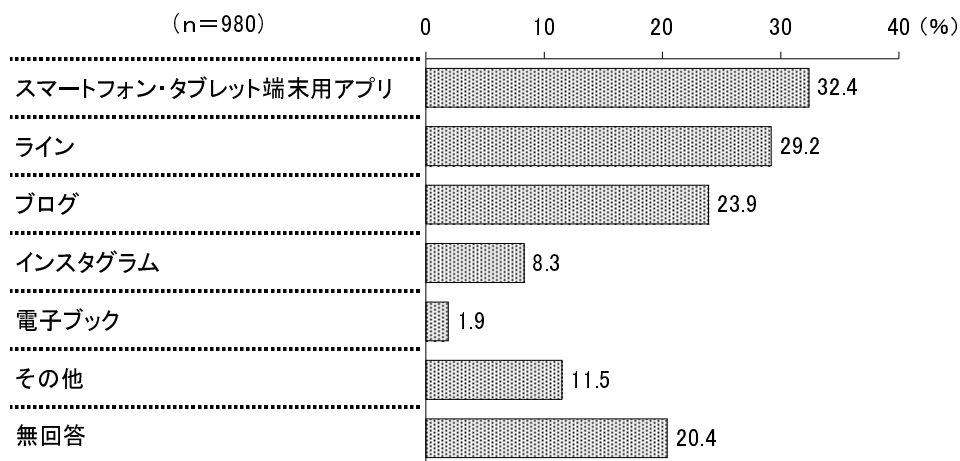
14-4 区の情報収集するために必要なインターネット上のサービス

◇「スマートフォン・タブレット端末用アプリ」が3割を超える

問29	区の情報収集するために、今後必要だと思うインターネット上のサービスはありますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=980)				
1	ブログ	23.9%	5	電子ブック	1.9%
2	ライン	29.2%	6	その他	11.5%
3	インスタグラム	8.3%	無回答		20.4%
4	スマートフォン・タブレット端末用アプリ	32.4%			

区の情報収集するために必要なインターネット上のサービスを聞いたところ、「スマートフォン・タブレット端末用アプリ」(32.4%)が3割を超えて最も多く、次いで「ライン」(29.2%)、「ブログ」(23.9%)、「インスタグラム」(8.3%)と続いている。(図表14-4-1)

図表14-4-1 区の情報収集するために必要なインターネット上のサービス(複数回答)

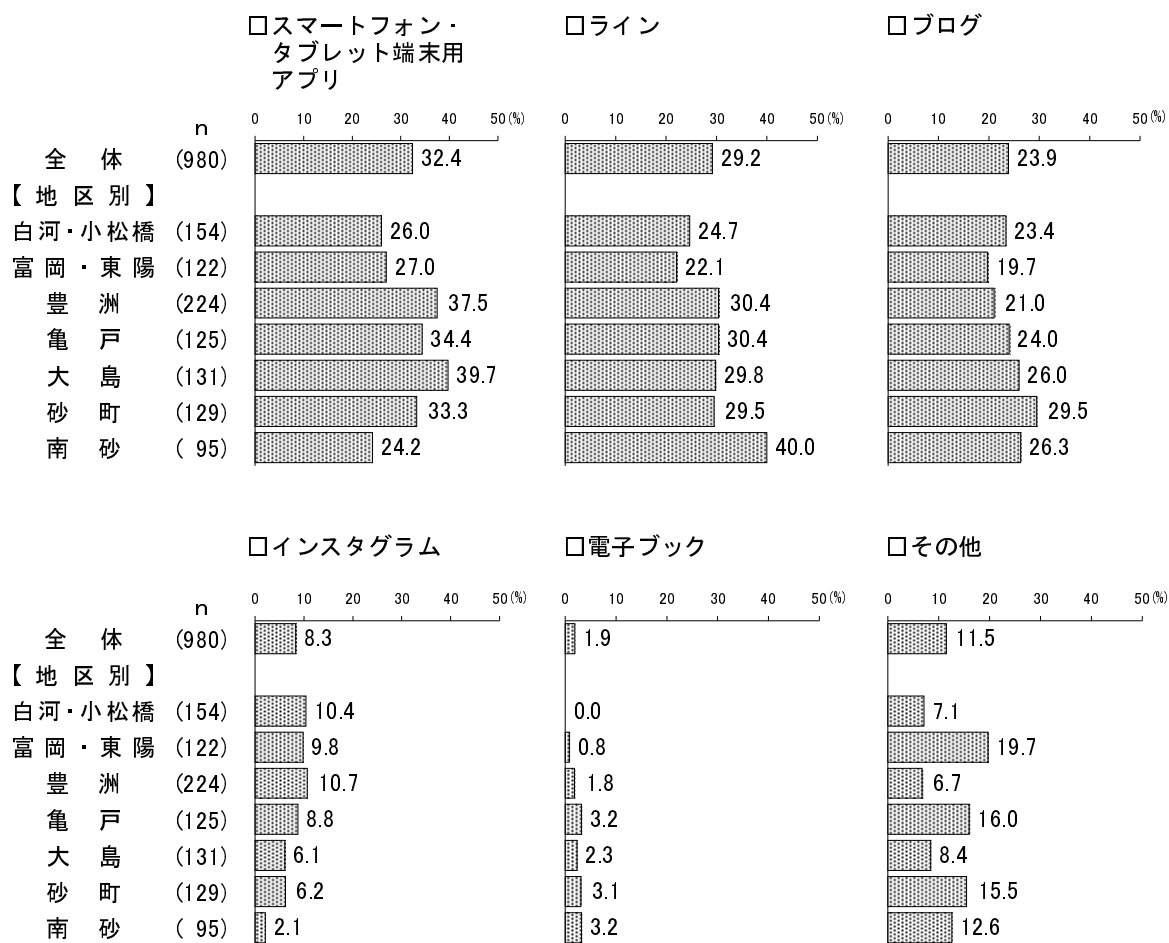


【地区別】

地区別で見ると、「スマートフォン・タブレット端末用アプリ」は【大島】地区で4割となっている。「ライン」は【南砂】地区で4割、「ブログ」は【砂町】地区で3割となっている。

(図表 14-4-2)

図表 14-4-2 区の情報を収集するために必要なインターネット上のサービス—地区別



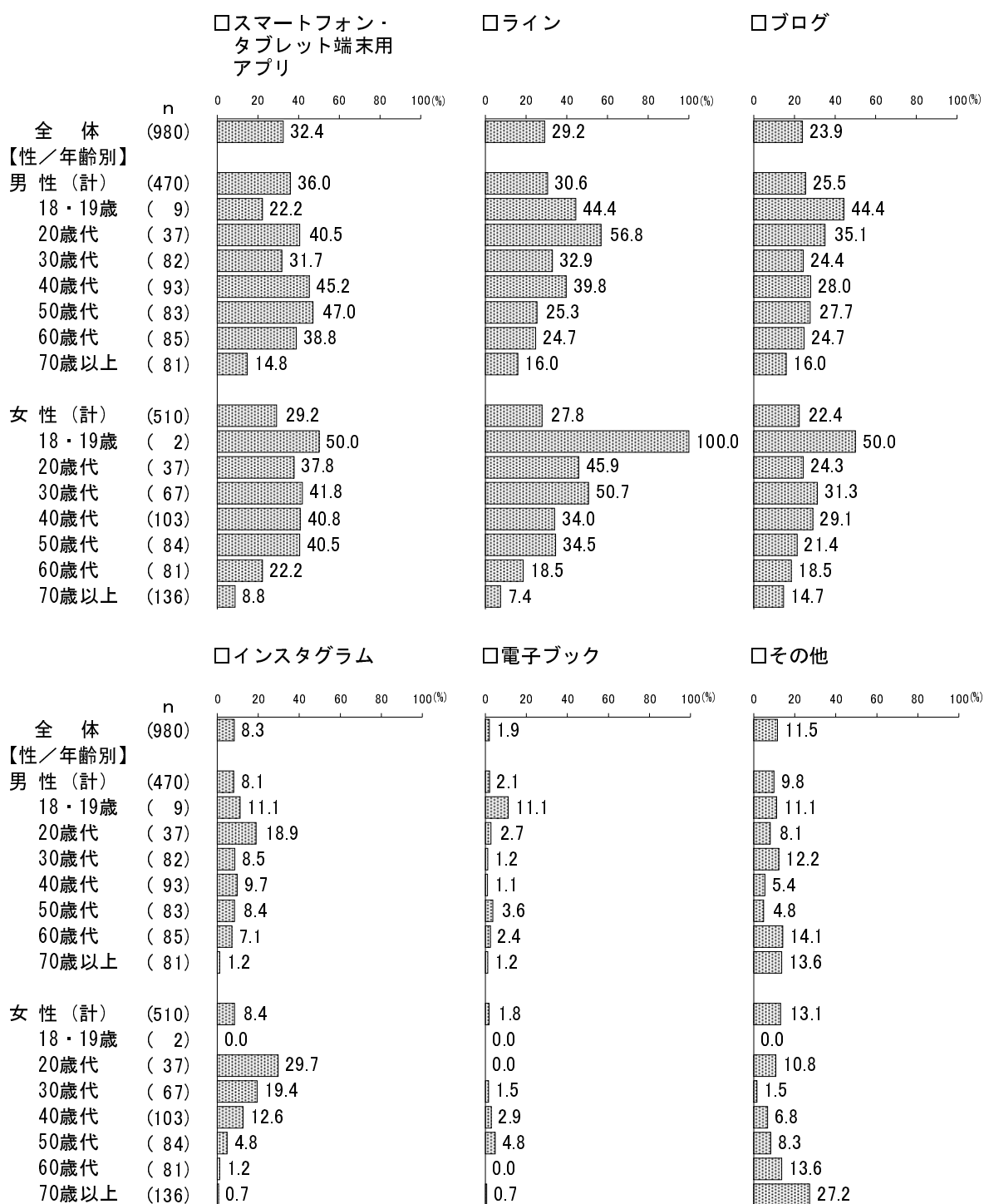
【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「スマートフォン・タブレット端末用アプリ」は男性の方が女性より7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「スマートフォン・タブレット端末用アプリ」は男性50歳代で5割近くとなっている。「ライン」は男性20歳代と女性30歳代で5割台となっている。

(図表 14-4-3)

図表 14-4-3 区の情報を収集するために必要なインターネット上のサービス
- 性別・性／年齢別



15 江東区ワイドスクエア

-
- 15-1 区政情報や区内のイベント・施設情報を動画や映像で見たいか
 - 15-2 ケーブルテレビの視聴の可否
 - 15-3 「江東ワイドスクエア」で興味のある内容
-

15 江東区ワイドスクエア

15-1 区政情報や区内のイベント・施設情報を動画や映像で見たいか

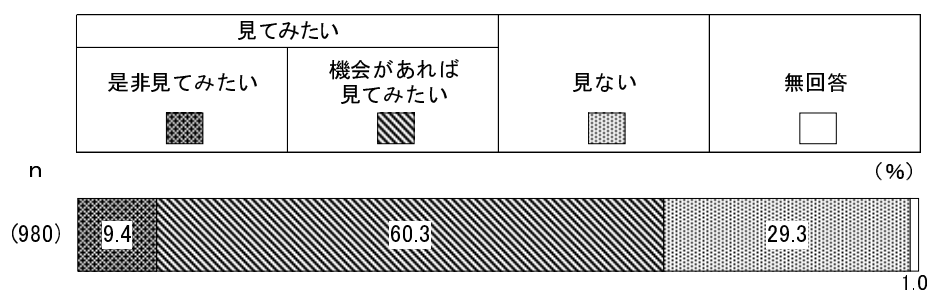
◇《見たい》は7割

問30	区の新たな取り組み、イベントの様子、施設の利用方法や設備などについて、こうとう区報だけでなく映像でも見たいですか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。 (回答者数=980)				
1	是非見たい	9.4%	3	見ない	29.3%
2	機会があれば見たい	60.3%		無回答	1.0%

区政情報や区内のイベント・施設情報を動画や映像で見たいか聞いたところ、「是非見たい」(9.4%)と「機会があれば見たい」(60.3%)の2つを合わせた《見たい》(69.7%)が7割となっている。一方、「見ない」(29.3%)はほぼ3割となっている。

(図表 15-1-1)

図表 15-1-1 区政情報や区内のイベント・施設情報を動画や映像で見たいか



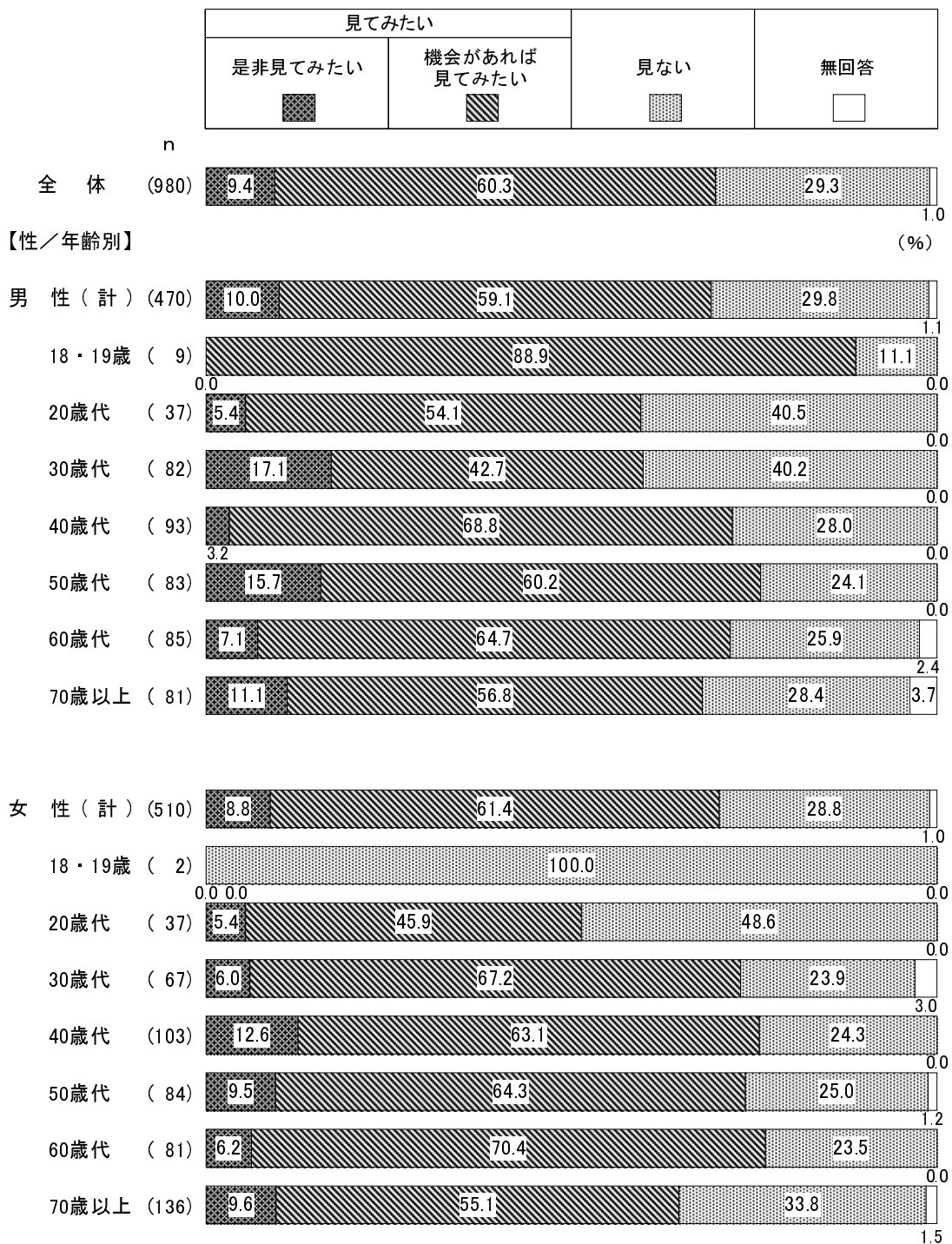
【性別・性／年齢別】

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年齢別でみると、「見てみたい」は女性60歳代で8割近くとなっている。一方、「見ない」は女性20歳代で5割近くとなっている。（図表15-1-2）

図表15-1-2 区政情報や区内のイベント・施設情報を動画や映像で見てみたいか

—性別・性／年齢別



15-2 ケーブルテレビの視聴の可否

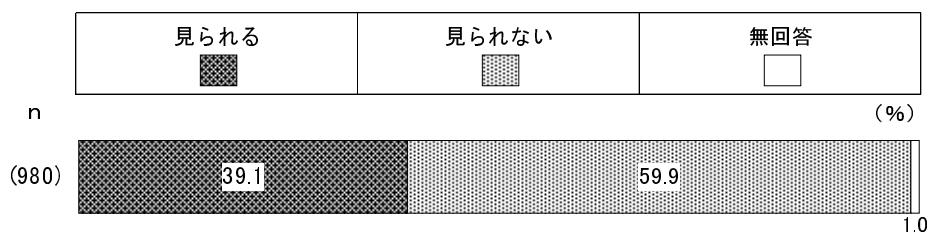
◇「見られる」がほぼ4割

問31	ご自宅でケーブルテレビをご覧になることはできますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=980)			
	1 見られる	39.1%	2 見られない 無回答	59.9% 1.0%
問31-1	(問31で、「1 見られる」とお答えの方に) ケーブルテレビで放送されている区政情報番組「江東ワイドスクエア」は、どれくらい視聴されていますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=383)			
	1 毎週見ている	2.3%	4 数回見たことがある	32.9%
	2 時々見ている	26.1%	5 見たことがない	21.9%
	3 興味のある内容だけ見ている	10.7%	6 番組が放送されているのを知らない 無回答	5.0% 1.0%

(1) ケーブルテレビの視聴の可否

自宅でケーブルテレビを見ることができるか聞いたところ、「見られる」(39.1%)はほぼ4割、「見られない」(59.9%)が6割となっている。(図表15-2-1)

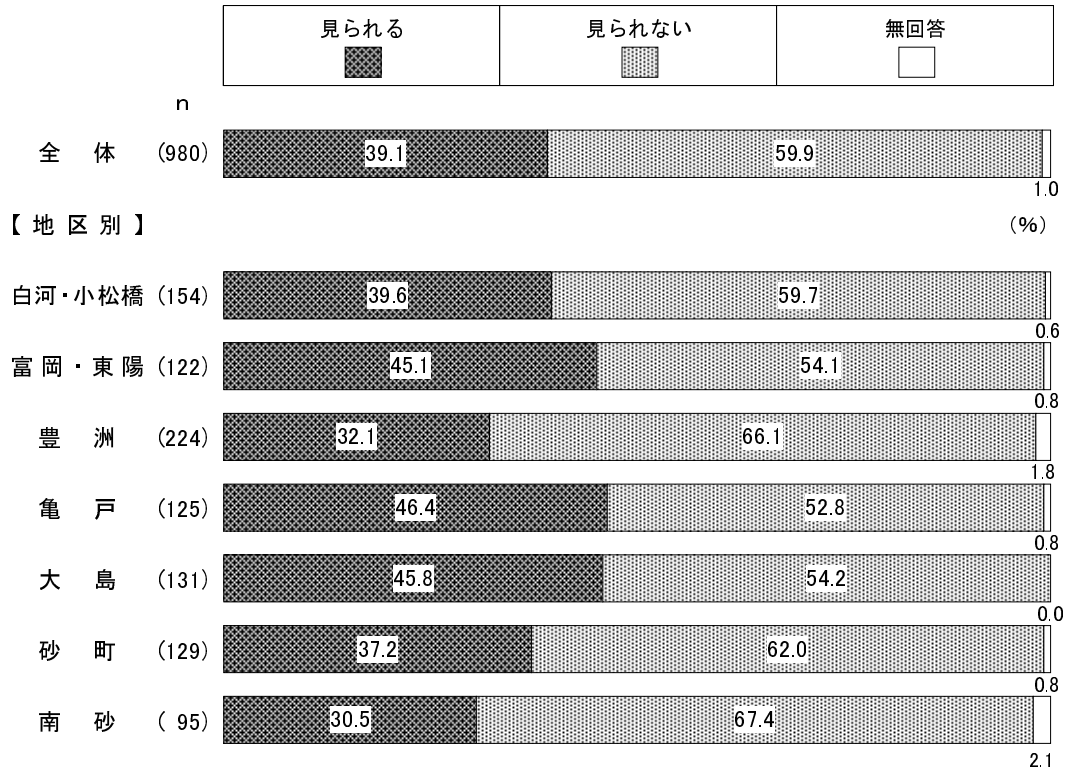
図表 15-2-1 ケーブルテレビの視聴の可否



【地区別】

地区別でみると、「見られる」は【亀戸】地区、【大島】地区、【富岡・東陽】地区で4割台半ばとなっている。一方、「見られない」は【南砂】地区、【豊洲】地区、【砂町】地区で6割台となっている。（図表 15-2-2）

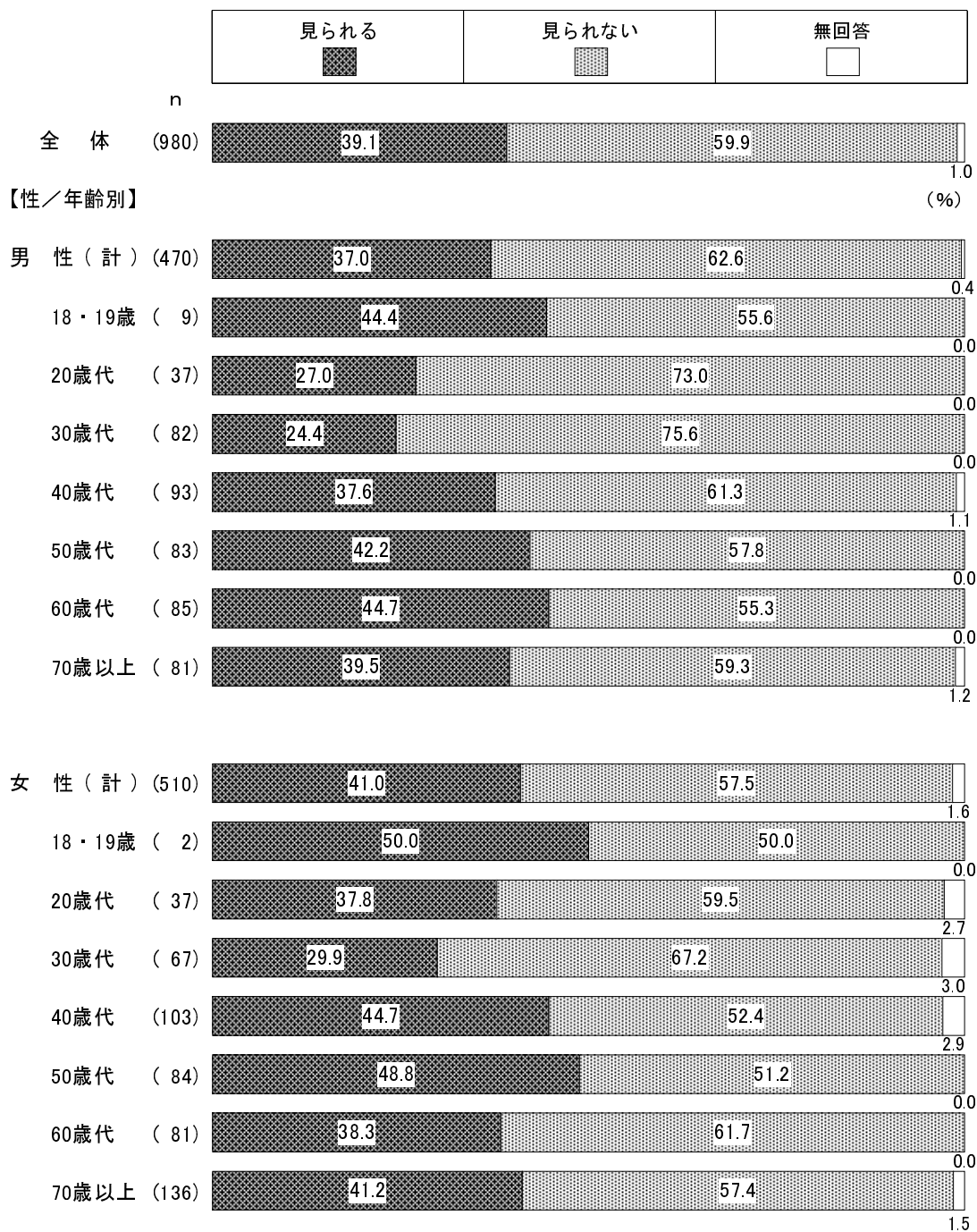
図表 15-2-2 ケーブルテレビの視聴の可否－地区別



【性別・性／年齢別】

性別で見ると、「見られない」は男性の方が女性より5ポイント高くなっている。
 性／年齢別で見ると、「見られる」は女性50歳代で5割近くとなっている。一方、「見られない」は男性の20歳代と30歳代で7割台となっている。（図表15-2-3）

図表 15-2-3 ケーブルテレビの視聴の可否－性別・性／年齢別

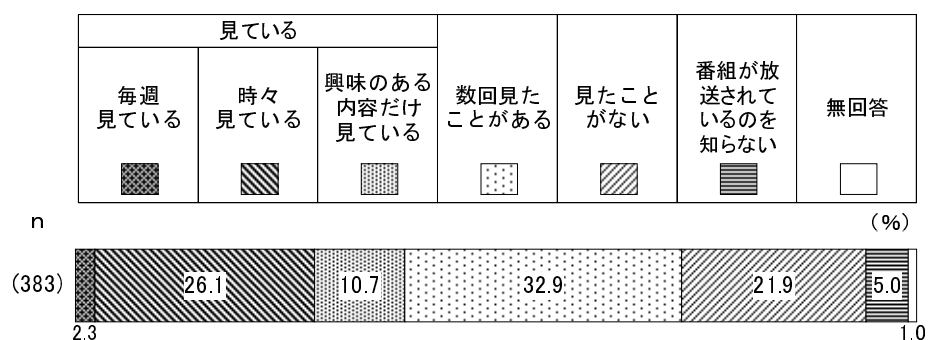


(2) 「江東ワイドスクエア」の視聴状況

◇《見ている》はほぼ4割

「江東ワイドスクエア」をどれくらい視聴しているか聞いたところ、「毎週見ている」(2.3%)、「時々見ている」(26.1%)、「興味のある内容だけ見ている」(10.7%)の3つを合わせた《見ている》(39.1%)がほぼ4割となっている。(図表15-2-4)

図表 15-2-4 「江東ワイドスクエア」の視聴状況

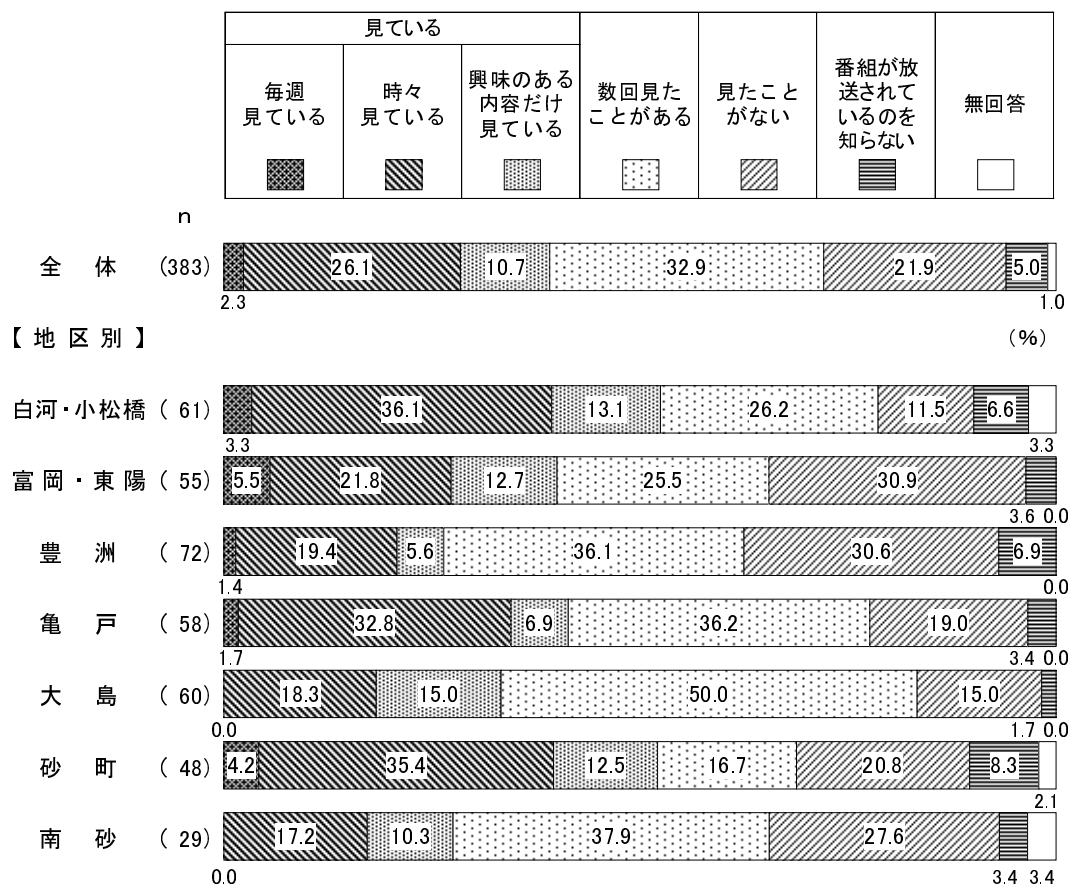


【地区別】

地区別でみると、《見ている》は【白河・小松橋】地区と【砂町】地区で5割を超えている。一方、「見たことがない」は【富岡・東陽】地区と【豊洲】地区でほぼ3割となっている。

(図表15-2-5)

図表 15-2-5 「江東ワイドスクエア」の視聴状況—地区別



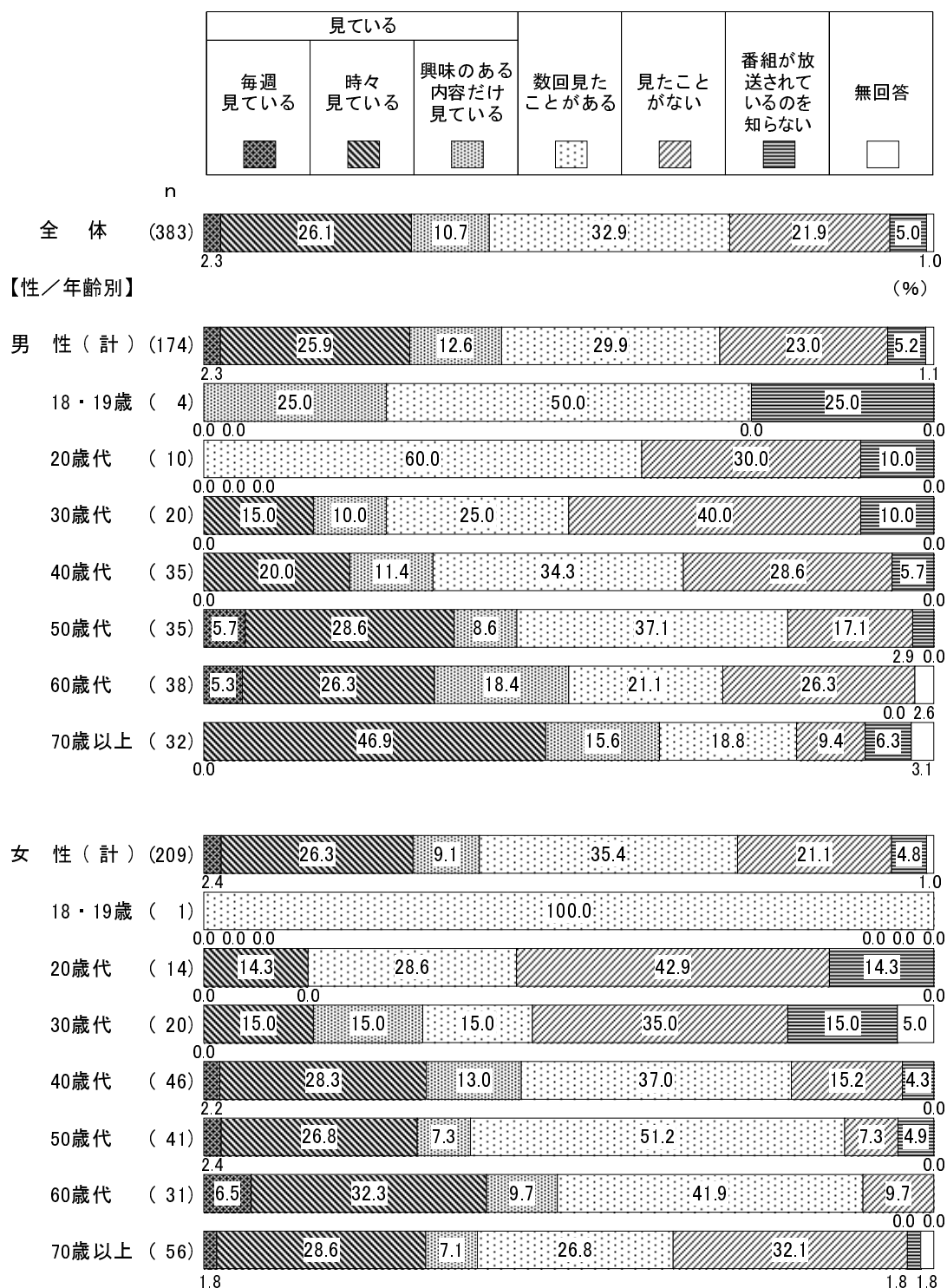
【性別・性／年齢別】

性別でみると、「見ている」は男性の方が女性より3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「見ている」は男性70歳以上で6割を超え、男性60歳代で5割となっている。一方、「見たことがない」は女性20歳代と男性30歳代で4割台となっている。

(図表15-2-6)

図表15-2-6 「江東ワイドスクエア」の視聴状況—性別・性／年齢別



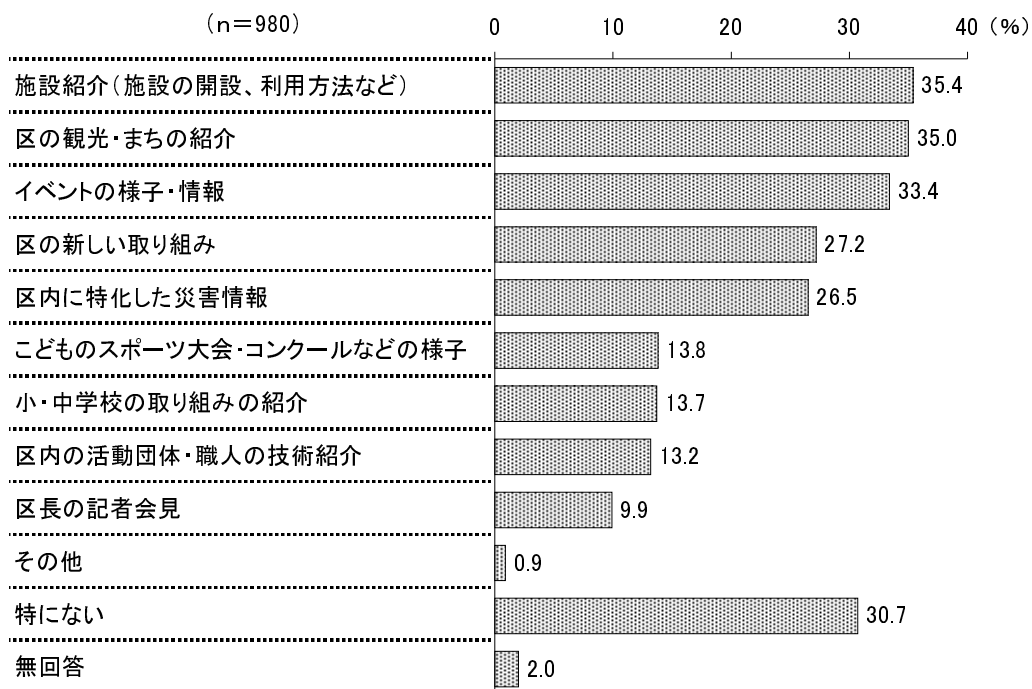
15-3 「江東ワイドスクエア」で興味のある内容

◇「施設紹介（施設の開設、利用方法など）」と「区の観光・まちの紹介」が3割台半ば

問32	「江東ワイドスクエア」では、区政情報や、区内のイベント情報やその様子について、放送しています。どのような内容に興味がありますか。次の中から該当するものを <u>すべて</u> 選んでください。(回答者数=980)	
1	区長の記者会見	9.9%
2	区の新しい取り組み	27.2%
3	施設紹介（施設の開設、利用方法など）	35.4%
4	イベントの様子・情報	33.4%
5	こどものスポーツ大会・コンクールなどの様子	13.8%
6	小・中学校の取り組みの紹介	13.7%
7	区内の活動団体・職人の技術紹介	13.2%
8	区の観光・まちの紹介	35.0%
9	区内に特化した災害情報	26.5%
10	その他	0.9%
11	特にない	30.7%
	無回答	2.0%

「江東ワイドスクエア」で興味のある内容を聞いたところ、「施設紹介（施設の開設、利用方法など）」（35.4%）と「区の観光・まちの紹介」（35.0%）が3割台半ばで多く、次いで「イベントの様子・情報」（33.4%）、「区の新しい取り組み」（27.2%）と続いている。一方、「特にない」（30.7%）はほぼ3割となっている。（図表 15-3-1）

図表 15-3-1 「江東ワイドスクエア」で興味のある内容（複数回答）

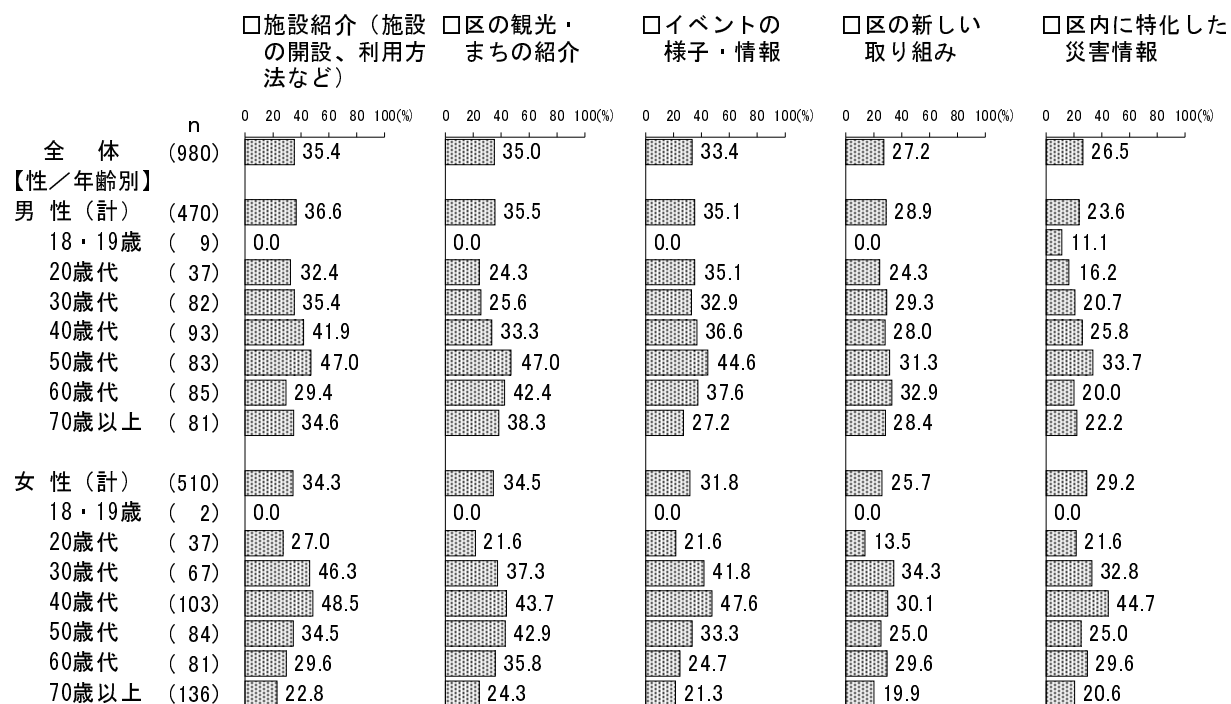


【性別・性／年齢別】

性別でみると、「区内に特化した災害情報」は女性の方が男性より6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「施設紹介（施設の開設、利用方法など）」は女性40歳代と男性50歳代で5割近くとなっている。「区の観光・まちの紹介」は男性50歳代で5割近く、「イベントの様子・情報」は女性40歳代で5割近くとなっている。（図表15-3-2）

図表15-3-2 「江東ワイドスクエア」で興味のある内容－性別・性／年齢別（上位5項目）



16 充実すべき施設

16- 1 充実すべき施設

16 充実すべき施設

16-1 充実すべき施設

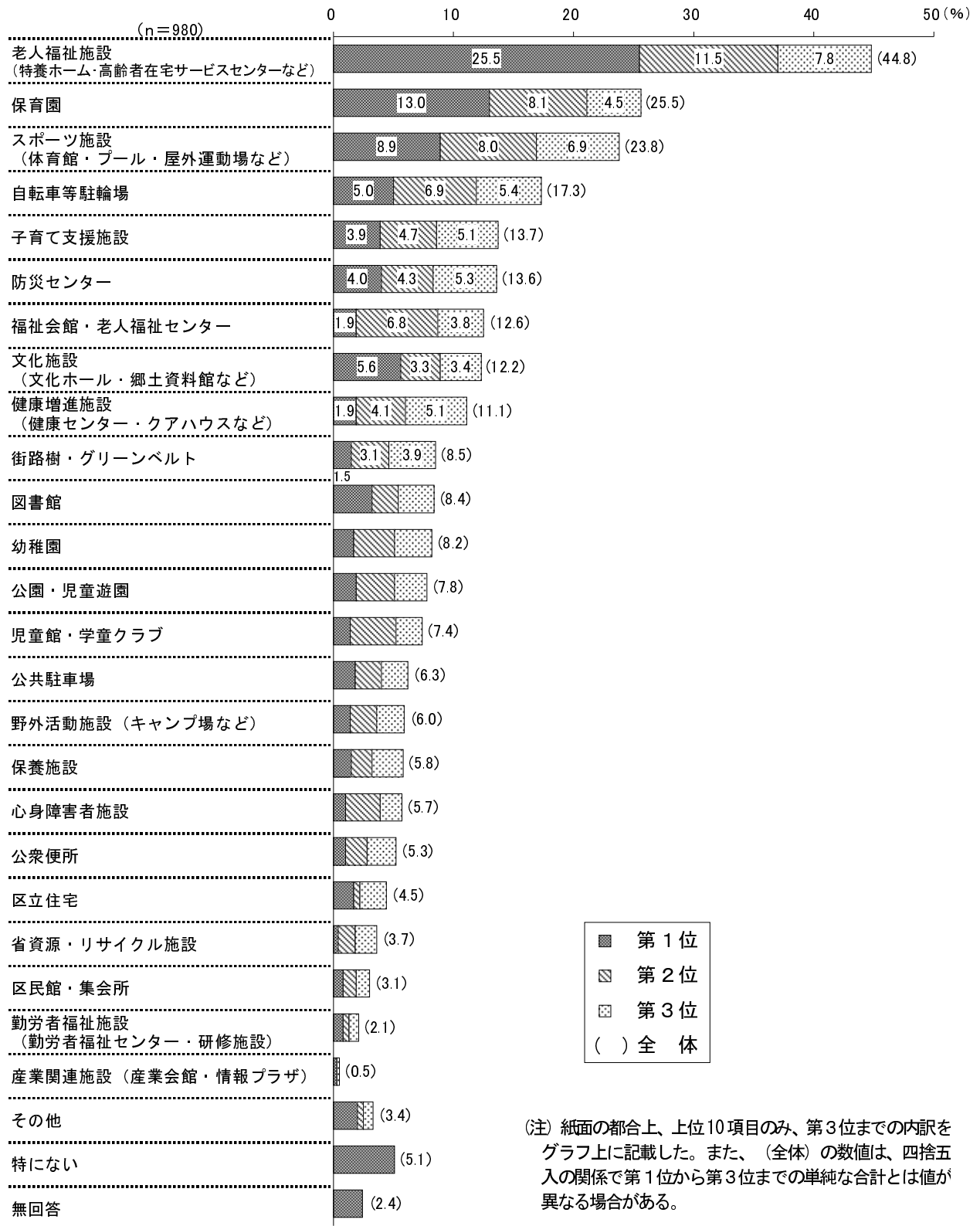
◇《全体》では「老人福祉施設(特養ホーム・高齢者在宅サービスセンターなど)」が4割台半ば

問33	今後、区でさらにどのような施設を充実させていくべきだと思いますか。次の中から3つまで選んで順位をつけて、回答欄に番号を記入してください。(回答者数=980)	第1位	第2位	第3位	全体
1	文化施設(文化ホール・郷土資料館など)	5.6%	3.3%	3.4%	12.2%
2	スポーツ施設(体育館・プール・屋外運動場など)	8.9%	8.0%	6.9%	23.8%
3	野外活動施設(キャンプ場など)	1.4%	2.2%	2.3%	6.0%
4	保育園	13.0%	8.1%	4.5%	25.5%
5	幼稚園	1.7%	3.4%	3.1%	8.2%
6	児童館・学童クラブ	1.4%	3.8%	2.2%	7.4%
7	子育て支援施設	3.9%	4.7%	5.1%	13.7%
8	公園・児童遊園	1.9%	3.2%	2.7%	7.8%
9	公衆便所	1.0%	1.8%	2.4%	5.3%
10	保養施設	1.5%	1.7%	2.6%	5.8%
11	図書館	3.2%	2.2%	3.0%	8.4%
12	産業関連施設(産業会館・情報プラザ)	0.3%	-	0.2%	0.5%
13	勤労者福祉施設(勤労者福祉センター・研修施設)	0.8%	0.5%	0.8%	2.1%
14	老人福祉施設 (特養ホーム・高齢者在宅サービスセンターなど)	25.5%	11.5%	7.8%	44.8%
15	心身障害者施設	1.0%	2.9%	1.8%	5.7%
16	福社会館・老人福祉センター	1.9%	6.8%	3.8%	12.6%
17	区民館・集会所	0.8%	1.1%	1.1%	3.1%
18	防災センター	4.0%	4.3%	5.3%	13.6%
19	公共駐車場	1.8%	2.2%	2.2%	6.3%
20	自転車等駐輪場	5.0%	6.9%	5.4%	17.3%
21	区立住宅	1.7%	0.5%	2.2%	4.5%
22	省資源・リサイクル施設	0.4%	1.4%	1.8%	3.7%
23	健康増進施設(健康センター・クアハウスなど)	1.9%	4.1%	5.1%	11.1%
24	街路樹・グリーンベルト	1.5%	3.1%	3.9%	8.5%
25	その他	2.0%	0.5%	0.8%	3.4%
26	特にない	5.1%	-	-	5.1%
	無回答	2.4%	11.7%	19.5%	2.4%

どのような施設を充実するべきだと思うか聞いたところ、【第1位】は「老人福祉施設(特養ホーム・高齢者在宅サービスセンターなど)」(25.5%)が2割台半ばで最も多く、次いで「保育園」(13.0%)、「スポーツ施設(体育館・プール・屋外運動場など)」(8.9%)と続いている。

また、第1位から第3位までを累計した《全体》でみると、「老人福祉施設（特養ホーム・高齢者在宅サービスセンターなど）」（44.8%）が4割台半ばで最も多く、次いで「保育園」（25.5%）、「スポーツ施設（体育館・プール・屋外運動場など）」（23.8%）、「自転車等駐輪場」（17.3%）と続いている。（図表16-1-1）

図表16-1-1 充実すべき施設－全体（第1位から第3位までの累計）



【地区別】

《全体》を地区別で見ると、「老人福祉施設」はすべての地区で第1位となっており、【南砂】地区で5割台半ばとなっている。「保育園」は【白河・小松橋】地区、【豊洲】地区、【大島】地区、【砂町】地区、【南砂】地区で同率も含め第2位となっている。（図表16-1-2）

図表 16-1-2 充実すべき施設—地区別（上位5項目）

属性		順位	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体			980	老人福祉施設 44.8	保育園 25.5	スポーツ施設 23.8	自転車等駐輪場 17.3	子育て支援施設 13.7
地区別	白河・小松橋		154	老人福祉施設 47.4	保育園 26.6	スポーツ施設 24.7	福祉会館・老人福祉センター 18.2	文化施設 14.9
	富岡・東陽		122	老人福祉施設 43.4	スポーツ施設 31.1	保育園 25.4	自転車等駐輪場 17.2	防災センター 15.6
	豊 洲		224	老人福祉施設 35.3	保育園 28.6	スポーツ施設 25.0	子育て支援施設 14.7	文化施設 13.8
	亀 戸		125	老人福祉施設 45.6	自転車等駐輪場 28.0	スポーツ施設 21.6	保育園 18.4	子育て支援施設 12.8
	大 島		131	老人福祉施設 45.0	保育園 25.2	スポーツ施設 24.4	自転車等駐輪場 22.9	防災センター 19.1
	砂 町		129	老人福祉施設 51.2	保育園／子育て支援施設 24.8		スポーツ施設／自転車等駐輪場 20.2	
	南 砂		95	老人福祉施設 54.7	保育園 27.4	スポーツ施設／福祉会館・老人福祉センター 16.8		自転車等駐輪場 15.8

【性別・性／年齢別】

《全体》を性別でみると、「老人福祉施設」は女性の方が男性より12ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「老人福祉施設」は女性の40歳代以上の年代と男性の50歳代以上の年代で第1位となっており、女性60歳代で7割台半ばとなっている。「保育園」は女性の20歳代と30歳代、男性30歳代で第1位、「スポーツ施設」は男性の20歳代と40歳代で第1位となっている。（図表16-1-3）

【ライフステージ別】

《全体》をライフステージ別でみると、「老人福祉施設」は家族成長後期、家族成熟期、老齡期、その他で第1位、「スポーツ施設」は独身期と家族成長前期で第1位、「保育園」は家族形成期で第1位となっている。（図表16-1-3）

図表16-1-3 充実すべき施設—性別・性／年齢別、ライフステージ別（上位5項目）

属性		順位	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体			980	老人福祉施設 44.8	保育園 25.5	スポーツ施設 23.8	自転車等駐輪場 17.3	子育て支援施設 13.7
性別	男 性		470	老人福祉施設 38.5	スポーツ施設 28.3	保育園 23.8	自転車等駐輪場 14.7	文化施設 14.0
	女 性		510	老人福祉施設 50.6	保育園 27.1	自転車等駐輪場 19.8	スポーツ施設 19.6	防災センター 14.9
性／年齢別	男	18・19歳	9	スポーツ施設 55.6	老人福祉施設 33.3	文化施設／野外活動施設／保育園／勤労者福祉施設 ／自転車等駐輪場 22.2		
		20歳代	37	スポーツ施設 51.4	保育園 27.0	野外活動施設 24.3	自転車等駐輪場 18.9	図書館 16.2
		30歳代	82	保育園 32.9	スポーツ施設 31.7	子育て支援施設 19.5	児童館・学童クラブ／自転車等駐輪場 15.9	
		40歳代	93	スポーツ施設 33.3	保育園 23.7	老人福祉施設／自転車等駐輪場 22.6		子育て支援施設 19.4
	女	50歳代	83	老人福祉施設 47.0	スポーツ施設 30.1	保育園 18.1	文化施設／防災センター ／健康増進施設 15.7	
		60歳代	85	老人福祉施設 56.5	保育園 21.2	スポーツ施設 20.0	健康増進施設 18.8	福祉会館・老人福 祉センター 16.5
		70歳以上	81	老人福祉施設 65.4	福祉会館・老人福 祉センター 28.4	保育園 22.2	文化施設 17.3	健康増進施設 13.6
		18・19歳	2	特にない 100.0				
性	20歳代	37	保育園 37.8	自転車等駐輪場 27.0	スポーツ施設 18.9	幼稚園／防災センター／健康増進 施設／街路樹・グリーンベルト 16.2		
	30歳代	67	保育園 49.3	スポーツ施設 31.3	子育て支援施設／自転車等駐輪場 26.9		児童館・学童クラブ 19.4	
	40歳代	103	老人福祉施設 40.8	自転車等駐輪場 28.2	スポーツ施設 27.2	保育園 25.2	子育て支援施設 23.3	
	50歳代	84	老人福祉施設 54.8	スポーツ施設 25.0	健康増進施設 22.6	保育園／防災センター ／自転車等駐輪 17.9		
	60歳代	81	老人福祉施設 74.1	保育園 35.8	スポーツ施設／保養施設 16.0		防災センター 14.8	
	70歳以上	136	老人福祉施設 68.4	福祉会館・老人福 祉センター 26.5	保育園 15.4	防災センター 14.0	文化施設／自転車 等駐輪場 13.2	
ライフステージ別	独 身 期	128	スポーツ施設 33.6	保育園 24.2	自転車等駐輪場 22.7	老人福祉施設 19.5	防災センター 14.8	
	家族形成期	103	保育園 53.4	スポーツ施設 31.1	子育て支援施設 29.1	児童館・学童クラブ 26.2	幼稚園 19.4	
	家族成長前期	81	スポーツ施設 45.7	自転車等駐輪場 32.1	老人福祉施設 27.2	子育て支援施設 19.8	保育園 18.5	
	家族成長後期	59	老人福祉施設 44.1	子育て支援施設／自転車等駐輪場 25.4		スポーツ施設 23.7	保育園 20.3	
	家族成熟期	92	老人福祉施設 57.6	スポーツ施設 30.4	保育園 22.8	健康増進施設 21.7	自転車等駐輪場 15.2	
	老 齡 期	315	老人福祉施設 66.3	福祉会館・老人福 祉センター 22.9	保育園 22.5	文化施設 14.6	防災センター 13.0	
	そ の 他	187	老人福祉施設 43.9	保育園 21.9	スポーツ施設 20.3	防災センター 18.2	自転車等駐輪場 17.6	

17 施策への要望

17-1 カを入れてほしい施策

17 施策への要望

17-1 力を入れてほしい施策

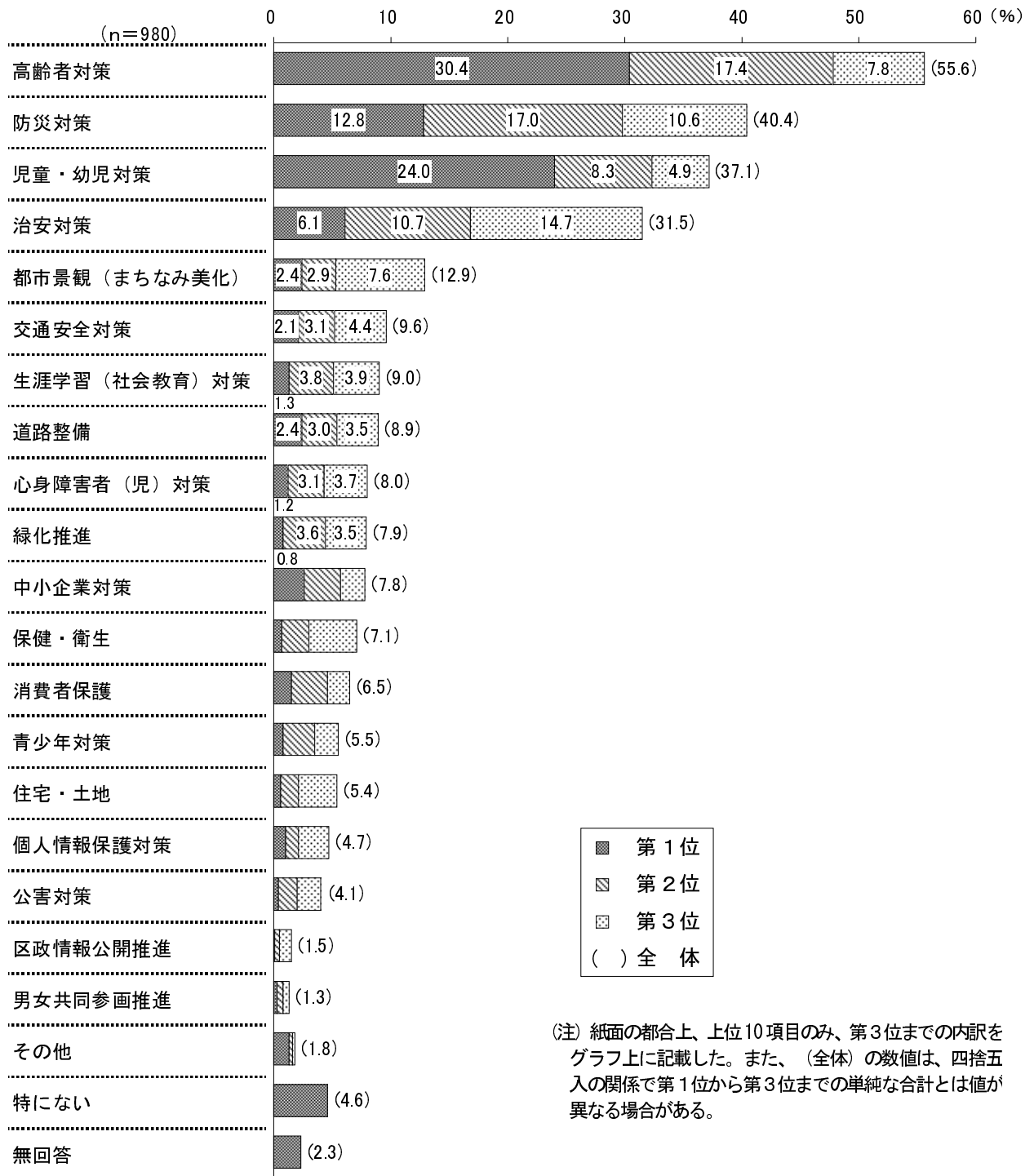
◇《全体》では「高齢者対策」が5割台半ば

問34	あなたは、どんな施策に区が特に力を入れていくべきだと思いますか。次の中から3つまで選んで順位をつけて、回答欄に番号を記入してください。(回答者数=980)	第1位	第2位	第3位	全体
1	児童・幼児対策	24.0%	8.3%	4.9%	37.1%
2	高齢者対策	30.4%	17.4%	7.8%	55.6%
3	心身障害者（児）対策	1.2%	3.1%	3.7%	8.0%
4	青少年対策	0.8%	2.7%	2.0%	5.5%
5	男女共同参画推進	0.3%	0.5%	0.5%	1.3%
6	生涯学習（社会教育）対策	1.3%	3.8%	3.9%	9.0%
7	消費者保護	1.5%	3.1%	1.9%	6.5%
8	中小企業対策	2.6%	3.1%	2.1%	7.8%
9	防災対策	12.8%	17.0%	10.6%	40.4%
10	公害対策	0.4%	1.6%	2.0%	4.1%
11	緑化推進	0.8%	3.6%	3.5%	7.9%
12	保健・衛生	0.7%	2.3%	4.1%	7.1%
13	交通安全対策	2.1%	3.1%	4.4%	9.6%
14	道路整備	2.4%	3.0%	3.5%	8.9%
15	住宅・土地	0.6%	1.5%	3.3%	5.4%
16	都市景観（まちなみ美化）	2.4%	2.9%	7.6%	12.9%
17	個人情報保護対策	1.0%	1.1%	2.6%	4.7%
18	区政情報公開推進	0.1%	0.4%	1.0%	1.5%
19	治安対策	6.1%	10.7%	14.7%	31.5%
20	その他	1.3%	0.3%	0.2%	1.8%
21	特にない	4.6%	-	-	4.6%
	無回答	2.3%	10.6%	15.8%	2.3%

区に対して特に力を入れてほしいものを聞いたところ、【第1位】は「高齢者対策」（30.4%）が3割で最も多く、次いで「児童・幼児対策」（24.0%）、「防災対策」（12.8%）と続いている。

また、第1位から第3位までを累計した《全体》でみると、「高齢者対策」(55.6%)が5割台半ばで最も多く、次いで「防災対策」(40.4%)、「児童・幼児対策」(37.1%)、「治安対策」(31.5%)と続いている。(図表17-1-1)

図表17-1-1 力を入れてほしい施策—全体(第1位から第3位までの累計)



【地区別】

《全体》を地区別で見ると、「高齢者対策」はすべての地区で第1位となっており、【南砂】地区で6割台半ばとなっている。「防災対策」は【白河・小松橋】地区、【富岡・東陽】地区、【亀戸】地区、【大島】地区で同率も含め第2位、「児童・幼児対策」は【富岡・東陽】地区、【豊洲】地区、【砂町】地区、【南砂】地区で同率も含め第2位となっている。

(図表 17-1-2)

図表 17-1-2 力を入れてほしい施策－地区別（上位5項目）

(%)

属性		順位	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体			980	高齢者対策 55.6	防災対策 40.4	児童・幼児対策 37.1	治安対策 31.5	都市景観 12.9
地区別	白河・小松橋		154	高齢者対策 57.8	防災対策 43.5	児童・幼児対策 35.1	治安対策 34.4	都市景観 12.3
	富岡・東陽		122	高齢者対策 56.6	児童・幼児対策／ 防災対策	34.4	治安対策 26.2	都市景観 19.7
	豊 洲		224	高齢者対策 48.7	児童・幼児対策 46.0	防災対策 44.2	治安対策 38.4	都市景観 14.7
	亀 戸		125	高齢者対策 52.0	防災対策 45.6	児童・幼児対策 29.6	治安対策 26.4	中小企業対策／ 都市景観 12.8
	大 島		131	高齢者対策 59.5	防災対策 40.5	治安対策 32.8	児童・幼児対策 30.5	生涯学習対策 13.0
	砂 町		129	高齢者対策 55.8	児童・幼児対策 43.4	防災対策 38.0	治安対策 33.3	交通安全対策 14.0
	南 砂		95	高齢者対策 66.3	児童・幼児対策 33.7	防災対策 30.5	治安対策 20.0	心身障害者(児)対策 10.5

【性別・性／年齢別】

《全体》を性別でみると、「高齢者対策」は女性の方が男性より8ポイント高くなっている。
 性／年齢別でみると、「高齢者対策」は女性の40歳代以上の年代と男性の50歳代以上の年代で第1位となっている。「児童・幼児対策」は女性の20歳代と30歳代、男性30歳代で第1位、「防災対策」は男性の20歳代と40歳代で第1位となっている。（図表17-1-3）

【ライフステージ別】

《全体》をライフステージ別でみると、「高齢者対策」は家族成長後期、家族成熟期、老齢期、その他で第1位となっている。「児童・幼児対策」は独身期、家族形成期、家族成長前期で同率も含め第1位、「防災対策」は独身期で同率も含め第1位となっている。

（図表17-1-3）

図表17-1-3 力を入れてほしい施策－性別・性／年齢別、ライフステージ別（上位5項目）

属性		順位	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	
全 体			980	高齢者対策 55.6	防災対策 40.4	児童・幼児対策 37.1	治安対策 31.5	都市景観 12.9	
性 別	男 性		470	高齢者対策 51.5	防災対策 39.1	児童・幼児対策 37.7	治安対策 32.3	都市景観 14.7	
	女 性		510	高齢者対策 59.4	防災対策 41.6	児童・幼児対策 36.7	治安対策 30.8	都市景観 11.2	
性／年齢別	男 性	18・19歳	9	児童・幼児対策／高齢者対策 55.6		防災対策 44.4	緑化推進／保健・衛生／個人情報保護対策／治安対策 22.2		
		20歳代	37	防災対策 37.8	児童・幼児対策／治安対策 32.4		高齢者対策 27.0	道路整備 21.6	
		30歳代	82	児童・幼児対策 56.1	防災対策 36.6	治安対策 30.5	高齢者対策 28.0	都市景観 18.3	
		40歳代	93	防災対策 45.2	治安対策 40.9	高齢者対策 35.5	児童・幼児対策 34.4	交通安全対策 19.4	
		50歳代	83	高齢者対策 60.2	児童・幼児対策 38.6	防災対策／治安対策 36.1		生涯学習対策／都市景観 13.3	
		60歳代	85	高齢者対策 69.4	防災対策 47.1	児童・幼児対策 34.1	治安対策 18.8	都市景観 14.1	
		70歳以上	81	高齢者対策 76.5	治安対策 35.8	防災対策 29.6	児童・幼児対策 25.9	中小企業対策／保健・衛生／都市景観 11.1	
	女 性	18・19歳	2	特にな 100.0					
		20歳代	37	児童・幼児対策 51.4	防災対策 45.9	治安対策 40.5	高齢者対策 32.4	保健・衛生／個人情報保護対策 10.8	
		30歳代	67	児童・幼児対策 76.1	防災対策 40.3	高齢者対策 29.9	治安対策 26.9	都市景観 16.4	
		40歳代	103	高齢者対策 53.4	防災対策 50.5	児童・幼児対策 39.8	治安対策 32.0	交通安全対策 13.6	
		50歳代	84	高齢者対策 65.5	防災対策 47.6	治安対策 35.7	児童・幼児対策 28.6	心身障害者(児)対策 13.1	
		60歳代	81	高齢者対策 77.8	防災対策 40.7	児童・幼児対策 33.3	治安対策 30.9	生涯学習対策 13.6	
		70歳以上	136	高齢者対策 72.1	防災対策 31.6	治安対策 26.5	児童・幼児対策 18.4	都市景観 14.0	
ライフステージ別	独 身 期	128	児童・幼児対策／防災対策 37.5		高齢者対策 32.8	治安対策 31.3	都市景観 16.4		
	家族形成期	103	児童・幼児対策 79.6	防災対策 40.8	治安対策 33.0	高齢者対策 27.2	都市景観 14.6		
	家族成長前期	81	児童・幼児対策 53.1	防災対策 49.4	高齢者対策 38.3	治安対策 37.0	生涯学習対策／交通安全対策 13.6		
	家族成長後期	59	高齢者対策 54.2	防災対策 49.2	児童・幼児対策 44.1	治安対策 28.8	青少年対策 15.3		
	家族成熟期	92	高齢者対策 66.3	防災対策 42.4	児童・幼児対策 34.8	治安対策 22.8	中小企業対策／都市景観 13.0		
	老 齢 期	315	高齢者対策 74.9	防災対策 34.6	治安対策 29.8	児童・幼児対策 26.0	都市景観 12.7		
	そ の 他	187	高齢者対策 55.1	防災対策 44.9	治安対策 36.9	児童・幼児対策 24.6	都市景観 14.4		